

JP1 Version 11

JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server

解説・文法書

3021-3-A61

前書き

■ 対象製品

●JP1/Performance Management - Manager (適用 OS : Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012)

P-2A2C-AABL JP1/Performance Management - Manager 11-00

製品構成一覧および内訳形名

P-CC2A2C-5ABL JP1/Performance Management - Manager 11-00

P-CC2A2C-5RBL JP1/Performance Management - Web Console 11-00

●JP1/Performance Management - Manager (適用 OS : CentOS 6 (x64), CentOS 7, Linux 6 (x64), Linux 7, Oracle Linux 6 (x64), Oracle Linux 7, SUSE Linux 12)

P-812C-AABL JP1/Performance Management - Manager 11-00

製品構成一覧および内訳形名

P-CC812C-5ABL JP1/Performance Management - Manager 11-00

P-CC812C-5RBL JP1/Performance Management - Web Console 11-00

●JP1/Performance Management - Manager (適用 OS : AIX V6.1, AIX V7.1)

P-1M2C-AABL JP1/Performance Management - Manager 11-00

製品構成一覧および内訳形名

P-CC1M2C-5ABL JP1/Performance Management - Manager 11-00

P-CC1M2C-5RBL JP1/Performance Management - Web Console 11-00

●JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server (適用 OS : Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012)

P-2A2C-CYB4 JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server 11-00

製品構成一覧および内訳形名

P-CC2A2C-FYB4 JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server 11-00

P-CC2A2C-AJBL JP1/Performance Management - Base 11-00

これらの製品には、他社からライセンスを受けて開発した部分が含まれています。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, Cosminexus, HiRDB, JP1, OpenTP1, uCosminexus は、(株)日立製作所の商標または登録商標です。

IBM は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM, AIX は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

IBM, DB2 は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft Exchange Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft および Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ODBC は、米国 Microsoft Corporation が提唱するデータベースアクセス機構です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

SUSE は、米国およびその他の国における SUSE LLC の登録商標または商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

プログラムプロダクト「P-9D2C-AAA1, P-9D2C-AJA1, P-9D2C-ARA1」には、Oracle Corporation またはその子会社、関連会社が著作権を有している部分が含まれています。

プログラムプロダクト「P-9D2C-AAA1, P-9D2C-AJA1, P-9D2C-ARA1」には、UNIX System Laboratories, Inc.が著作権を有している部分が含まれています。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記		製品名
Hyper-V		Microsoft(R) Hyper-V(TM) 1.0
		Microsoft(R) Hyper-V(TM) 2.0
IIS		Microsoft(R) Internet Information Server
Internet Explorer		Windows(R) Internet Explorer(R)
WSFC		Microsoft(R) Windows Server(R) Failover Cluster
Outlook		Microsoft(R) Outlook(R)
Windows Server 2008	Windows Server 2008 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
Windows Server 2012	Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard
	Windows Server 2012 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard
WSFC		Windows Server(R) Failover Cluster

Windows Server 2008 および Windows Server 2012 を総称して、Windows と表記することがあります。

■ 発行

2016 年 1 月 3021-3-A61

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2016, Hitachi, Ltd.

All Rights Reserved. Copyright (C) 2016, NEC Corporation.

はじめに

このマニュアルは、JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server の機能や収集レコードなどについて説明したものです。

■ 対象読者

このマニュアルは、次の方を対象としています。

- JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server の機能および収集レコードについて知りたい方
- JP1/Performance Management を使用したシステムを構築、運用して、Microsoft(R) Internet Information Server のパフォーマンスデータを収集したい方

また、Microsoft(R) Internet Information Server について熟知していることを前提としています。

なお、JP1/Performance Management を使用したシステムの構築、運用方法については、次のマニュアルもあわせてご使用ください。

- JP1/Performance Management 設計・構築ガイド
- JP1/Performance Management 運用ガイド
- JP1/Performance Management リファレンス

■ マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す編から構成されています。なお、このマニュアルは各 OS (Operating System) に共通のマニュアルです。OS ごとに差異がある場合は、本文中でそのつど内容を書き分けています。

第 1 編 概要編

JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server の概要について説明しています。

第 2 編 構築・運用編

JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server のインストールとセットアップ、およびクラスタシステムでの運用について説明しています。

第 3 編 リファレンス編

JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server の監視テンプレート、収集レコード、およびメッセージについて説明しています。

第 4 編 トラブルシューティング編

JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server でトラブルが発生したときの対処方法について説明しています。

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて編を選択して読むことができます。利用目的別にお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server の特長を知りたい。	第 1 編
JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server の機能概要を知りたい。	第 1 編
JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server の導入時の作業を知りたい。	第 2 編
JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server の監視テンプレートについて知りたい。	第 3 編
JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server の収集レコードについて知りたい。	第 3 編
JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server のメッセージについて知りたい。	第 3 編
JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server でトラブルが発生したときの対処方法について知りたい。	第 4 編

■ このマニュアルで使用する書式

このマニュアルで使用する書式を次に示します。

書式	説明
文字列	可変の値を示します。 (例) 日付は YYYYMMDD の形式で指定します。
[]	ウィンドウ、ダイアログボックス、タブ、メニュー、ボタンなどの画面上の要素名を示します。
[] - []	メニューを連続して選択することを示します。 (例) [ファイル] - [新規作成] を選択します。 上記の例では、[ファイル] メニュー内の [新規作成] を選択することを示します。

目次

前書き	2
はじめに	5

第1編 概要編

1	PFM - Agent for IIS の概要	14
1.1	PFM - Agent for IIS の特長	15
1.1.1	IIS のパフォーマンスデータを収集できます	15
1.1.2	パフォーマンスデータの性質に応じた方法で収集できます	16
1.1.3	パフォーマンスデータを保存できます	16
1.1.4	IIS の運用上の問題点を通知できます	17
1.1.5	アラームおよびレポートが容易に定義できます	17
1.1.6	クラスタシステムで運用できます	18
2	パフォーマンス監視	19
2.1	パフォーマンス監視について	20
2.1.1	パフォーマンス監視の目的	20
2.1.2	ベースラインの選定	21
2.2	監視テンプレートについて	22
2.3	パフォーマンス監視の例	23
2.3.1	稼働状況監視の例	23
2.3.2	性能情報監視の例	23

第2編 構築・運用編

3	インストールとセットアップ	25
3.1	インストールとセットアップの流れ	26
3.2	インストールの前に確認すること	28
3.2.1	前提 OS	28
3.2.2	ネットワーク環境の設定	28
3.2.3	インストールに必要な OS ユーザー権限	30
3.2.4	前提プログラム	30
3.2.5	クラスタシステムでのインストールとセットアップについて	31
3.2.6	障害発生時の資料採取の準備	32
3.2.7	インストール前の注意事項	33
3.3	インストール	36

- 3.3.1 プログラムのインストール順序 36
- 3.3.2 PFM - Agent for IIS のインストール手順 36
- 3.4 セットアップ 38
 - 3.4.1 言語環境の設定 38
 - 3.4.2 PFM - Manager および PFM - Web Console への PFM - Agent for IIS の登録 38
 - 3.4.3 ネットワークの設定 **オプション** 41
 - 3.4.4 ログのファイルサイズ変更 **オプション** 41
 - 3.4.5 パフォーマンスデータの格納先の変更 **オプション** 42
 - 3.4.6 PFM - Agent for IIS の接続先 PFM - Manager の設定 42
 - 3.4.7 動作ログ出力の設定 **オプション** 43
- 3.5 アンインストール 44
 - 3.5.1 アンインストール前の注意事項 44
 - 3.5.2 接続先 PFM - Manager の解除 45
 - 3.5.3 アンインストール手順 45
- 3.6 PFM - Agent for IIS のシステム構成の変更 47
- 3.7 PFM - Agent for IIS の運用方式の変更 48
 - 3.7.1 パフォーマンスデータの格納先の変更 48
 - 3.7.2 Store バージョン 2.0 への移行 51
- 3.8 バックアップとリストア 54
 - 3.8.1 バックアップ 54
 - 3.8.2 リストア 55
- 3.9 Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定 56
 - 3.9.1 マニュアルを参照するための設定 56
 - 3.9.2 マニュアルの参照手順 57

4 クラスタシステムでの運用 58

- 4.1 クラスタシステムの概要 59
 - 4.1.1 HA クラスタシステム 59
- 4.2 フェールオーバー時の処理 61
 - 4.2.1 障害が発生した場合のフェールオーバー 61
 - 4.2.2 PFM - Manager が停止した場合の影響 62
- 4.3 インストールとセットアップ 63
 - 4.3.1 インストールから運用開始までの流れ 63
 - 4.3.2 インストールを始める前に 65
 - 4.3.3 インストール 67
 - 4.3.4 セットアップ 68
- 4.4 アンインストールとアンセットアップ 75
 - 4.4.1 PFM - Agent for IIS のアンインストールとアンセットアップの流れ 75
 - 4.4.2 PFM - Agent for IIS のアンセットアップ 76

- 4.4.3 アンインストール 81
- 4.5 PFM - Agent for IIS の運用方式の変更 82
- 4.5.1 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポート 82

第3編 リファレンス編

5 監視テンプレート 83

- アラームの記載形式 84
- アラーム一覧 85
- APNT Errors/sec 86
- APNT Reqs Queued 88
- APNT Reqs Rejected 89
- ASP Errors/sec 91
- ASP Reqs Queued 93
- ASP Reqs Rejected 95
- Logical Disk Queue 97
- Mem Available Bytes 98
- Pages Reads/sec 100
- Physical Disk Queue 102
- レポートの記載形式 103
- レポートのフォルダ構成 104
- レポート一覧 107
- APNT Condition(5.0) 112
- APNT Condition Detail(5.0) 113
- APNT Condition Summary(5.0) 115
- APNT Reqs Trend(5.0) 116
- APNT Trans Trend(5.0) 117
- ASP Condition 118
- ASP Condition Detail 119
- ASP Condition Summary 120
- ASP Reqs Trend 121
- ASP Trans Trend 122
- Bandwidth Throttling Trend 123
- Cache Summary 124
- Cache Trend (キャッシュに関する 1 日ごとの情報) 125
- Cache Trend (キャッシュに関する 1 時間ごとの情報) 126
- Data Link Status 127
- FTP Bytes 128
- FTP Bytes Trend (FTP サイトの 1 日ごとの平均バイト数) 129
- FTP Bytes Trend (FTP サービスの 1 時間ごとの状況) 130
- FTP Conns 131
- FTP Conns Trend (FTP サイトの 1 日ごとの接続状況) 132
- FTP Conns Trend (FTP サービスの 1 時間ごとの接続状況) 133
- FTP Files 134
- FTP Files Trend (FTP サイトの 1 日ごとの平均ファイル数) 135

FTP Files Trend (FTP サービスの 1 時間ごとの平均ファイル数)	136
FTP Users Detail	137
FTP Users Trend	138
HTTP Not-Found Errors Trend	139
Internet Status	140
Internet Trend (インターネットの 1 日ごとの使用状況)	141
Internet Trend (インターネットの 1 時間ごとの使用状況)	142
Logical Disk	143
Logical Disk Detail	144
Logical Disk Summary	145
Logical Disk Trend (Logical Disk の 1 日ごとの平均使用状況)	146
Logical Disk Trend (Logical Disk の 1 時間ごとの平均使用状況)	147
Memory(5.0)	148
Memory Cache Summary(5.0)	149
Memory Cache Trend(5.0) (メモリーキャッシュに関する 1 日ごとの情報)	150
Memory Cache Trend(5.0) (メモリーキャッシュに関する 1 時間ごとの情報)	151
Memory Summary(5.0)	152
Memory Trend(5.0) (システムの 1 日ごとのメモリー使用状況)	153
Memory Trend(5.0) (システムの 1 時間ごとのメモリー使用状況)	154
Memory Usage Status(5.0)	155
Network Trend	156
Physical Disk	157
Physical Disk Detail	158
Physical Disk Summary	159
Physical Disk Trend (Physical Disk の 1 日ごとの平均使用状況)	160
Physical Disk Trend (Physical Disk の 1 時間ごとの平均使用状況)	161
Process Info Inetinfo Trend	162
Processor	163
Processor Detail	164
Processor Summary	165
Processor Trend	166
SMTP Bytes Trend (SMTP の 1 日ごとの平均バイト転送量)	167
SMTP Bytes Trend (SMTP の 1 時間ごとの平均バイト転送量)	168
SMTP Messages Trend (SMTP Messages の 1 日ごとの使用状況)	169
SMTP Messages Trend (SMTP Messages の 1 時間ごとの使用状況)	170
TCP Conns Trend	171
TCP Trend	172
Thread Count Status	173
Thread Count Trend	174
Thread Info Status	175
Web Bytes	176
Web Bytes Trend (Web サイトの 1 日ごとの平均バイト数)	177
Web Bytes Trend (Web サービスの 1 時間ごとの状況)	178
Web Conns	179
Web Conns Trend (Web サイトの 1 日ごとの接続状況)	180

Web Conns Trend (Web サービスの 1 時間ごとの接続状況)	181
Web Files	182
Web Files Trend (Web サイトの 1 日ごとの平均ファイル数)	183
Web Files Trend (Web サービスの 1 時間ごとの平均ファイル数)	184
Web Users Detail	185
Web Users Trend (Web Users の 1 日ごとの平均使用状況)	186
Web Users Trend (Web Users の 1 時間ごとの平均使用状況)	187
WWW Cache Status(5.0)	188
WWW Cache Trend(5.0) (WWW サービスの 1 日ごとの使用状況)	189
WWW Cache Trend(5.0) (WWW サービスの 1 時間ごとの使用状況)	190

6

レコード 191

データモデルについて	192
レコードの記載形式	193
ODBC キーフィールド一覧	196
要約ルール	197
データ型一覧	200
フィールドの値	201
Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド	203
Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると出力されるフィールド	205
レコードの注意事項	206
レコード一覧	207
Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)	210
Application Layer Overview (PI_TRAL)	213
ASP.NET Throughput (PI_APNT)	215
DataLink Layer Overview (PD_TRDL)	219
File System Cache (PI)	221
FTP User Overview (PI_ANAF)	223
IIS Bandwidth Throttling (PI_BT)	225
IIS File Transfer (PI_FLTR)	227
IIS Thread Count (PI_TCNT)	229
IIS Thread Details (PD)	231
IIS WorkingSet (PI_WS)	233
Logical Disk Overview (PI_LGDP)	235
Monitoring Connection (PI_CONN)	237
Network Layer Overview (PI_TRNL)	239
Not Found Errors (PI_NFE)	241
Physical Disk Overview (PI_PYDP)	243
Processor Activity (PI_PA)	245
TCP Connection Overview (PI_TCPC)	247
Transport Layer Overview (PI_TRTL)	249
Web User Overview (PI_ANAW)	251
WWW Service Cache (PI_WSC)	253
IIS7.5 環境のレコード収集可否表	255
IIS8.0 環境のレコード収集可否表	263

- 7 メッセージ 279**
- 7.1 メッセージの形式 280
- 7.1.1 メッセージの出力形式 280
- 7.1.2 メッセージの記載形式 281
- 7.2 メッセージの出力先一覧 282
- 7.3 Windows イベントログの一覧 284
- 7.4 メッセージ一覧 285

第4編 トラブルシューティング編

- 8 トラブルへの対処方法 291**
- 8.1 対処の手順 292
- 8.2 トラブルシューティング 293
- 8.2.1 PFM - Agent を起動してもパフォーマンスデータが収集されない 293
- 8.2.2 その他のトラブルに関するトラブルシューティング 295
- 8.3 トラブルシューティング時に採取するログ情報 296
- 8.3.1 トラブルシューティング時に採取するログ情報の種類 296
- 8.3.2 トラブルシューティング時に参照するログファイルおよびフォルダー一覧 297
- 8.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料 300
- 8.4.1 トラブルシューティング時に採取する OS のログ情報 300
- 8.4.2 トラブルシューティング時に採取する Performance Management の情報 301
- 8.4.3 トラブルシューティング時に採取するオペレーション内容 302
- 8.4.4 トラブルシューティング時に採取する画面上のエラー情報 303
- 8.4.5 トラブルシューティング時に採取するその他の情報 303
- 8.5 トラブルシューティング時に採取する資料の採取方法 304
- 8.5.1 トラブルシューティング時のダンプ情報の採取方法 304
- 8.5.2 資料採取コマンドの実行によるトラブルシューティング資料の採取方法 304
- 8.5.3 資料採取コマンドの実行によるトラブルシューティング資料の採取方法 (論理ホスト運用の場合) 305
- 8.5.4 トラブルシューティング時の Windows イベントログ資料の採取方法 306
- 8.5.5 トラブルシューティング時に確認するオペレーション内容の採取方法 306
- 8.5.6 トラブルシューティング時の画面上のエラー情報の採取方法 306
- 8.5.7 トラブルシューティング時に採取するその他の資料の採取方法 307
- 8.6 Performance Management の障害検知 308
- 8.7 Performance Management システムの障害回復 309

付録 310

- 付録 A 構築前のシステム見積もり 311
- 付録 A.1 メモリー所要量 311

付録 A.2	ディスク占有量	311
付録 A.3	クラスタ運用時のディスク占有量	311
付録 B	識別子一覧	312
付録 C	プロセス一覧	313
付録 D	ポート番号一覧	314
付録 D.1	Performance Management のポート番号	314
付録 D.2	ファイアウォールの通過方向	314
付録 E	PFM - Agent for IIS のプロパティ	315
付録 E.1	Agent Store サービスのプロパティ一覧	315
付録 E.2	Agent Collector サービスのプロパティ一覧	320
付録 F	ファイルおよびフォルダ一覧	330
付録 G	バージョンアップ手順とバージョンアップ時の注意事項	332
付録 H	バージョン互換	333
付録 I	動作ログの出力	334
付録 I.1	動作ログに出力される事象の種別	334
付録 I.2	動作ログの保存形式	334
付録 I.3	動作ログの出力形式	335
付録 I.4	動作ログを出力するための設定	340
付録 J	JP1/SLM との連携	343
付録 K	各バージョンの変更内容	344
付録 K.1	11-00 の変更内容	344
付録 K.2	10-00 の変更内容	345
付録 K.3	09-50 の変更内容	345
付録 K.4	09-00-03 の変更内容	346
付録 K.5	09-00-02 の変更内容	346
付録 K.6	09-00-01 の変更内容	346
付録 K.7	09-00 の変更内容	346
付録 L	このマニュアルの参考情報	348
付録 L.1	関連マニュアル	348
付録 L.2	このマニュアルでの表記	348
付録 L.3	このマニュアルで使用する英略語	351
付録 L.4	このマニュアルでのプロダクト名, サービス ID, およびサービスキーの表記	351
付録 L.5	Performance Management インストール先フォルダの表記	352
付録 L.6	KB (キロバイト) などの単位表記について	352
付録 M	用語解説	353

索引 361

1

PFM - Agent for IIS の概要

この章では、PFM - Agent for IIS の概要について説明します。

1.1 PFM - Agent for IIS の特長

PFM - Agent for IIS は、IIS のパフォーマンスを監視するために、パフォーマンスデータを収集および管理するプログラムです。

PFM - Agent for IIS の特長を次に示します。

- IIS の稼働状況を分析できる
監視対象の IIS から、Working Set についてのページフォールトの状況や、Web、FTP の接続状況などのパフォーマンスデータを、PFM - Agent for IIS で収集および集計し、その傾向や推移を図示することで、IIS の稼働状況の分析が容易にできます。
- IIS の運用上の問題点を早期に発見し、原因を調査する資料を提供できる
監視対象の IIS で、システムリソースが不足するなどのパフォーマンスの低下が発生した場合、Eメールなどを使ってユーザーに通知することで、問題点を早期に発見できます。また、その問題点に関連する情報を図示することで、原因を調査する資料を提供できます。

PFM - Agent for IIS を使用するには、PFM - Manager および PFM - Web Console が必要です。

PFM - Agent for IIS について次に説明します。

1.1.1 IIS のパフォーマンスデータを収集できます

PFM - Agent for IIS を使用すると、IIS のシステムリソースなどのパフォーマンスデータが収集できます。

PFM - Agent for IIS では、パフォーマンスデータは、次のように利用できます。

- IIS の稼働状況をグラフィカルに表示する
パフォーマンスデータは、PFM - Web Console を使用して、「レポート」と呼ばれるグラフィカルな形式に加工し、表示できます。レポートによって、IIS の稼働状況がよりわかりやすく分析できるようになります。
レポートには、次の種類があります。
 - リアルタイムレポート
監視している IIS の現在の状況を示すレポートです。主に、システムの現在の状態や問題点を確認するために使用します。リアルタイムレポートの表示には、収集した時点のパフォーマンスデータが直接使用されます。
 - 履歴レポート
監視している IIS の最近から現在までの状況を示すレポートです。主に、システムの傾向を分析するために使用します。履歴レポートの表示には、PFM - Agent for IIS のデータベースに格納されたパフォーマンスデータが使用されます。
- 問題が起こったかどうかの判定条件として使用する

収集されたパフォーマンスデータの値が何らかの異常を示した場合、ユーザーに通知するなどの処置を取るように設定できます。

1.1.2 パフォーマンスデータの性質に応じた方法で収集できます

パフォーマンスデータは、「レコード」の形式で収集されます。各レコードは、「フィールド」と呼ばれるさらに細かい単位に分けられます。レコードおよびフィールドの総称を「データモデル」と呼びます。

レコードは、性質によって2つのレコードタイプに分けられます。どのレコードタイプでどのパフォーマンスデータが収集されるかは、PFM - Agent for IIS で定義されています。ユーザーは、PFM - Web Console を使用して、どのパフォーマンスデータのレコードを収集するか選択します。

PFM - Agent for IIS のレコードタイプを次に示します。

- Product Interval レコードタイプ (以降、PI レコードタイプと省略します)
PI レコードタイプのレコードには、1分ごとのプロセス数など、ある一定の時間 (インターバル) ごとのパフォーマンスデータが収集されます。PI レコードタイプは、時間の経過に伴うシステムの状態の変化や傾向を分析したい場合に使用します。
- Product Detail レコードタイプ (以降、PD レコードタイプと省略します)
PD レコードタイプのレコードには、現在起動しているプロセスの詳細情報など、ある時点でのシステムの状態を示すパフォーマンスデータが収集されます。PD レコードタイプは、ある時点でのシステムの状態を知りたい場合に使用します。

各レコードについては、「6. レコード」を参照してください。

1.1.3 パフォーマンスデータを保存できます

収集したパフォーマンスデータを、PFM - Agent for IIS の「Store データベース」と呼ばれるデータベースに格納することで、現在までのパフォーマンスデータを保存し、IIS の稼働状況について、過去から現在までの傾向を分析できます。傾向を分析するためには、履歴レポートを使用します。

ユーザーは、PFM - Web Console を使用して、どのパフォーマンスデータのレコードを Store データベースに格納するか選択します。PFM - Web Console でのレコードの選択方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

1.1.4 IIS の運用上の問題点を通知できます

PFM - Agent for IIS で収集したパフォーマンスデータは、IIS のパフォーマンスをレポートとして表示するのに利用できるだけでなく、IIS を運用していて問題が起こったり、障害が発生したりした場合にユーザーに警告することもできます。

例えば、システムリソースの空きが 10%を下回った場合、ユーザーに E メールで通知するとします。このように運用するために、「システムリソースの空きが 10%未満」を異常条件のしきい値として、そのしきい値に達した場合、E メールをユーザーに送信するように設定します。しきい値に達した場合に取る動作を「アクション」と呼びます。アクションには、次の種類があります。

- Eメールの送信
- コマンドの実行
- SNMP トラップの発行
- イベントの発行

しきい値やアクションを定義したものを「アラーム」と呼びます。1つ以上のアラームを1つのテーブルにまとめたものを「アラームテーブル」と呼びます。アラームテーブルを定義したあと、PFM - Agent for IIS と関連づけます。アラームテーブルと PFM - Agent for IIS とを関連づけることを「バインド」と呼びます。バインドすると、PFM - Agent for IIS によって収集されているパフォーマンスデータが、アラームで定義したしきい値に達した場合、ユーザーに通知できるようになります。

このように、アラームおよびアクションを定義することで、IIS の運用上の問題を早期に発見し、対処できます。

アラームおよびアクションの設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、アラームの定義と操作について説明している章を参照してください。

1.1.5 アラームおよびレポートが容易に定義できます

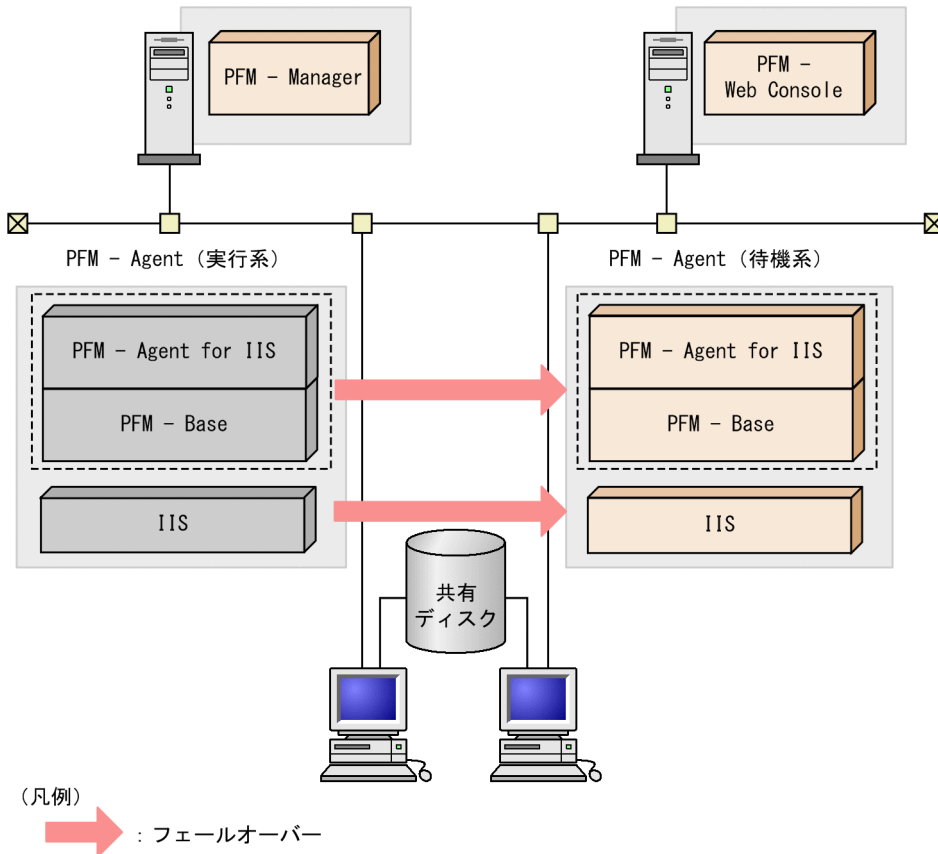
PFM - Agent for IIS では、「監視テンプレート」と呼ばれる、必要な情報があらかじめ定義されたレポートおよびアラームを提供しています。この監視テンプレートを使用することで、複雑な定義をしなくても IIS の運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。監視テンプレートは、ユーザーの環境に合わせてカスタマイズすることもできます。監視テンプレートの使用方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働分析のためのレポートの作成またはアラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。また、監視テンプレートの詳細については、「[5. 監視テンプレート](#)」を参照してください。

1.1.6 クラスタシステムで運用できます

クラスタシステムを使うと、システムに障害が発生した場合にも継続して業務を運用できる、信頼性の高いシステムが構築できます。このため、システムに障害が発生した場合でも Performance Management の 24 時間稼働および 24 時間監視ができます。

クラスタシステムでホストに障害が発生した場合の運用例を次の図に示します。

図 1-1 クラスタシステムの運用例



同じ設定の環境を 2 つ構築し、通常運用する方を「実行系ノード」、障害発生時に使う方を「待機系ノード」として定義しておきます。

クラスタシステムでの Performance Management の運用の詳細については、「[4. クラスタシステムでの運用](#)」を参照してください。

2

パフォーマンス監視

この章では、PFM - Agent for IIS によるパフォーマンス監視について説明します。

2.1 パフォーマンス監視について

パフォーマンスデータの収集方法と管理方法は、パフォーマンスデータが格納されるレコードのレコードタイプによって異なります。PFM - Agent for IIS のレコードは、次の2つのレコードタイプに分けられます。

- PI レコードタイプ
- PD レコードタイプ

パフォーマンスデータの収集方法と管理方法を次に示します。

- パフォーマンスデータの収集方法
パフォーマンスデータの収集方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。収集されるパフォーマンスデータの値については、「6. レコード」を参照してください。
- パフォーマンスデータの管理方法
パフォーマンスデータの管理方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

PFM - Agent で収集および管理されているレコードのうち、どのパフォーマンスデータを利用するかは、PFM - Web Console で選択します。選択方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

システムを安定稼働させるためには、パフォーマンスを監視してシステムの状態を把握することが重要です。ここでは、PFM - Agent for IIS を用いたパフォーマンス監視の目的を紹介します。

2.1.1 パフォーマンス監視の目的

パフォーマンスを監視することは、IIS のシステム環境の構築や管理で重要な作業です。

PFM - Agent for IIS を用いたパフォーマンス監視は、主に次の目的で使用できます。

- IIS のシステムが正常に運用されているかどうかを監視する稼働状況監視
- IIS のシステムが十分なサービスを提供しているかどうかを監視する性能情報監視

IIS のシステムを運用する場合、IIS のシステムを構成する要素が正しく稼働しているか、また、IIS のシステムが十分な性能のサービスを提供しているかどうかを確認することは、大変重要なことです。

このように、IIS のシステムを安定稼働させるには、PFM - Agent for IIS を用いて正しくパフォーマンスを監視することが重要です。

ここでは、PFM - Agent for IIS を用いてパフォーマンスを監視し、IIS のシステムを安定稼働させる方法について紹介します。

パフォーマンスの監視方法について、例を挙げて紹介しますが、しきい値はあくまで参考値です。具体的なしきい値については、ベースラインを測定し決定してください。

また、具体的な設定項目については、IIS のシステムの運用形態に合わせて、検討してください。

2.1.2 ベースラインの選定

ベースラインの選定とは、システム運用で問題なしと想定されるラインをパフォーマンス測定結果から選定する作業です。

PFM 製品では、ベースラインの値をしきい値とすることでシステムの運用監視をします。ベースラインの選定はしきい値を決定し、パフォーマンス監視をする上での重要な作業となります。

なお、ベースラインの選定では、次の注意事項を考慮してください。

- 運用環境の高負荷テスト時など、ピーク時の状態を測定することをお勧めします。
- システム構成によってしきい値が大きく異なるため、システムリソースや運用環境を変更する場合は、再度ベースラインを測定することをお勧めします。

2.2 監視テンプレートについて

Performance Management では、次の方法でアラームとレポートを定義できます。

- PFM - Agent で定義されているアラームやレポートをそのまま使用する
- PFM - Agent で定義されているアラームやレポートをコピーしてカスタマイズする
- ウィザードを使用して新規に定義する

PFM - Agent で用意されているアラームやレポートを「監視テンプレート」と呼びます。監視テンプレートのレポートとアラームは、必要な情報があらかじめ定義されているので、コピーしてそのまま使用したり、ユーザーの環境に合わせてカスタマイズしたりできます。そのため、ウィザードを使用して新規に定義をしなくても、監視対象の運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。

PFM - Agent for IIS で定義されている監視テンプレートのアラームとレポートの設定内容については、「[5. 監視テンプレート](#)」を参照してください。監視テンプレートの使用方法の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働分析のためのレポートの作成およびアラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

■ 注意事項

監視テンプレートのアラームに設定されているしきい値は参考例です。監視テンプレートのアラームを使用する場合は、コピーして、環境や OS に合わせて適切なしきい値を設定してください。

2.3 パフォーマンス監視の例

ここでは、PFM - Agent for IIS によるパフォーマンス監視の例について説明します。

2.3.1 稼働状況監視の例

ここでは、稼働状況監視の設定例を紹介します。

(1) 必要なメモリー空き容量があるか

必要なメモリー空き容量があるかを監視するレコードとフィールド、および異常時の対処方法を次に示します。

表 2-1 メモリー空き容量を監視する設定例

使用レコード	使用フィールド	異常値
PI_WS	Memory Available Bytes	4,194,304 以下

対処方法

使用可能なメモリーが少ないため、メモリーを追加するか、不要処理を終了させるなど、システム上の作業負荷を軽減してください。

(2) ハードページフォールト

ハードページフォールトを監視するレコードとフィールド、および異常時の対処方法を次に示します。

表 2-2 ハードページフォールトを監視する設定例

使用レコード	使用フィールド	異常値
PI_WS	Memory Page Reads/sec	6 以上

対処方法

ハードページフォールトの発生が多いため、メモリーを追加するか、不要処理を終了させるなど、システム上の作業負荷を軽減してください。

2.3.2 性能情報監視の例

ここでは、性能情報監視の設定例を紹介します。

(1) Web サービスが送受信したバイト数

Web サービスが送受信したバイト数を監視するレコードとフィールド、および異常時の対処方法を次に示します。

表 2-3 Web サービスが送受信したバイト数を監視する設定例

使用レコード	使用フィールド	異常値
PI_TRAL	Web - Bytes Total/sec	—

(凡例)

—：なし

対処方法

異常値はシステム構成によって大きく異なります。数値が 0 の場合、Web サービスの正常動作を確認してください。

(2) FTP サービスが送受信したバイト数

FTP サービスが送受信したバイト数を監視するレコードとフィールド、および異常時の対処方法を次に示します。

表 2-4 FTP サービスが送受信したバイト数を監視する設定例

使用レコード	使用フィールド	異常値
PI_TRAL	Bytes Total/sec	—

(凡例)

—：なし

対処方法

異常値はシステム構成によって大きく異なります。数値が 0 の場合、FTP サービスの正常動作を確認してください。

3

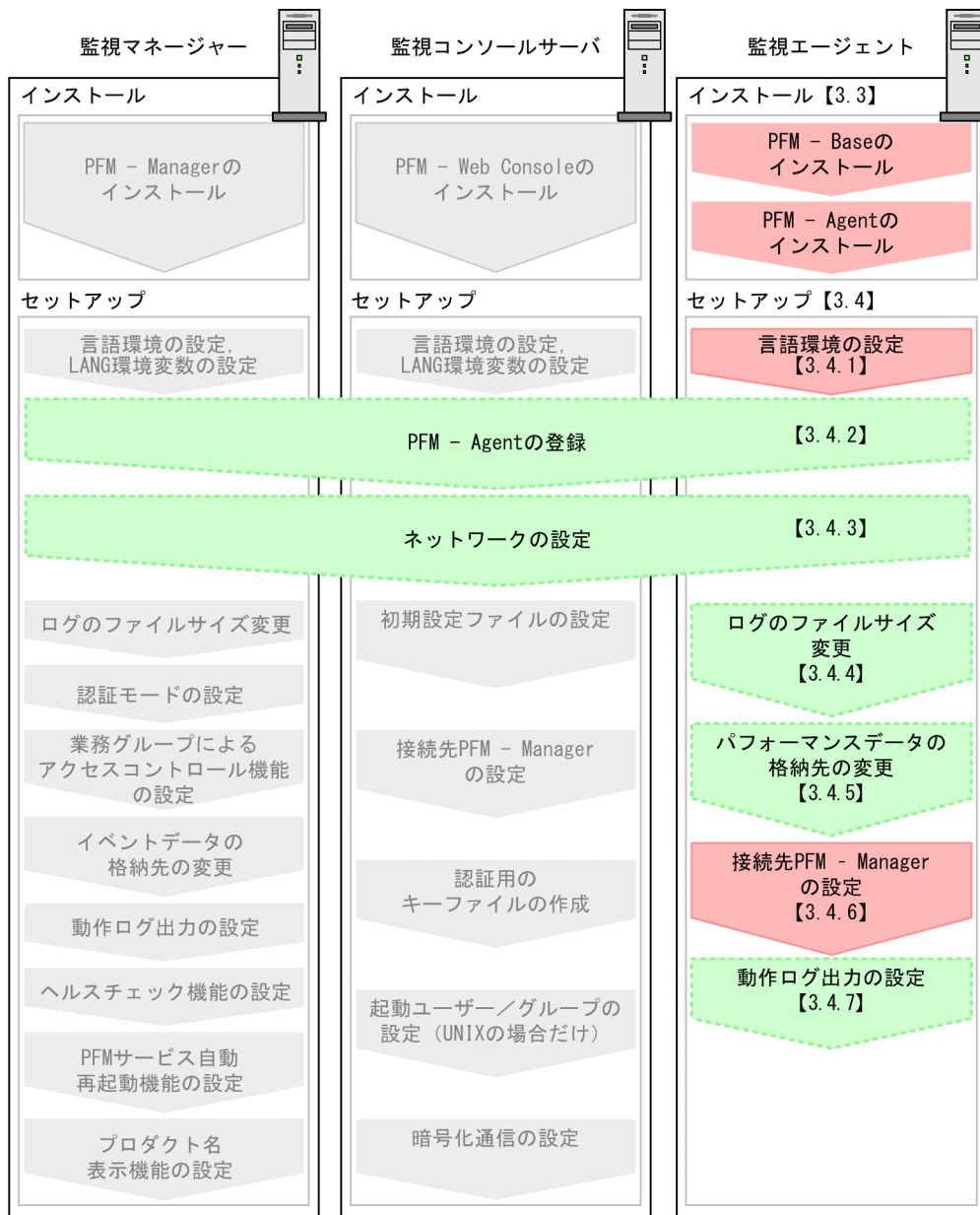
インストールとセットアップ

この章では、PFM - Agent for IIS のインストールおよびセットアップ方法について説明します。Performance Management システム全体のインストールおよびセットアップ方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Windows 用のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

3.1 インストールとセットアップの流れ

PFM - Agent for IIS をインストールおよびセットアップする流れを説明します。

図 3-1 インストールとセットアップの流れ



(凡例)

- : 必須セットアップ項目
- : オプションのセットアップ項目
- : マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」に手順が記載されている項目
- 【 】** : 参照先

PFM - Manager および PFM - Web Console のインストール方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

なお、ユーザー入力を必要とするセットアップコマンドは、対話形式で実行するか非対話形式で実行するかを選択できます。

対話形式で実行する場合は、コマンドの指示に従ってユーザーが値を入力する必要があります。

非対話形式で実行する場合は、コマンド実行中に必要となる入力作業をオプション指定や定義ファイルで代替するため、ユーザー入力が不要になります。また、バッチ処理やリモート実行によってセットアップ作業を自動化できるため、管理者の負担や運用コストを低減できます。

コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

3.2 インストールの前に確認すること

ここでは、PFM - Agent for IIS をインストールおよびセットアップする前に確認することについて説明します。

3.2.1 前提 OS

PFM - Agent for IIS が動作する OS を次に示します。

- Windows Server 2008 R2 ※
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2

注※

IPF 版は除きます。

注意事項

PFM - Agent for IIS は上記以外の OS にも正常にインストールできる場合がありますが、適用 OS 上以外での動作は保証されませんのでご注意ください。

3.2.2 ネットワーク環境の設定

Performance Management が動作するためのネットワーク環境について説明します。

(1) IP アドレスの設定

PFM - Agent のホストは、ホスト名で IP アドレスを解決できる環境を設定してください。IP アドレスを解決できない環境では、PFM - Agent は起動できません。

監視ホスト名（Performance Management システムのホスト名として使用する名前）には、実ホスト名またはエイリアス名を使用できます。

- 監視ホスト名に実ホスト名を使用している場合

Windows システムでは `hostname` コマンド、UNIX システムでは `uname -n` コマンドを実行して確認したホスト名で、IP アドレスを解決できるように環境を設定してください。なお、UNIX システムでは、`hostname` コマンドで取得するホスト名を使用することもできます。

- 監視ホスト名にエイリアス名を使用している場合

設定しているエイリアス名で IP アドレスを解決できるように環境を設定してください。

監視ホスト名の設定については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

ホスト名と IP アドレスは、次のどれかの方法で設定してください。

- Performance Management のホスト情報設定ファイル（jpchosts ファイル）
- hosts ファイル
- DNS

注意事項

- Performance Management は、DNS 環境でも運用できますが、FQDN 形式のホスト名には対応していません。このため、監視ホスト名は、ドメイン名を除いて指定してください。
- 複数の LAN 環境で使用する場合は、jpchosts ファイルで IP アドレスを設定してください。詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- Performance Management は、DHCP による動的な IP アドレスが割り振られているホスト上では運用できません。Performance Management を導入するすべてのホストに、固定の IP アドレスを設定してください。

(2) ポート番号の設定

Performance Management プログラムのサービスは、デフォルトで次の表に示すポート番号が割り当てられています。これ以外のサービスまたはプログラムに対しては、サービスを起動するたびに、そのときシステムで使用されていないポート番号が自動的に割り当てられます。また、ファイアウォール環境で、Performance Management を使用するときは、ポート番号を固定してください。ポート番号の固定の手順は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

表 3-1 デフォルトのポート番号と Performance Management プログラムのサービス (Windows の場合)

サービス説明	サービス名	パラメーター	ポート番号	備考
サービス構成情報管理機能	Name Server	jp1pcnsvr	22285	PFM - Manager の Name Server サービスで使用されるポート番号。Performance Management のすべてのホストで設定される。
サービス状態管理機能	Status Server	jp1pcstatsvr	22350	PFM - Manager および PFM - Base の Status Server サービスで使用されるポート番号。 PFM - Manager および PFM - Base がインストールされているホストで設定される。
JP1/SLM 連携機能	JP1/ITSLM	—	20905	JP1/SLM で設定されるポート番号。

(凡例)

- : なし

これらの PFM - Agent が使用するポート番号で通信できるように、ネットワークを設定してください。

3.2.3 インストールに必要な OS ユーザー権限

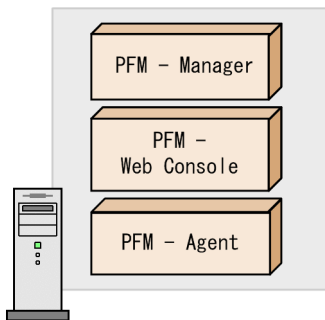
PFM - Agent for IIS をインストールするときは、必ず Administrators 権限を持つアカウントで実行してください。

3.2.4 前提プログラム

ここでは、PFM - Agent for IIS をインストールする場合に必要な前提プログラムを説明します。プログラムの構成図を次に示します。

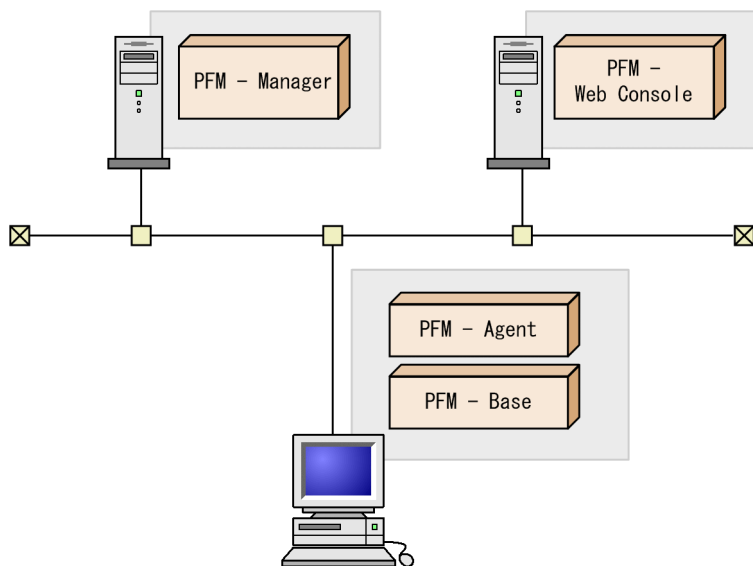
- 同一ホストにすべての Performance Management のプログラムをインストールする場合のシステム構成例

図 3-2 同一ホストにインストールする場合のシステム構成例



- PFM - Manager, PFM - Web Console, および PFM - Agent を異なるホストにインストールする場合のシステム構成例

図 3-3 異なるホストにインストールする場合のシステム構成例



(1) 監視対象プログラム

PFM - Agent for IIS の監視対象プログラムを次に示します。

- Microsoft(R) Internet Information Services 7.5~8.5

(2) Performance Management プログラム

監視エージェントには、PFM - Agent と PFM - Base をインストールします。PFM - Base は PFM - Agent の前提プログラムです。同一ホストにはほかの PFM - Agent や PFM - RM をインストールする場合でも、PFM - Base は 1 つだけでかまいません。

ただし、PFM - Manager と PFM - Agent を同一ホストにインストールする場合、PFM - Base をインストールする必要はありません。

なお、PFM - Manager または PFM - Base を PFM - Agent のホストに導入する場合は、バージョンが 11-00 のものを導入してください。Performance Management プログラムを導入するホストとバージョンの関係については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、付録に記載されているバージョン互換を参照してください。

3.2.5 クラスタシステムでのインストールとセットアップについて

クラスタシステムでのインストールとセットアップは、前提となるネットワーク環境やプログラム構成が、通常の構成のセットアップとは異なります。また、実行系ノードと待機系ノードでの作業が必要になります。詳細については、「4. クラスタシステムでの運用」を参照してください。

3.2.6 障害発生時の資料採取の準備

トラブルが発生した場合にメモリーダンプやユーザーモードプロセスダンプなどが必要になることがあります。トラブル発生時にこれらのダンプを採取する場合は、あらかじめメモリーダンプやユーザーモードプロセスダンプが出力されるように設定してください。

(1) メモリーダンプの出力設定

1. [コントロールパネル] から [システム] をダブルクリックする。
2. [詳細設定] ページの [起動と回復] の [設定] ボタンをクリックする。
3. [デバッグ情報の書き込み] で、[完全メモリーダンプ] を選択し、出力先のファイルを指定する。

注意

メモリーダンプのサイズは、実メモリーのサイズによって異なります。搭載している物理メモリーが大きいと、メモリーダンプのサイズも大きくなります。メモリーダンプを採取できるだけのディスク領域を確保してください。詳細は、OS 付属のドキュメントを参照してください。

(2) ユーザーモードプロセスダンプの出力設定

次のレジストリを設定することによって、アプリケーションプログラムの異常終了時、即座に調査資料のユーザーモードプロセスダンプを取得できます。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\Windows Error Reporting\LocalDumps

このレジストリキーに、次のレジストリ値を設定します。

- DumpFolder : REG_EXPAND_SZ ダンプ出力先のフォルダ名
(出力先フォルダには書き込み権限が必要です)
- DumpCount : REG_DWORD 保存するダンプの数
- DumpType : REG_DWORD 2

注意

- レジストリを設定することで、JP1 だけでなくほかのアプリケーションプログラムでもユーザーモードプロセスダンプが出力されるようになります。ユーザーモードプロセスダンプの出力を設定する場合はこの点ご注意ください。
- ユーザーモードプロセスダンプが出力されると、その分ディスク容量が圧迫されます。ユーザーモードプロセスダンプが出力されるように設定する場合は、十分なディスク領域が確保されているダンプ出力先フォルダを設定してください。

3.2.7 インストール前の注意事項

ここでは、Performance Management をインストールおよびセットアップするときの注意事項を説明します。

(1) 環境変数に関する注意事項

Performance Management では JPC_HOSTNAME を環境変数として使用しているため、ユーザー独自に環境変数として設定しないでください。設定した場合は、Performance Management が正しく動作しません。

(2) 同一ホストに Performance Management プログラムを複数インストール、セットアップするときの注意事項

Performance Management は、同一ホストに PFM - Manager, PFM - Web Console, および PFM - Agent をインストールすることもできます。その場合の注意事項を次に示します。

- PFM - Manager と PFM - Agent を同一ホストにインストールする場合、PFM - Base は不要です。この場合、PFM - Agent の前提プログラムは PFM - Manager になるため、PFM - Manager をインストールしてから PFM - Agent をインストールしてください。
- PFM - Base と PFM - Manager は同一ホストにインストールできません。PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールする場合は、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールしたあとに PFM - Manager → PFM - Agent の順でインストールしてください。また、PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Base をインストールする場合も同様に、PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールしたあとに PFM - Base → PFM - Agent の順でインストールしてください。
- PFM - Manager がインストールされているホストに PFM - Agent をインストールすると、接続先 PFM - Manager はローカルホストの PFM - Manager となります。この場合、接続先 PFM - Manager をリモートホストの PFM - Manager に変更できません。リモートホストの PFM - Manager に接続したい場合は、インストールするホストに PFM - Manager がインストールされていないことを確認してください。
- PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールすると、PFM - Agent の接続先 PFM - Manager は自ホスト名に設定し直されます。共通メッセージログに設定結果が出力されています。結果を確認してください。
- PFM - Web Console がインストールされているホストに、PFM - Agent をインストールする場合は、ブラウザの画面をすべて閉じてからインストールを実施してください。
- Performance Management プログラムを新規にインストールした場合は、ステータス管理機能がデフォルトで有効になります。ただし、07-50 から 08-00 以降にバージョンアップインストールした場合は、ステータス管理機能の設定状態はバージョンアップ前のままとなります。ステータス管理機能の

設定を変更する場合は、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

ポイント

システムの性能や信頼性を向上させるため、PFM - Manager, PFM - Web Console, および PFM - Agent はそれぞれ別のホストで運用することをお勧めします。

(3) バージョンアップの注意事項

Performance Management プログラムをバージョンアップする場合の注意事項については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップの章にある、バージョンアップの注意事項について説明している個所を参照してください。

PFM - Agent for IIS をバージョンアップする場合の注意事項については、「付録 G バージョンアップ手順とバージョンアップ時の注意事項」を参照してください。

なお、バージョンアップについての詳細は、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の付録を参照してください。

(4) その他の注意事項

- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままインストールした場合、システムの再起動を促すメッセージが表示されることがあります。この場合は、メッセージに従ってシステムを再起動し、インストールを完了させてください。
- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままの状態、ディスク容量が不足している状態、またはディレクトリ権限がない状態でインストールした場合、ファイルの展開に失敗することがあります。Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラムが起動している場合はすべて停止してからインストールし直してください。ディスク容量不足やディレクトリ権限不足が問題である場合は、問題を解決したあとでインストールし直してください。
- Performance Management のプログラムをインストールする場合、次に示すセキュリティ関連プログラムがインストールされていないかどうか確認してください。インストールされている場合、次の説明に従って対処してください。
 - セキュリティ監視プログラム
セキュリティ監視プログラムを停止するかまたは設定を変更して、Performance Management のプログラムのインストールを妨げないようにしてください。
 - ウィルス検出プログラム
ウィルス検出プログラムを停止してから Performance Management のプログラムをインストールすることを推奨します。

Performance Management のプログラムのインストール中にウィルス検出プログラムが稼働している場合、インストールの速度が低下したり、インストールが実行できなかつたり、または正しくインストールできなかつたりすることがあります。

- プロセス監視プログラム

プロセス監視プログラムを停止するかまたは設定を変更して、Performance Management のサービスまたはプロセス、および共通コンポーネントのサービスまたはプロセスを監視しないようにしてください。

Performance Management のプログラムのインストール中に、プロセス監視プログラムによって、これらのサービスまたはプロセスが起動されたり停止されたりすると、インストールに失敗することがあります。

- PFM - Agent for IIS をインストール後、PFM - Agent ホストの再起動を実行しなかった場合は、再起動をする前までは PFM - Agent for IIS をアンインストールしないでください。
- PFM - Agent for IIS をインストールする前に、TCP/IP の設定を行ってください。
- パフォーマンスモニターで、"logical disk parameters"の表示が不可能な場合は、DOS プロンプト画面より"diskperf -y"を実行しホストを再起動してください。
- NNM と連携している環境にインストールする場合、NNM 連携機能および ovw を停止してからインストールしてください。NNM 連携機能については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、NNM 連携について説明している章を参照してください。NNM の環境変数とコマンドについてはマニュアル「JP1/Cm2/Network Node Manager ネットワーク管理ガイド」または HP NNM のマニュアルを参照してください。

3.3 インストール

ここでは、PFM - Agent のプログラムをインストールする順序と提供媒体からプログラムをインストールする手順を説明します。

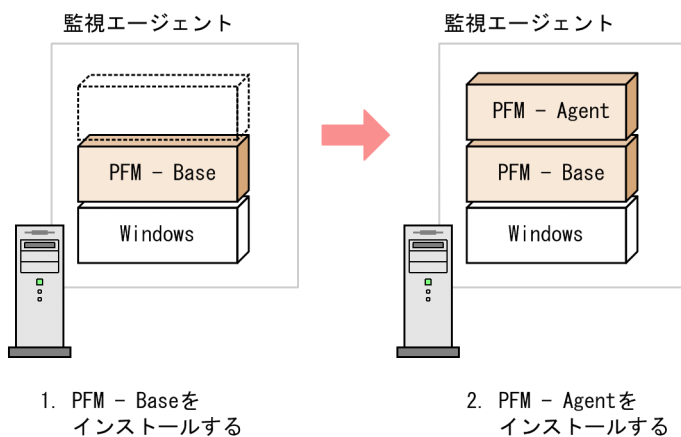
3.3.1 プログラムのインストール順序

まず、PFM - Base をインストールし、次に PFM - Agent をインストールします。PFM - Base がインストールされていないホストに PFM - Agent をインストールすることはできません。

なお、PFM - Manager と同一ホストに PFM - Agent をインストールする場合は、PFM - Manager、PFM - Agent の順でインストールしてください。また、Store データベースのバージョン 1.0 からバージョン 2.0 にバージョンアップする場合、PFM - Agent と PFM - Manager または PFM - Base のインストール順序によって、セットアップ方法が異なります。Store バージョン 2.0 のセットアップ方法については、「[3.7.2 Store バージョン 2.0 への移行](#)」を参照してください。

同一ホストに複数の PFM - Agent をインストールする場合、PFM - Agent 相互のインストール順序は問いません。

図 3-4 プログラムのインストール順序



3.3.2 PFM - Agent for IIS のインストール手順

Windows ホストに Performance Management プログラムをインストールするには、提供媒体を使用する方法と、JP1/NETM/DM を使用してリモートインストールする方法があります。JP1/NETM/DM を使用する方法については、マニュアル「[JP1/NETM/DM 運用ガイド 1 \(Windows\(R\)用\)](#)」を参照してください。

注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合は、インストール中にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示された場合は、[続行] ボタンをクリックしてインストールを続行してください。[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、インストールが中止されます。

提供媒体を使用する場合のインストール手順を説明します。

1. PFM - Agent for IIS をインストールするホストに、Administrators 権限でログインする。
2. ローカルホストで Performance Management のプログラムのサービスが起動されていないか確認する。起動されている場合は、すべて停止する。
サービス情報を表示して、サービスが起動されていないか確認してください。サービス情報の表示方法およびサービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
3. ほかに起動中のアプリケーションプログラムがあれば、すべて終了する。
4. 提供媒体を該当するドライブに入れる。
5. 監視対象の IIS が存在するホストで PFM - Agent for IIS の媒体の setup.exe を起動しインストールする。
起動したインストーラーの指示に従ってインストールを進めます。
PFM - Manager または PFM - Base のインストール時に設定された次の項目が表示され、確認できます。
 - ユーザー情報
 - インストール先フォルダ
 - プログラムフォルダ
6. PFM - Agent ホストを再起動するか、または PFM - Agent ホストにて PFM 関連の全サービスを起動する。

3.4 セットアップ

ここでは、PFM - Agent for IIS を運用するための、セットアップについて説明します。

◁オプション▷ は使用する環境によって必要になるセットアップ項目、またはデフォルトの設定を変更する場合のオプションのセットアップ項目を示します。

3.4.1 言語環境の設定

Windows は言語環境を設定する個所が複数ありますが、設定はすべて統一しておく必要があります。

言語環境の設定手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の言語環境の設定について説明している個所を参照してください。

3.4.2 PFM - Manager および PFM - Web Console への PFM - Agent for IIS の登録

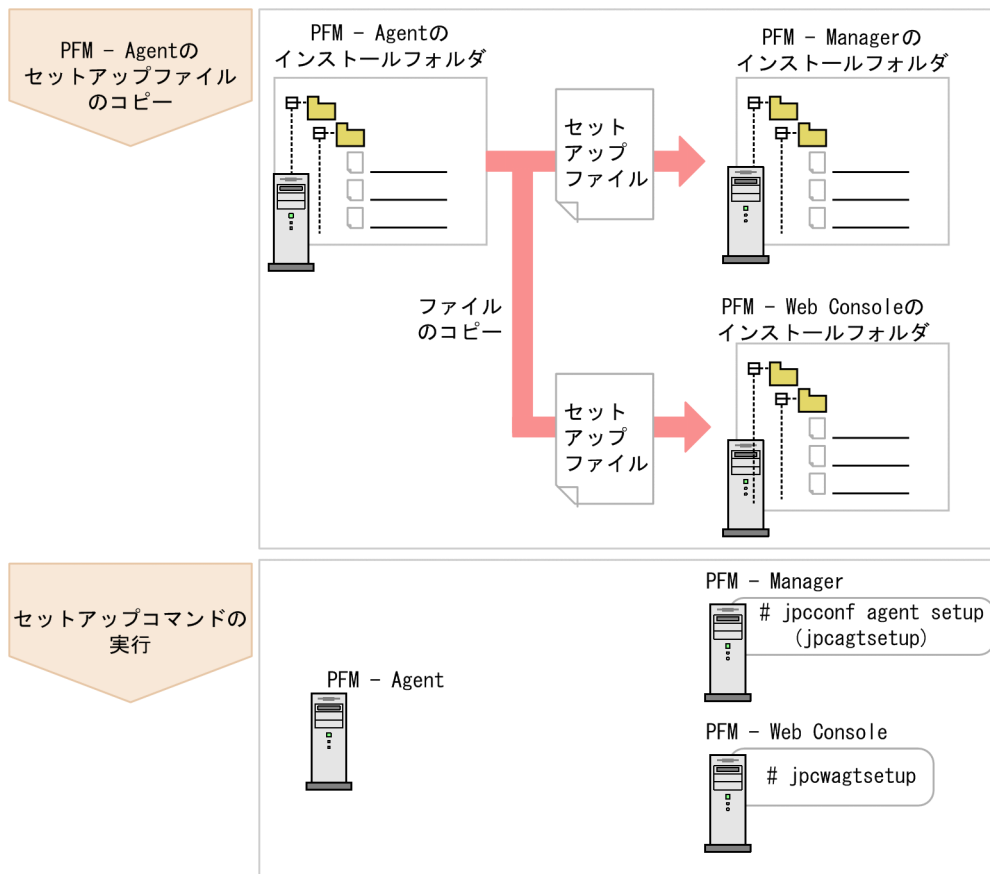
PFM - Manager および PFM - Web Console を使って PFM - Agent を一元管理するために、PFM - Manager および PFM - Web Console に PFM - Agent for IIS を登録する必要があります。

PFM - Manager のバージョンが 08-50 以降の場合、登録は自動でされるため、ここで説明する手順は不要です。

ただし、PFM - Manager よりリリース時期が新しい PFM - Agent については手動登録が必要になる場合があります。手動登録の要否については、PFM - Manager のリリースノートを参照してください。なお、PFM - Agent for IIS のデータモデルのバージョンについては、「付録 H バージョン互換」を参照してください。

PFM - Agent の登録の流れを次に示します。

図 3-5 PFM - Agent の登録の流れ



注意事項

- すでに PFM - Agent for IIS の情報が登録されている Performance Management システムに、新たに同じバージョンの PFM - Agent for IIS を追加した場合、PFM - Agent の登録は必要ありません。
- バージョンが異なる PFM - Agent for IIS を、異なるホストにインストールする場合、古いバージョン、新しいバージョンの順でセットアップしてください。
- PFM - Manager と同じホストに PFM - Agent をインストールした場合、`jpcconf agent setup` コマンドが自動的に実行されます。共通メッセージログに「KAVE05908-I エージェント追加セットアップは正常に終了しました」と出力されるので、結果を確認してください。コマンドが正しく実行されていない場合は、コマンドを実行し直してください。コマンドの実行方法については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。
- PFM - Agent for IIS の情報を登録する作業では、PFM - Web Console の [レポート階層] タブ、および [アラーム階層] タブに「IIS」という名前のフォルダが作成されます。すでに「IIS」という名前のフォルダまたはファイルがある場合には、名前を変更してから作業を始めてください。

(1) PFM - Agent for IIS のセットアップファイルをコピーする

PFM - Agent for IIS をインストールしたホストにあるセットアップファイルを PFM - Manager および PFM - Web Console をインストールしたホストにコピーします。手順を次に示します。

1. PFM - Web Console が起動されている場合は、停止する。
2. PFM - Agent のセットアップファイルをバイナリーモードでコピーする。

ファイルが格納されている場所およびファイルをコピーする場所を次の表に示します。

表 3-2 コピーするセットアップファイル

コピー先			PFM - Agent の セットアップファイル
PFM プログラム名	OS	コピー先フォルダ	
PFM - Manager	Windows	PFM - Manager のインストール先フォルダ ¥setup¥	インストール先フォルダ¥setup ¥jpcagtkw.EXE
	UNIX	/opt/jp1pc/setup/	インストール先フォルダ¥setup ¥jpcagtku.Z
PFM - Web Console	Windows	PFM - Web Console のインストール先フォルダ ¥setup¥	インストール先フォルダ¥setup ¥jpcagtkw.EXE
	UNIX	/opt/jp1pcwebcon/setup/	インストール先フォルダ¥setup ¥jpcagtku.Z

(2) PFM - Manager ホストでセットアップコマンドを実行する

PFM - Manager で PFM - Agent for IIS をセットアップするための次のコマンドを実行します。

```
jpccconf agent setup -key IIS
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、jpccconf agent setup コマンドは非対話形式でも実行できます。jpccconf agent setup コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

注意事項

コマンドを実行するローカルホストの Performance Management のプログラムおよびサービスが完全に停止していない状態でjpccconf agent setup コマンドを実行した場合、エラーが発生することがあります。その場合は、Performance Management のプログラムおよびサービスが完全に停止したことを確認したあと、再度jpccconf agent setup コマンドを実行してください。

PFM - Manager ホストにある PFM - Agent のセットアップファイルは、この作業が終了したあと削除してもかまいません。

(3) PFM - Web Console ホストでセットアップコマンドを実行する

PFM - Web Console で PFM - Agent for IIS をセットアップするための次のコマンドを実行します。

```
jpcwagtsetup
```

PFM - Web Console ホストにある PFM - Agent のセットアップファイルは、この作業が終了したあと削除してもかまいません。

3.4.3 ネットワークの設定 オプション

Performance Management を使用するネットワーク構成に応じて、変更する場合に必要な設定です。

ネットワークの設定では次の 2 つの項目を設定できます。

- IP アドレスを設定する

Performance Management を複数の LAN に接続されたネットワークで使用するときには設定します。複数の IP アドレスを設定するには、jpchosts ファイルにホスト名と IP アドレスを定義します。設定した jpchosts ファイルは Performance Management システム全体で統一させてください。

詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

- ポート番号を設定する

Performance Management が使用するポート番号を設定できます。運用での混乱を避けるため、ポート番号とサービス名は、Performance Management システム全体で統一させてください。

ポート番号の設定の詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

3.4.4 ログのファイルサイズ変更 オプション

Performance Management の稼働状況を、Performance Management 独自のログファイルに出力します。このログファイルを「共通メッセージログ」と呼びます。共通メッセージログは、デフォルトで 2,048 キロバイトのファイルが 2 ファイル使用されます。このファイルサイズを変更したい場合に、必要な設定です。

詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

3.4.5 パフォーマンスデータの格納先の変更 オプション

PFM - Agent for IIS で管理されるパフォーマンスデータを格納するデータベースの保存先、バックアップ先またはエクスポート先のフォルダを変更したい場合に、必要な設定です。

パフォーマンスデータは、デフォルトで、次の場所に保存されます。

- 保存先：インストール先フォルダ¥agtk¥store¥
- バックアップ先：インストール先フォルダ¥agtk¥store¥backup¥
- 部分バックアップ先：インストール先フォルダ¥agtk¥store¥partial¥
- エクスポート先：インストール先フォルダ¥agtk¥store¥dump¥
- インポート先：インストール先フォルダ¥agtk¥store¥import¥

詳細については、「[3.7.1 パフォーマンスデータの格納先の変更](#)」を参照してください。

3.4.6 PFM - Agent for IIS の接続先 PFM - Manager の設定

PFM - Agent がインストールされているホストで、その PFM - Agent を管理する PFM - Manager を設定します。接続先の PFM - Manager を設定するには、`jpccconf mgrhost define` コマンドを使用します。

注意事項

- 同一ホスト上に、複数の PFM - Agent がインストールされている場合でも、接続先に指定できる PFM - Manager は、1 つだけです。PFM - Agent ごとに異なる PFM - Manager を接続先に設定することはできません。
- PFM - Agent と PFM - Manager が同じホストにインストールされている場合、接続先 PFM - Manager はローカルホストの PFM - Manager となります。この場合、接続先の PFM - Manager をほかの PFM - Manager に変更できません。

手順を次に示します。

1. Performance Management のプログラムおよびサービスを停止する。

セットアップを実施する前に、ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。サービスの停止方法については、マニュアル「[JP1/Performance Management 運用ガイド](#)」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

`jpccconf mgrhost define` コマンド実行時に、Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、停止を問い合わせるメッセージが表示されます。

2. 接続先の PFM - Manager ホストのホスト名を指定して、`jpccconf mgrhost define` コマンドを実行する。

3. インストールとセットアップ

例えば、接続先の PFM - Manager がホスト host01 上にある場合、次のように指定します。

```
jpccconf mgrhost define -host host01
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、jpccconf mgrhost define コマンドは非対話形式でも実行できます。jpccconf mgrhost define コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

3.4.7 動作ログ出力の設定 オプション

PFM サービスの起動・停止時や、PFM - Manager との接続状態の変更時に動作ログを出力したい場合に必要な設定です。動作ログとは、システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

設定方法については、「付録 I 動作ログの出力」を参照してください。

3.5 アンインストール

ここでは、PFM - Agent for IIS をアンインストールおよびアンセットアップする手順を示します。

3.5.1 アンインストール前の注意事項

ここでは、PFM - Agent for IIS をアンインストールするときの注意事項を次に示します。

(1) アンインストールに必要な OS ユーザー権限に関する注意事項

PFM - Agent for IIS をアンインストールするときは、必ず Administrators 権限を持つアカウントで実行してください。

(2) ネットワークに関する注意事項

Performance Management プログラムをアンインストールしても、services ファイルに定義されたポート番号は削除されません。

(3) プログラムに関する注意事項

- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままアンインストールした場合、ファイルやフォルダが残ることがあります。この場合は、手動でインストール先フォルダ以下をすべて削除してください。
- Performance Management のプログラムおよびサービスや、Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままアンインストールした場合、システムの再起動を促すメッセージが出力されることがあります。この場合、システムを再起動して、アンインストールを完了させてください。
- PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストの場合、PFM - Base のアンインストールは PFM - Agent をアンインストールしないと実行できません。この場合、PFM - Agent, PFM - Base の順にアンインストールしてください。また、PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストの場合も同様に、PFM - Manager のアンインストールは PFM - Agent をアンインストールしないと実行できません。この場合、PFM - Agent, PFM - Manager の順にアンインストールしてください。

(4) サービスに関する注意事項

PFM - Agent をアンインストールしただけでは、`jpctool service list` コマンドで表示できるサービスの情報は削除されません。サービス情報の削除方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップの章のサービスの削除について説明している個所を参照してください。

(5) その他の注意事項

PFM - Web Console がインストールされているホストから、Performance Management プログラムをアンインストールする場合は、Web ブラウザの画面をすべて閉じてからアンインストールを実施してください。

3.5.2 接続先 PFM - Manager の解除

接続先 PFM - Manager を解除する場合は、対象の PFM - Manager に接続している PFM - Agent for IIS のサービス情報を削除する必要があります。

サービス情報の削除方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップ（Windows の場合）の章の、サービス情報の削除手順について説明している箇所を参照してください。

なお、接続先を別の PFM - Manager に変更する場合は、「[3.4.6 PFM - Agent for IIS の接続先 PFM - Manager の設定](#)」を参照してください。

3.5.3 アンインストール手順

Windows ホストから PFM - Agent for IIS をアンインストールする手順を説明します。

1. PFM - Agent for IIS をアンインストールするホストに、Administrators 権限でログインする。
2. ローカルホストで Performance Management のプログラムのサービスが起動されていないか確認する。起動されている場合は、すべて停止する。
サービス情報を表示して、サービスが起動されていないか確認してください。サービス情報の表示方法およびサービスの停止方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
3. ほかに起動中のアプリケーションプログラムがあれば、すべて終了する。
4. アンインストールする PFM - Agent for IIS を選択する。
Windows の [コントロールパネル] で [プログラムと機能] ※を選択して、アンインストールする Performance Management のプログラムを選択します。
注※ Windows のバージョンによって名称が異なる場合があります。
5. [削除] を選択し、[OK] ボタンをクリックする。
選択したプログラムがアンインストールされます。

注意事項

- OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合は、アンインストール中にユーザーアカウント制御のダイアログが表示されることがあります。ダイアログが表示された場合は、[続行] ボタンをクリックしてアンインストールを続行してください。[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、アンインストールが中止されます。

3.6 PFM - Agent for IIS のシステム構成の変更

監視対象システムのネットワーク構成の変更や、ホスト名の変更などに応じて、PFM - Agent for IIS のシステム構成を変更する場合があります。ここでは、PFM - Agent for IIS のシステム構成を変更する手順を説明します。

PFM - Agent for IIS のシステム構成を変更する場合、PFM - Manager や PFM - Web Console の設定もあわせて変更する必要があります。Performance Management のシステム構成を変更する手順の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。なお、物理ホスト名またはエイリアス名を変更するときに、固有の追加作業が必要な PFM - Agent もありますが、PFM - Agent for IIS の場合、固有の追加作業は必要ありません。

3.7 PFM - Agent for IIS の運用方式の変更

収集した稼働監視データの運用手順の変更などで、PFM - Agent for IIS の運用方式を変更する場合があります。ここでは、PFM - Agent for IIS の運用方式を変更する手順を説明します。Performance Management 全体の運用方式を変更する手順の詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

3.7.1 パフォーマンスデータの格納先の変更

PFM - Agent for IIS で収集したパフォーマンスデータは、PFM - Agent for IIS の Agent Store サービスの Store データベースで管理しています。ここではパフォーマンスデータの格納先の変更方法について説明します。

(1) jpcconf db define コマンドを使用して設定を変更する

Store データベースで管理されるパフォーマンスデータの、次のデータ格納先フォルダを変更したい場合は、jpcconf db define コマンドで設定します。Store データベースの格納先フォルダを変更する前に収集したパフォーマンスデータが必要な場合は、jpcconf db define コマンドの-move オプションを使用してください。jpcconf db define コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

- 保存先フォルダ
- バックアップ先フォルダ
- 部分バックアップ先フォルダ*
- エクスポート先フォルダ
- インポート先フォルダ*

注※

Store バージョン 2.0 使用時だけ設定できます。

jpcconf db define コマンドで設定するオプション名、設定できる値の範囲などを次の表に示します。

表 3-3 パフォーマンスデータの格納先を変更するコマンドの設定項目

説明	オプション名	設定できる値 (Store バージョン 1.0) *	設定できる値 (Store バージョン 2.0) *	デフォルト値
パフォーマンスデータの作成先フォルダ	sd	1~127 バイトのフォルダ名	1~214 バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ%agtk%store

説明	オプション名	設定できる値 (Store バージョン 1.0) ※	設定できる値 (Store バージョン 2.0) ※	デフォルト値
パフォーマンスデータの退避先フォルダ (フルバックアップ)	bd	1～127バイトのフォルダ名	1～211バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ¥agtk¥store¥backup
パフォーマンスデータの退避先フォルダ (部分バックアップ)	pbd	—	1～214バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ¥agtk¥store¥partial
パフォーマンスデータを退避する場合の最大世代番号	bs	1～9	1～9	<ul style="list-style-type: none"> • Store バージョン 1.0 の場合 • 5 • Store バージョン 2.0 の場合 • 5
パフォーマンスデータのエクスポート先フォルダ	dd	1～127バイトのフォルダ名	1～127バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ¥agtk¥store¥dump
パフォーマンスデータのインポート先フォルダ	id	—	1～222バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ¥agtk¥store¥import

(凡例)

—：設定できません。

注※

フォルダ名は、Store データベースのデフォルト格納先フォルダ (インストール先フォルダ¥agtk¥store) からの相対パスか、または絶対パスで指定してください。

(2) jpcsto.ini ファイルを編集して設定を変更する (Store バージョン 1.0 の場合だけ)

Store バージョン 1.0 使用時は、jpcsto.ini を直接編集して変更できます。

(a) jpcsto.ini の設定項目

jpcsto.ini ファイルで編集するラベル名、設定できる値の範囲などを次の表に示します。

表 3-4 パフォーマンスデータの格納先の設定項目 (jpcsto.ini の[Data Section]セクション)

説明	ラベル名	設定できる値 (Store バージョン 1.0) ※ ¹	デフォルト値
パフォーマンスデータの作成先フォルダ	Store Dir※ ²	1～127バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ¥agtk¥store
パフォーマンスデータの退避先フォルダ (フルバックアップ)	Backup Dir※ ²	1～127バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ¥agtk¥store¥backup
パフォーマンスデータを退避する場合の最大世代番号	Backup Save	1～9	5

説明	ラベル名	設定できる値 (Store バージョン 1.0) ※1	デフォルト値
パフォーマンスデータのエクスポート先フォルダ	Dump Dir※2	1~127バイトのフォルダ名	インストール先フォルダ¥agtk¥store¥dump

注※1

- フォルダ名は、Store データベースのデフォルト格納先フォルダ（インストール先フォルダ¥agtk¥store）からの相対パスか、または絶対パスで指定してください。
- 指定できる文字は、次の文字を除く、半角英数字、半角記号および半角空白です。
; , * ? ' " < > |
- 指定値に誤りがある場合、Agent Store サービスは起動できません。

注※2

Store Dir, Backup Dir, およびDump Dir には、それぞれ重複したフォルダを指定できません。

(b) jpcsto.ini ファイルの編集前の準備

- Store データベースの格納先フォルダを変更する場合は、変更後の格納先フォルダを事前に作成しておいてください。
- Store データベースの格納先フォルダを変更すると、変更前に収集したパフォーマンスデータを使用できなくなります。変更前に収集したパフォーマンスデータが必要な場合は、次に示す手順でデータを引き継いでください。
 1. jpctool db backup コマンドで Store データベースに格納されているパフォーマンスデータのバックアップを採取する。
 2. 「(c) jpcsto.ini ファイルの編集手順」に従って Store データベースの格納先フォルダを変更する。
 3. jpctool db restore コマンドで変更後のフォルダにバックアップデータをリストアする。

(c) jpcsto.ini ファイルの編集手順

手順を次に示します。

1. PFM - Agent のサービスを停止する。
ローカルホストで PFM - Agent のプログラムおよびサービスが起動されている場合は、すべて停止してください。
2. テキストエディターなどで、jpcsto.ini ファイルを開く。
3. パフォーマンスデータの格納先フォルダなどを変更する。
次に示す網掛け部分を、必要に応じて修正してください。

[Data Section]

Store Dir=.

Backup Dir= ./backup

Backup Save=5

Dump Dir= ./dump

注意

- 行頭および「=」の前後には空白文字を入力しないでください。
- 各ラベルの値の「.」は、Agent Store サービスの Store データベースのデフォルト格納先フォルダ（インストール先フォルダ¥agtk¥store）を示します。格納先を変更する場合、その格納先フォルダからの相対パスか、または絶対パスで記述してください。
- Store データベースの格納先を変更する場合、指定するフォルダを事前に作成してください。
- jpcsto.ini ファイルには、データベースの格納先フォルダ以外にも、定義情報が記述されています。[Data Section]セクション以外の値は変更しないようにしてください。[Data Section]セクション以外の値を変更すると、Performance Management が正常に動作しなくなることがあります。

4. jpcsto.ini ファイルを保存して閉じる。

5. Performance Management のプログラムおよびサービスを起動する。

注意

この手順で Store データベースの保存先フォルダを変更した場合、パフォーマンスデータファイルは変更前のフォルダから削除されません。これらのファイルが不要な場合は、次に示すファイルだけを削除してください。

- 拡張子が .DB であるすべてのファイル
- 拡張子が .IDX であるすべてのファイル

3.7.2 Store バージョン 2.0 への移行

Store データベースの保存形式には、バージョン 1.0 と 2.0 の 2 種類あります。Store バージョン 2.0 の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の稼働監視システムの運用設計について説明している章を参照してください。

Store バージョン 2.0 は、PFM - Base または PFM - Manager のバージョン 08-10 以降の環境に、08-10 以降の PFM - Agent for IIS を新規インストールした場合にだけデフォルトで利用できます。それ以外の場合は、Store バージョン 1.0 形式のままとなっているため、セットアップコマンドによって Store バージョン 2.0 に移行してください。

何らかの理由によって Store バージョン 1.0 に戻す必要がある場合は、Store バージョン 2.0 のアンセットアップを行ってください。

インストール条件に対応する Store バージョン 2.0 の利用可否と利用手順を次の表に示します。

表 3-5 Store バージョン 2.0 の利用可否および利用手順

インストール条件		Store バージョン 2.0 の利用可否	Store バージョン 2.0 の利用手順
インストール済みの PFM - Base, または PFM - Manager のバージョン	PFM - Agent のインストール方法		
08-10 より前	上書きインストール	利用できない	PFM - Base, または, PFM - Manager を 08-10 にバージョンアップ後, セットアップコマンドを実行
	新規インストール		
08-10 以降	上書きインストール	セットアップ後利用できる	セットアップコマンドを実行
	新規インストール	利用できる	設定不要

(1) Store バージョン 2.0 のセットアップ

1. システムリソース見積もりと保存期間の設計

Store バージョン 2.0 導入に必要なシステムリソースが、実行環境に適しているかどうかを確認してください。必要なシステムリソースを次に示します。

- ディスク容量
- ファイル数
- 1 プロセスがオープンするファイル数

これらの値は保存期間の設定によって調節できます。実行環境の保有しているリソースを考慮して保存期間を設計してください。システムリソースの見積もりについては、リリースノートを参照してください。

2. フォルダの設定

Store バージョン 2.0 に移行する場合に、Store バージョン 1.0 でのフォルダ設定では、Agent Store サービスが起動しないことがあります。このため、Agent Store サービスが使用するフォルダの設定を見直す必要があります。Agent Store サービスが使用するフォルダの設定は `jpccconf db define` コマンドを使用して表示・変更できます。

Store バージョン 2.0 は、Store データベースの保存先フォルダやバックアップ先フォルダの最大長が Store バージョン 1.0 と異なります。Store バージョン 1.0 でフォルダの設定を相対パスに変更している場合、絶対パスに変換した値が Store バージョン 2.0 でのフォルダ最大長の条件を満たしているか確認してください。Store バージョン 2.0 のフォルダ最大長は 214 バイトです。フォルダ最大長の条件を満たしていない場合は、Agent Store サービスが使用するフォルダの設定を変更したあと、手順 3 以降に進んでください。

3. インストールとセットアップ

3. セットアップコマンドの実行

Store バージョン 2.0 に移行するため、次のコマンドを実行します。

```
jpccconf db vrset -ver 2.0 -key agtk
```

jpccconf db vrset コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

4. 保存期間の設定

手順 1 の見積もり時に設計した保存期間を設定してください。Agent Store サービスを起動して、PFM - Web Console で設定してください。

(2) Store バージョン 2.0 のアンセットアップ

Store バージョン 2.0 のアンセットアップはjpccconf db vrset コマンドを使用します。Store バージョン 2.0 をアンセットアップすると、Store データベースのデータはすべて初期化され、Store バージョン 1.0 に戻ります。

jpccconf db vrset コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(3) 注意事項

(a) Store バージョン 1.0 から Store バージョン 2.0 に移行する場合

Store データベースを Store バージョン 1.0 から Store バージョン 2.0 に移行した場合、PI レコードタイプのレコードの保存期間の設定は引き継がれますが、PD レコードタイプのレコードについては、以前の設定値（保存レコード数）に関係なくデフォルトの保存日数がレコードごとに設定され、保存日数以前に収集されたデータは削除されます。

例えば、Store バージョン 1.0 で、Collection Interval が 3,600 秒の PD レコードの保存レコード数を 1,000 に設定していた場合、PD レコードは 1 日に 24 レコード保存されることになるので、 $1,000/24 \approx$ 約 42 日分のデータが保存されています。この Store データベースを Store バージョン 2.0 へ移行した結果、デフォルト保存日数が 10 日に設定されたとすると、11 日以上前のデータは削除されて参照できなくなります。

Store バージョン 2.0 へ移行する前に、PD レコードタイプのレコードの保存レコード数の設定を確認し、Store バージョン 2.0 でのデフォルト保存日数以上のデータが保存される設定となっている場合は、jpctool db dump コマンドでデータベース内のデータを出力してください。Store バージョン 2.0 でのデフォルト保存日数については、リリースノートを参照してください。

(b) Store バージョン 2.0 から Store バージョン 1.0 に戻す場合

Store バージョン 2.0 をアンセットアップすると、データは初期化されます。このため、Store バージョン 1.0 に変更する前に、jpctool db dump コマンドで Store バージョン 2.0 の情報を出力してください。

3.8 バックアップとリストア

障害が発生してシステムが壊れた場合に備えて、PFM - Agent for IIS の設定情報のバックアップを取得してください。また、PFM - Agent for IIS をセットアップしたときなど、システムを変更した場合にもバックアップを取得してください。

なお、Performance Management システム全体のバックアップおよびリストアについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」のバックアップとリストアについて説明している章を参照してください。

3.8.1 バックアップ

バックアップはファイルをコピーするなど、任意の方法で取得してください。バックアップを取得する際は、PFM - Agent for IIS のサービスを停止した状態で行ってください。

PFM - Agent for IIS の設定情報のバックアップ対象ファイルを次の表に示します。

そのほかのファイルについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の PFM - Agent のバックアップ対象ファイル一覧（Windows の場合）について説明している個所を参照してください。

表 3-6 PFM - Agent for IIS のバックアップ対象ファイル

ファイル名	説明
インストール先フォルダ※¥agtk¥agent¥*.ini ファイル	Agent Collector サービスの設定ファイル
インストール先フォルダ※¥agtk¥store¥*.ini ファイル	Agent Store サービスの設定ファイル

注※

論理ホストで運用する場合は「インストール先フォルダ」を「環境ディレクトリ¥jpc」に読み替えてください。環境ディレクトリとは、論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のフォルダを示します。

注意事項

PFM - Agent for IIS のバックアップを取得する際は、取得した環境の製品バージョン番号を管理するようにしてください。製品バージョン番号の詳細については、リリースノートを参照してください。

3.8.2 リストア

PFM - Agent for IIS の設定情報をリストアする場合は、次に示す前提条件を確認した上で、バックアップ対象ファイルを元の位置にコピーしてください。バックアップした設定情報ファイルで、ホスト上の設定情報ファイルを上書きします。

前提条件

- PFM - Agent for IIS がインストール済みであること。
- PFM - Agent for IIS のサービスが停止していること。

注意事項

- バックアップしたホストと異なるホストへはリストアできません。
- PFM - Agent for IIS の設定情報をリストアする場合、バックアップを取得した環境とリストアする環境の製品バージョン番号が完全に一致している必要があります。製品バージョン番号の詳細については、リリースノートを参照してください。リストアの可否についての例を次に示します。

リストアできるケース

PFM - Agent for IIS 11-00 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for IIS 10-00 にリストアする。

リストアできないケース

- PFM - Agent for IIS 09-00 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for IIS 09-50 にリストアする。
- PFM - Agent for IIS 09-00 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for IIS 09-00-03 にリストアする。

3.9 Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定

Performance Management では、PFM - Web Console がインストールされているホストに、プログラムプロダクトに標準添付されているマニュアル提供媒体からマニュアルをコピーすることで、Web ブラウザでマニュアルを参照できるようになります。なお、PFM - Web Console をクラスタ運用している場合は、実行系、待機系それぞれの物理ホストでマニュアルをコピーしてください。

3.9.1 マニュアルを参照するための設定

(1) PFM - Web Console のヘルプからマニュアルを参照する場合

1. PFM - Web Console のセットアップ手順に従い、PFM - Web Console に PFM - Agent を登録する (PFM - Agent の追加セットアップを行う)。
2. PFM - Web Console がインストールされているホストに、マニュアルのコピー先ディレクトリを作成する。
 - Windows の場合：Web Console のインストール先フォルダ¥doc¥言語コード¥××××
 - UNIX の場合：/opt/jp1pcwebcon/doc/言語コード/××××××××には、PFM - Agent のヘルプ ID を指定してください。ヘルプ ID については、「[付録 B 識別子一覧](#)」を参照してください。
3. 上記で作成したディレクトリの直下に、マニュアル提供媒体から次のファイルおよびディレクトリをコピーする。

HTML マニュアルの場合

Windows の場合：該当するドライブ¥MAN¥3021¥資料番号 (03004A0D など) 下の、すべての HTML ファイル、CSS ファイル、および FIGURE フォルダ

UNIX の場合：/提供媒体のマウントポイント/MAN/3021/資料番号 (03004A0D など) 下の、すべての HTML ファイル、CSS ファイル、および FIGURE ディレクトリ

PDF マニュアルの場合

Windows の場合：該当するドライブ¥MAN¥3021¥資料番号 (03004A0D など) 下の PDF ファイル

UNIX の場合：/提供媒体のマウントポイント/MAN/3021/資料番号 (03004A0D など) 下の PDF ファイル

コピーの際、HTML マニュアルの場合は INDEX.HTM ファイルが、PDF マニュアルの場合は PDF ファイル自体が、作成したディレクトリ直下に配置されるようにしてください。

4. PFM - Web Console を再起動する。

(2) お使いのマシンのハードディスクからマニュアルを参照する場合

提供媒体のsetup.exe を使ってインストールするか、または直接 HTML ファイル、CSS ファイル、PDF ファイル、および GIF ファイルを任意のフォルダにコピーしてください。HTML マニュアルの場合、次のディレクトリ構成になるようにしてください。

html (HTML ファイルおよび CSS ファイルを格納)

└─FIGURE (GIF ファイルを格納)

3.9.2 マニュアルの参照手順

マニュアルの参照手順を次に示します。

1. PFM - Web Console の [メイン] 画面のメニューバーフレームにある [ヘルプ] メニューをクリックし、[ヘルプ選択] 画面を表示する。
2. マニュアル名またはマニュアル名の後ろの [PDF] をクリックする。
マニュアル名をクリックすると HTML 形式のマニュアルが表示されます。[PDF] をクリックすると PDF 形式のマニュアルが表示されます。

Web ブラウザでの文字の表示に関する注意事項

Windows の場合、[スタート] メニューからオンラインマニュアルを表示させると、すでに表示されている Web ブラウザの画面上に HTML マニュアルが表示されることがあります。

4

クラスタシステムでの運用

この章では、クラスタシステムで PFM - Agent for IIS を運用する場合のインストール、セットアップ、およびクラスタシステムで PFM - Agent for IIS を運用しているときの処理の流れについて説明します。

4.1 クラスタシステムの概要

クラスタシステムとは、複数のサーバシステムを連携して1つのシステムとして運用するシステムです。PFM - Agent for IIS は、次のクラスタシステムで運用できます。

- HA (High Availability) クラスタシステム

ここでは、クラスタシステムで PFM - Agent for IIS を運用する場合の構成について説明します。クラスタシステムの概要、および Performance Management システムをクラスタシステムで運用する場合のシステム構成については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

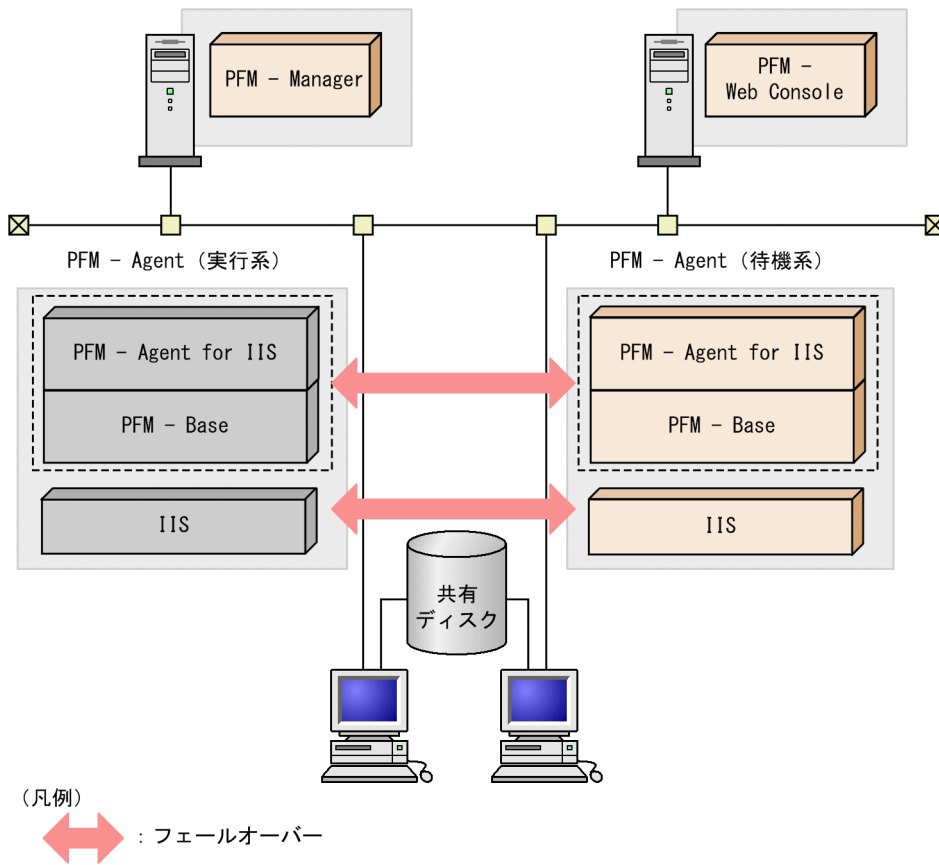
なお、この章で、単に「クラスタシステム」と記述している場合は、HA クラスタシステムのことを指します。

4.1.1 HA クラスタシステム

(1) HA クラスタシステムでの PFM - Agent for IIS の構成

PFM - Agent for IIS は、HA クラスタシステムで運用できます。HA クラスタシステムで PFM - Agent for IIS を運用する場合は、次の図のような構成で運用します。

図 4-1 HA クラスタシステムでの PFM - Agent for IIS の構成例



「図 4-1」に示すように、PFM - Agent for IIS は、共有ディスクに定義情報、パフォーマンス情報などを格納し、フェールオーバー時に引き継ぎます。1 つの論理ホストに複数の Performance Management のプログラムがある場合は、それぞれが同じ共有ディレクトリを使います。

4.2 フェールオーバー時の処理

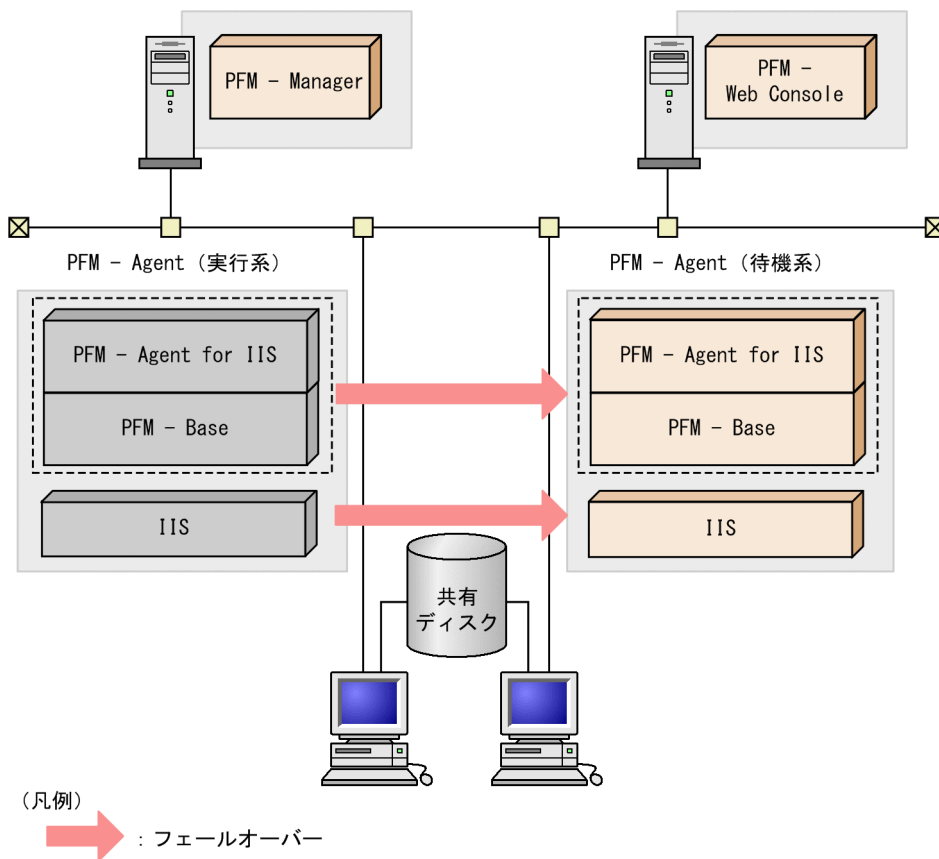
実行系ホストに障害が発生すると、処理が待機系ホストに移ります。

ここでは、PFM - Agent for IIS に障害が発生した場合のフェールオーバー時の処理について説明します。また、PFM - Manager に障害が発生した場合の、PFM - Agent for IIS への影響について説明します。

4.2.1 障害が発生した場合のフェールオーバー

PFM - Agent for IIS を実行しているホストでフェールオーバーが発生した場合の処理を次の図に示します。

図 4-2 フェールオーバーが発生した場合の処理



PFM - Agent for IIS のフェールオーバー中に、PFM - Web Console で操作すると、「There was no answer(-6)」というメッセージが表示されます。この場合は、フェールオーバーが完了するまで待ってから操作してください。

PFM - Agent for IIS のフェールオーバー後に、PFM - Web Console で操作すると、フェールオーバー先のノードで起動した PFM - Agent for IIS に接続されて、操作できます。

4.2.2 PFM - Manager が停止した場合の影響

PFM - Manager が停止すると、Performance Management システム全体に影響があります。

PFM - Manager は、各ノードで動作している PFM - Agent for IIS のエージェント情報を一括管理しています。また、PFM - Agent for IIS がパフォーマンス監視中にしきい値を超えた場合のアラームイベントの通知や、アラームイベントを契機としたアクションの実行を制御しています。このため、PFM - Manager が停止すると、Performance Management システムに次の表に示す影響があります。

表 4-1 PFM - Manager が停止した場合の PFM - Agent for IIS への影響

プログラム名	影響	対処
PFM - Agent for IIS	<p>PFM - Agent for IIS が動作中に、PFM - Manager が停止した場合、次のように動作する。</p> <ul style="list-style-type: none">パフォーマンスデータは継続して収集される。発生したアラームイベントを PFM - Manager に通知できないため、アラーム定義ごとにアラームイベントが保持され、PFM - Manager が起動するまで通知をリトライする。保持しているアラームイベントが3つを超えると、古いアラームイベントは上書きされる。また、PFM - Agent for IIS を停止すると、保持しているアラームイベントは削除される。PFM - Manager に通知済みのアラームステータスは、PFM - Manager が再起動したときに一度リセットされる。その後、PFM - Manager が PFM - Agent for IIS の状態を確認したあと、アラームステータスは最新の状態となる。PFM - Agent for IIS を停止しようとした場合、PFM - Manager に停止することを通知できないため、停止に時間が掛かる。	<p>PFM - Manager を起動する。動作中の PFM - Agent for IIS はそのまま運用できる。ただし、アラームが期待したとおり通知されない場合があるため、PFM - Manager 復旧後に、PFM - Agent の共通メッセージログに出力されているメッセージ KAVE00024-I を確認すること。</p>

PFM - Manager が停止した場合の影響を考慮の上、運用方法を検討してください。なお、トラブル以外にも、構成変更やメンテナンスの作業などで PFM - Manager の停止が必要になる場合もあります。運用への影響が少ないときに、メンテナンスをすることをお勧めします。

4.3 インストールとセットアップ

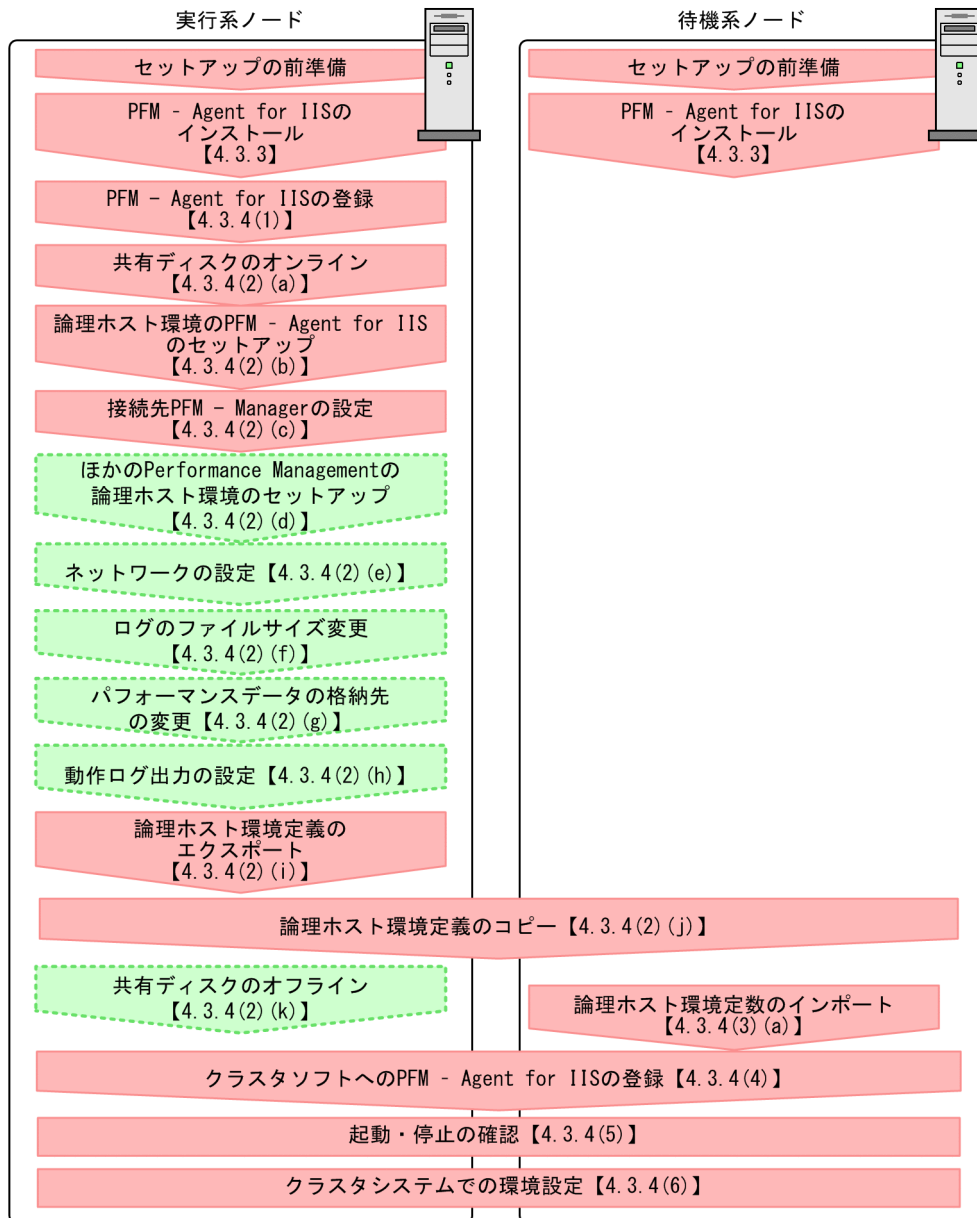
ここでは、クラスタシステムでの PFM - Agent for IIS の環境構築と設定の手順について説明します。

なお、PFM - Manager の環境構築と設定の手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

4.3.1 インストールから運用開始までの流れ

クラスタシステムで、論理ホスト運用する PFM - Agent for IIS のインストールおよびセットアップの流れを次の図に示します。

図 4-3 クラスタシステムで論理ホスト運用する PFM - Agent for IIS のインストールおよびセットアップの流れ



(凡例)

- : 必ず実施するセットアップ項目
- : ご使用になる機能によって必要になるセットアップ項目、またはデフォルトの設定を変更する場合のセットアップ項目
- 【 】** : 参照先

注意

- 論理ホスト環境の PFM - Agent をセットアップしても、物理ホスト環境の PFM - Agent の定義内容は引き継がれません。論理ホスト環境をセットアップした時点で、新規に環境が作成されます。

論理ホスト環境の PFM - Agent for IIS をセットアップした場合、物理ホスト環境の PFM - Agent for IIS は動作させないでください。論理ホスト環境を作成後、物理ホスト環境の PFM - Agent for IIS のサービスの起動方法が「自動」になっている場合には、「手動」に変更してください。

なお、ユーザー入力を必要とするセットアップコマンドは、対話形式で実行するか非対話形式で実行するかを選択できます。

対話形式で実行する場合は、コマンドの指示に従ってユーザーが値を入力する必要があります。

非対話形式で実行する場合は、コマンド実行中に必要となる入力作業を、オプション指定や定義ファイルで代替するため、ユーザー入力が不要になります。また、バッチ処理やリモート実行によってセットアップ作業を自動化できるため、管理者の負担や運用コストを低減できます。非対話形式のコマンドは、次のような場合に便利です。

- 監視対象との接続に使用するパスワードを定期的に変更したい
- 複数の監視対象を追加する際の作業を効率化したい

コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

4.3.2 インストールを始める前に

インストールおよびセットアップを開始する前の前提条件、必要な情報、および注意事項について説明します。

(1) 前提条件

PFM - Agent for IIS をクラスタシステムで使用する場合は、次に示す前提条件があります。

(a) クラスタシステム

次の条件が整っていることを確認してください。

- クラスタシステムがクラスタソフトによって制御されていること。
- クラスタソフトが論理ホスト運用する PFM - Agent for IIS の起動や停止などを制御するように設定されていること。
- 実行系および待機系で Microsoft へのエラー報告を抑止するよう設定されていること。

Windows では、アプリケーションエラーが発生すると、Microsoft へエラーを報告するダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスが表示されるとフェールオーバーできないおそれがあるため、エラー報告を抑止する必要があります。設定されていない場合は次のように設定してください。

Windows Server 2008 の場合

1. [コントロールパネル] - [システムとセキュリティ] - [アクションセンター] - [メンテナンス] を選択する。
2. [問題のレポートの解決策を確認] で [設定] をクリックする。

3. [報告された問題の解決策をいつ確認するかを選択します] ダイアログボックスで、[解決策を確認しない] を選択する。
4. [OK] ボタンをクリックする。

Windows Server 2012 の場合

1. [コントロールパネル] - [システムとセキュリティ] - [アクションセンター] - [メンテナンス] を選択する。
2. [問題のレポートの解決策を確認] で [設定] をクリックする。
3. [Windows エラー報告の構成] ダイアログボックスで、[レポートを送信せず、この確認画面も今後表示しません] を選択する。
4. [OK] ボタンをクリックする。

(b) 共有ディスク

次の条件が整っていることを確認してください。

- 論理ホストごとに共有ディスクがあり、実行系ノードから待機系ノードへ引き継げること。
- 共有ディスクが、各ノードに物理的に Fibre Channel や SCSI で接続されていること。Performance Management では、ネットワークドライブや、ネットワーク経由でレプリケーションしたディスクを共有ディスクとして使う構成はサポートされていません。
- フェールオーバーの際に、何らかの問題によって共有ディスクを使用中のプロセスが残った場合でも、クラスタソフトなどの制御によって強制的に共有ディスクをオフラインにしてフェールオーバーできること。
- 1つの論理ホストで複数の PFM 製品を運用する場合、共有ディスクのディレクトリ名が同じであること。

なお、Store データベースについては格納先を変更して、共有ディスク上のほかのディレクトリに格納できます。

(c) 論理ホスト名、論理 IP アドレス

次の条件が整っていることを確認してください。

- 論理ホストごとに論理ホスト名、および論理ホスト名と対応する論理 IP アドレスがあり、実行系ノードから待機系ノードに引き継げること。
- 論理ホスト名と論理 IP アドレスが、hosts ファイルやネームサーバに設定されていること。
- DNS 運用している場合は、FQDN 名ではなく、ドメイン名を除いたホスト名を論理ホスト名として使用していること。
- 物理ホスト名と論理ホスト名は、システムの中でユニークであること。

注意

- 論理ホスト名に、物理ホスト名 (hostname コマンドで表示されるホスト名) を指定しないでください。正常に通信処理がされなくなる可能性があります。

- 論理ホスト名に使用できる文字は、1～32 バイトの半角英数字です。次の記号および空白文字は指定できません。
/ ¥ : ; * ? ' " < > | & = ,
- 論理ホスト名には、"localhost", IP アドレス, "-"から始まるホスト名を指定できません。

(2) 論理ホスト運用する PFM - Agent for IIS のセットアップに必要な情報

論理ホスト運用する PFM - Agent for IIS をセットアップするには、通常の PFM - Agent for IIS のセットアップで必要になる環境情報に加えて、次の表の情報が必要です。

表 4-2 論理ホスト運用の PFM - Agent for IIS のセットアップに必要な情報

項目	例
論理ホスト名	jp1-halsr
論理 IP アドレス	172.16.92.100
共有ディスク	S:¥jp1

なお、1つの論理ホストで論理ホスト運用する Performance Management のプログラムが複数ある場合も、同じ共有ディスクのディレクトリを使用します。

共有ディスクに必要な容量については、「付録 A 構築前のシステム見積もり」を参照してください。

(3) PFM - Agent for IIS で論理ホストをフェールオーバーさせる場合の注意事項

PFM - Agent for IIS を論理ホスト運用するシステム構成の場合、PFM - Agent for IIS の障害によって論理ホスト全体をフェールオーバーさせるかどうかを検討してください。

PFM - Agent for IIS の障害で論理ホスト全体をフェールオーバーさせると、同じ論理ホストで運用する業務アプリケーションもフェールオーバーすることになり、業務に影響を与える可能性があります。

通常は、PFM - Agent for IIS に異常が発生しても、同じ論理ホストで運用しているシステムの動作に影響がないように、次のどちらかのようにクラスタソフトで設定することをお勧めします。

- PFM - Agent for IIS の動作監視をしない
- PFM - Agent for IIS の異常を検知してもフェールオーバーしない

4.3.3 インストール

実行系ノードおよび待機系ノードに PFM - Base および PFM - Agent for IIS をインストールします。

インストール先はローカルディスクです。共有ディスクにはインストールしないでください。

インストール手順は非クラスタシステムの場合と同じです。インストール手順については、「[3.3.2 PFM - Agent for IIS のインストール手順](#)」を参照してください。

4.3.4 セットアップ

ここでは、クラスタシステムで Performance Management を運用するための、セットアップについて説明します。

注意

JPC_HOSTNAME 環境変数は、Performance Management で使用していますので、環境変数として設定しないでください。誤って設定した場合は、Performance Management が正しく動作しません。

(1) PFM - Agent for IIS を登録する

Performance Management システムに、PFM - Agent for IIS を追加する場合には、PFM - Agent for IIS を登録するためのセットアップが必要です。

PFM - Agent for IIS の登録は、PFM - Manager および PFM - Web Console で実施します。PFM - Manager のバージョンが 08-50 以降の場合は、PFM - Agent は自動的に登録されるため、登録作業は不要です。ただし、PFM - Manager のリリースノートに記載されていないデータモデルバージョンの PFM - Agent は、手動で登録する必要があります。PFM - Agent for IIS のデータモデルのバージョンについては、「[付録 H バージョン互換](#)」を参照してください。

PFM - Agent for IIS を登録する手順は非クラスタシステムの場合と同じです。手順については、「[3.4.2 PFM - Manager および PFM - Web Console への PFM - Agent for IIS の登録](#)」を参照してください。

(2) 実行系ノードの論理ホスト環境をセットアップする

実行系ノードで、PFM - Agent for IIS の論理ホスト環境をセットアップします。

注意

セットアップを実施する前に、Performance Management システム全体で、Performance Management のプログラムのサービスをすべて停止してください。サービスの停止方法については、マニュアル「[JP1/Performance Management 運用ガイド](#)」の、Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

(a) 共有ディスクをオンラインにする

共有ディスクがオンラインになっていることを確認します。共有ディスクがオンラインになっていない場合は、クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャの操作などで、共有ディスクをオンラインにしてください。

(b) PFM - Agent for IIS の論理ホスト環境をセットアップする

jpccconf ha setup コマンドを実行して論理ホスト環境を作成します。コマンドを実行すると、共有ディスクに必要なデータがコピーされ、論理ホスト用の定義が設定されて、論理ホスト環境が作成されます。

手順を次に示します。

1. jpccconf ha setup コマンドを実行して、PFM - Agent for IIS の論理ホスト環境を作成する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha setup -key agtk -lhost jp1-halsr -d S:¥jp1
```

論理ホスト名は、-lhost で指定します。ここでは、論理ホスト名をjp1-halsrとしています。DNS 運用をしている場合はドメイン名を省略した論理ホスト名を指定してください。

共有ディスクのディレクトリ名は、-d の環境ディレクトリ名に指定します。例えば-d S:¥jp1 と指定するとS:¥jp1¥jp1pc が作成されて、論理ホスト環境のファイルが作成されます。

2. jpccconf ha list コマンドを実行して、論理ホストの設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list -key all
```

作成した論理ホスト環境が正しいことを確認してください。

(c) 接続先 PFM - Manager を設定する

jpccconf mgrhost define コマンドを実行して、PFM - Agent for IIS を管理する PFM - Manager を設定します。なお、PFM - Manager のバージョンが 08-50 以降の場合は自動的に登録されるため、登録作業は不要です。

1. jpccconf mgrhost define コマンドを実行して、接続先 PFM - Manager を設定する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf mgrhost define -host jp1-hal -lhost jp1-halsr
```

接続先 PFM - Manager のホスト名は、-host オプションで指定します。接続先 PFM - Manager が論理ホスト運用されている場合は、-host オプションに接続先 PFM - Manager の論理ホスト名を指定します。ここでは、PFM - Manager の論理ホスト名をjp1-halとしています。

また、PFM - Agent for IIS の論理ホスト名は、-lhost で指定します。ここでは、PFM - Agent for IIS の論理ホスト名をjp1-halsrとしています。

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、jpccconf mgrhost define コマンドは非対話形式でも実行できます。jpccconf mgrhost define コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(d) その他の Performance Management プログラムの論理ホスト環境をセットアップする

PFM - Agent for IIS のほかに、同じ論理ホストにセットアップする PFM - Manager や PFM - Agent がある場合は、この段階でセットアップしてください。

セットアップ手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」、または各 PFM - Agent マニュアルの、クラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(e) ネットワークの設定をする

ファイアウォールがあるネットワーク環境で Performance Management のプログラムを運用する場合だけに必要な設定です。ファイアウォール経由で Performance Management のプログラム間の通信をする場合には、`jpconf port define` コマンドを使用してポート番号を設定します。

ポート番号の設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Windows 用のインストールとセットアップについて説明している章と、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」のクラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

また、複数の LAN に接続されたネットワーク環境で Performance Management を運用するときに使用する IP アドレスを指定したい場合は、IP アドレスの設定をします。IP アドレスを設定したい場合は、`jpchosts` ファイルの内容を直接編集します。

IP アドレスの設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の Windows 用のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

注意

`jpchosts` ファイルを編集した場合は、`jpchosts` ファイルを実行系ノードから待機系ノードにコピーしてください。

(f) ログのファイルサイズ変更をする

Performance Management の稼働状況を、Performance Management 独自のログファイルに出力します。このログファイルを「共通メッセージログ」と呼びます。共通メッセージログには、デフォルトで 2,048 キロバイトのファイルが 2 個使用されます。このファイルサイズを変更したい場合にだけ、必要な設定です。

詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Windows 用のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(g) パフォーマンスデータの格納先を変更する

PFM - Agent で管理されるパフォーマンスデータを格納するデータベースの保存先、バックアップ先、エクスポート先、またはインポート先のディレクトリを変更したい場合にだけ必要な設定です。設定方法については、「3.7.1 パフォーマンスデータの格納先の変更」を参照してください。

(h) 動作ログ出力を設定する

アラーム発生時に動作ログを出力したい場合に必要な設定です。動作ログとは、システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

設定方法については、「付録 I 動作ログの出力」を参照してください。

(i) 論理ホスト環境定義をエクスポートする

PFM - Agent for IIS の論理ホスト環境が作成できたら、環境定義をファイルにエクスポートします。エクスポートでは、その論理ホストにセットアップされている Performance Management のプログラムの定義情報を一括してファイル出力します。同じ論理ホストにほかの Performance Management のプログラムをセットアップする場合は、セットアップが一とおり済んだあとにエクスポートしてください。

論理ホスト環境定義をエクスポートする手順を次に示します。

1. jpcconf ha export コマンドを実行して、論理ホスト環境定義をエクスポートする。

これまでの手順で作成した論理ホスト環境の定義情報を、エクスポートファイルに出力します。エクスポートファイル名は任意です。

例えば、lhostexp.txt ファイルに論理ホスト環境定義をエクスポートする場合、次のようにコマンドを実行します。

```
jpcconf ha export -f lhostexp.txt
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、jpcconf ha export コマンドは非対話形式でも実行できます。jpcconf ha export コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(j) 論理ホスト環境定義ファイルを待機系ノードにコピーする

「(i) 論理ホスト環境定義をエクスポートする」でエクスポートした論理ホスト環境定義ファイルを、実行系ノードから待機系ノードにコピーします。

(k) 共有ディスクをオフラインにする

クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャの操作などで、共有ディスクをオフラインにして、作業を終了します。なお、その共有ディスクを続けて使用する場合は、オフラインにする必要はありません。

(3) 待機系の論理ホスト環境をセットアップする

待機系ノードで、PFM - Agent for IIS の論理ホスト環境をセットアップします。

(a) 論理ホスト環境定義をインポートする

実行系ノードからコピーしたエクスポートファイルを、待機系ノードにインポートします。

実行系ノードで作成した論理ホストの Performance Management のプログラムを、待機系ノードで実行するための設定には、`jpccconf ha import` コマンドを使用します。1つの論理ホストに複数の Performance Management のプログラムがセットアップされている場合は、一括してインポートされます。

なお、このコマンドを実行するときには、共有ディスクをオンラインにしておく必要はありません。

1. `jpccconf ha import` コマンドを実行して、論理ホスト環境定義をインポートする。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha import -f lhostexp.txt
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf ha import` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf ha import` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

コマンドを実行すると、待機系ノードの環境を、エクスポートファイルの内容と同じ環境になるように設定変更します。これによって、論理ホストの PFM - Agent for IIS を起動するための設定が実施されます。

また、セットアップ時に `jpccconf port define` コマンドで固定のポート番号を設定している場合も、同様に設定されます。

2. `jpccconf ha list` コマンドを実行して、論理ホスト設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list -key all
```

実行系ノードで `jpccconf ha list` コマンドを実行した時と同じ内容が表示されることを確認してください。

(4) クラスタソフトへ登録する

Performance Management のプログラムを論理ホスト環境で運用する場合は、クラスタソフトに登録して、クラスタソフトからの制御で Performance Management のプログラムを起動したり停止したりするように環境設定します。

ここでは、PFM - Agent for IIS をクラスタソフトに登録するときに設定する内容を説明します。

(a) クラスタソフトへ PFM - Agent for IIS を登録する

PFM - Agent for IIS をクラスタソフトに登録するときの設定内容を説明します。

PFM - Agent for IIS の場合、次の表のサービスをクラスタに登録します。

PFM - Manager の論理ホストと同居する場合の依存関係の設定については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」のクラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

表 4-3 クラスタソフトに登録する PFM - Agent for IIS のサービス

番号	名前	サービス名	依存関係
1	PFM - Agent Store for IIS [LHOST]	JP1PCAGT_KS [LHOST]	IP アドレスリソース 物理ディスクリソース
2	PFM - Agent for IIS [LHOST]	JP1PCAGT_KA [LHOST]	#1 のクラスタリソース
3	PFM - Action Handler [LHOST]	JP1PCMGR_PH [LHOST]	IP アドレスリソース 物理ディスクリソース

[LHOST]の部分は、論理ホスト名に置き換えてください。論理ホスト名がjp1-halsrの場合、サービスの名前は「PFM - Agent Store for IIS [jp1-halsr]」、サービス名は「JP1PCAGT_KS [jp1-halsr]」のようになります。

WSFC の場合は、これらのサービスを WSFC のリソースとして登録します。各リソースの設定は次のようにします。下記の [] は、WSFC の設定項目です。

- [リソースの種類] は「汎用サービス」として登録する。
- [名前], [依存関係], および [サービス名] を「表 4-3」のとおりを設定する。
なお、名前はサービスを表示するときの名称で、サービス名は WSFC から制御するサービスを指定するときの名称です。
- [起動パラメータ] および [レジストリ複製] は設定しない。
- プロパティの [詳細設定] タブは、Performance Management のプログラムの障害時にフェールオーバーするかしないかの運用に合わせて設定する。

例えば、PFM - Agent for IIS の障害時に、フェールオーバーするように設定するには、次のように設定します。

[再開する]：チェックする

[グループに適用する]：チェックしない

再起動試行回数の [しきい値]：3*

注※

再起動試行回数の [しきい値] は 3 回を目安に設定してください。

注意

クラスタに登録するサービスは、クラスタから起動および停止を制御しますので、OS 起動時に自動起動しないよう [スタートアップの種類] を [手動] に設定してください。なお、jpcconf ha setup コマンドでセットアップした直後のサービスは [手動] に設定されています。また、次のコマンドで強制停止しないでください。

```
jpcspm stop -key all -lhost 論理ホスト名 -kill immediate
```

(5) 起動・停止の確認

クラスタソフトからの操作で、Performance Management のプログラムの起動および停止を各ノードで実行し、正常に動作することを確認してください。

(6) クラスタシステムでの環境を設定する

Performance Management のプログラムのセットアップ終了後、PFM - Web Console から、運用に合わせて監視対象の稼働状況についてのレポートを表示できるようにしたり、監視対象で問題が発生したときにユーザーに通知できるようにしたりするために、Performance Management のプログラムの環境を設定します。

Performance Management プログラムの環境の設定方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

4.4 アンインストールとアンセットアップ

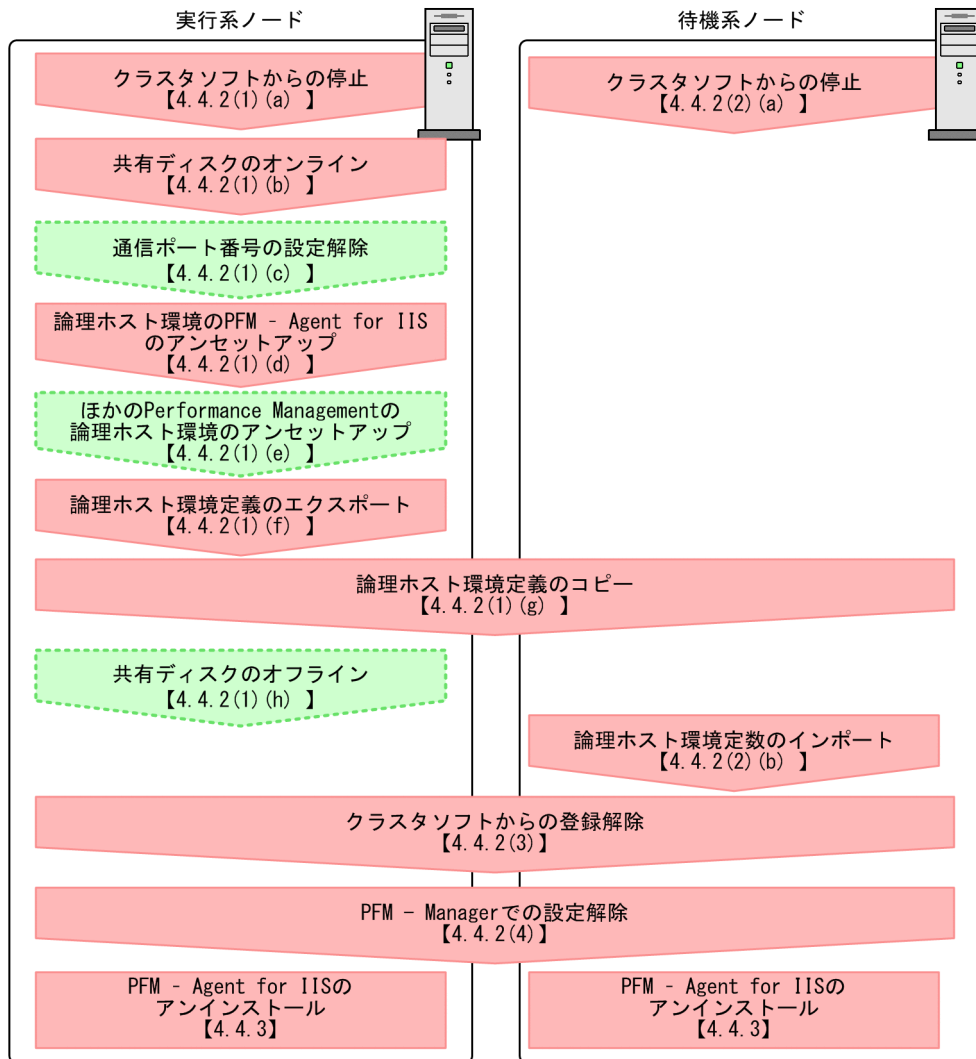
ここでは、クラスタシステムで運用していた PFM - Agent for IIS を、アンインストールする方法とアンセットアップする方法について説明します。

なお、PFM - Manager のアンインストールとアンセットアップについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

4.4.1 PFM - Agent for IIS のアンインストールとアンセットアップの流れ

クラスタシステムで運用していた PFM - Agent for IIS のアンインストールおよびアンセットアップの流れを次の図に示します。

図 4-4 クラスタシステムで論理ホスト運用していた PFM - Agent for IIS のアンインストールおよびアンセットアップの流れ



(凡例)

- : 必ず実施するセットアップ項目
- : ご使用になる機能によって必要になるセットアップ項目, またはデフォルトの設定を変更する場合のセットアップ項目
- 【 】 : 参照先

4.4.2 PFM - Agent for IIS のアンセットアップ

論理ホスト環境をアンセットアップします。アンセットアップ手順には、実行系ノードの手順と、待機系ノードの手順があります。実行系ノード、待機系ノードの順にアンセットアップしてください。

PFM - Agent for IIS のアンセットアップ手順について説明します。

注意

アンセットアップする実行系ノードおよび待機系ノードで動作している、Performance Managementのプログラムのすべてのサービスを停止してください。サービスの停止方法については、マニュアル

「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

(1) 実行系ノードの論理ホスト環境をアンセットアップする

実行系ノードで、PFM - Agent for IIS の論理ホストの環境をアンセットアップします。

(a) クラスタソフトからの停止

クラスタソフトからの操作で、実行系ノードで起動しているすべての Performance Management のプログラムおよびサービスを停止してください。停止する方法については、クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

(b) 共有ディスクをオンラインにする

共有ディスクがオンラインになっていることを確認します。共有ディスクがオンラインになっていない場合は、クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャの操作などで、共有ディスクをオンラインにしてください。

(c) ポート番号の設定を解除する

この手順は、ファイアウォールを使用する環境で、セットアップ時に `jpccconf port define` コマンドでポート番号を設定した場合だけに必要な手順です。

ポート番号の解除方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Windows 用のインストールとセットアップについて説明している章、およびクラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(d) 論理ホスト環境の PFM - Agent for IIS をアンセットアップする

手順を次に示します。ここでは、PFM - Agent for IIS の論理ホスト名を `jp1-halsr` としています。

注意

共有ディスクがオフラインの状態ですら論理ホスト環境を削除した場合は、物理ホスト上に存在する論理ホストの設定が削除され、共有ディスク上のディレクトリやファイルは削除されません。この場合、共有ディスクをオンラインにして、環境ディレクトリ以下の `jp1pc` ディレクトリを手動で削除する必要があります。

1. `jpccconf ha list` コマンドを実行して、論理ホストの設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list -key all -lhost 論理ホスト名
```

論理ホスト環境をアンセットアップする前に、現在の設定を確認します。論理ホスト名や共有ディスクのパスなどを確認してください。

2. `jpccconf ha unsetup` コマンドを実行して、PFM - Agent for IIS の論理ホスト環境を削除する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha unsetup -key agtk -lhost 論理ホスト名
```

jpccconf ha unsetup コマンドを実行すると、論理ホストの PFM - Agent for IIS を起動するための設定が削除されます。また、共有ディスク上の論理ホスト用のファイルが削除されます。

3. jpccconf ha list コマンドで、論理ホストの設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list -key all
```

論理ホスト環境から PFM - Agent for IIS が削除されていることを確認してください。

(e) その他の Performance Management プログラムの論理ホスト環境をアンセットアップする

PFM - Agent for IIS のほかに、同じ論理ホストからアンセットアップする PFM - Agent がある場合は、この段階でアンセットアップしてください。

アンセットアップ手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、クラスタシステムでの運用について説明している章、または各 PFM - Agent マニュアルの、クラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(f) 論理ホスト環境定義をエクスポートする

論理ホストの PFM - Agent for IIS を削除したら、環境定義をファイルにエクスポートします。

Performance Management では、環境定義のエクスポートおよびインポートによって実行系と待機系の環境を合わせる方式を採っています。

実行系ノードでエクスポートした環境定義（Performance Management の定義が削除されている）を、待機系ノードにインポートすると、待機系ノードの既存の環境定義（Performance Management の定義が削除前のままの状態）と比較して差分（実行系ノードで削除された部分）を確認して Performance Management の環境定義を削除します。

手順を次に示します。

1. jpccconf ha export コマンドを実行して、論理ホスト環境定義をエクスポートする。

Performance Management の論理ホスト環境の定義情報を、エクスポートファイルに出力します。エクスポートファイル名は任意です。

例えば、lhostexp.txt ファイルに論理ホスト環境定義をエクスポートする場合、次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha export -f lhostexp.txt
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf ha export` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf ha export` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

(g) 論理HOST環境定義ファイルを待機系ノードにコピーする

「(f) 論理HOST環境定義をエクスポートする」でエクスポートしたファイルを、実行系ノードから待機系ノードにコピーします。

(h) 共有ディスクをオフラインにする

クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャの操作などで、共有ディスクをオフラインにして、作業を終了します。なお、その共有ディスクを続けて使用する場合は、オフラインにする必要はありません。

(2) 待機系ノードの論理HOST環境をアンセットアップする

実行系ノードでエクスポートしたファイルを待機系ノードにコピーし、待機系ノードで、論理HOST環境をアンセットアップします。なお、待機系ノードでは、アンセットアップの時に共有ディスクをオンラインにする必要はありません。

手順を次に示します。

(a) クラスタソフトからの停止

クラスタソフトからの操作で、待機系ノードで起動しているすべてのPerformance Managementのプログラムおよびサービスを停止してください。停止する方法については、クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

(b) 論理HOST環境定義ファイルのインポート

実行系ノードからコピーしたエクスポートファイルを、待機系ノードに反映させるためにインポートします。なお、待機系ノードでは、インポート時に共有ディスクをオフラインにする必要はありません。

1. `jpccconf ha import` コマンドを実行して、論理HOST環境定義をインポートする。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha import -f lhostexp.txt
```

ここでは、対話形式の実行例を示していますが、`jpccconf ha import` コマンドは非対話形式でも実行できます。`jpccconf ha import` コマンドの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドについて説明している章を参照してください。

コマンドを実行すると、待機系ノードの環境を、エクスポートファイルの内容と同じ環境になるように設定変更します。これによって、論理HOSTのPFM - Agent for IISを起動するための設定が削除されます。ほかの論理HOSTのPerformance Managementのプログラムをアンセットアップしている場合は、それらの設定も削除されます。

また、セットアップ時に `jpccconf port define` コマンドで固定のポート番号を設定している場合も、解除されます。

2. `jpccconf ha list` コマンドを実行して、論理ホストの設定を確認する。

次のようにコマンドを実行します。

```
jpccconf ha list -key all
```

実行系ノードで `jpccconf ha list` コマンドを実行したときと同じ内容が表示されることを確認してください。

(3) クラスタソフトの登録を解除する

クラスタソフトから、論理ホストの PFM - Agent for IIS に関する設定を削除してください。設定を削除する方法は、クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

(4) 接続先 PFM - Manager の解除

接続先 PFM - Manager を解除する場合は、PFM - Web Console で PFM - Manager にログインし、接続している PFM - Agent for IIS に関連する定義を削除する必要があります。

手順を次に示します。

1. [\[4.4.2\(1\)\(a\) クラスタソフトからの停止\]](#) および [\[4.4.2\(2\)\(a\) クラスタソフトからの停止\]](#) で PFM - Manager サービスを停止している場合、クラスタソフトの操作で PFM - Manager サービスを起動してください。起動する方法については、クラスタソフトのマニュアルを参照してください。
2. PFM - Web Console から、エージェントを削除する。
3. PFM - Manager のエージェント情報を削除する。

例えば、PFM - Manager が論理ホスト `jp1-hal` 上で動作し、PFM - Agent for IIS が論理ホスト `jp1-halsr` 上で動作している場合、次のように指定してコマンドを実行します。

```
jpctool service delete -id サービスID -host jp1-halsr -lhost jp1-hal
```

サービス ID には削除するエージェントのサービス ID を指定してください。

4. PFM - Manager ホストで `jpctool service sync` コマンドを実行する。

`jpctool service sync` コマンドで同期したサービス情報は、PFM - Web Console の画面でエージェント階層を再表示すると、画面に反映されます。

なお、接続先を別の PFM - Manager に変更する場合は、[\[4.3.4\(2\)\(c\) 接続先 PFM - Manager を設定する\]](#) を参照してください。

4.4.3 アンインストール

PFM - Base および PFM - Agent for IIS をアンインストールしてください。

アンインストール手順は、非クラスタシステムの場合と同じです。詳細は、「[3.5 アンインストール](#)」を参照してください。

注意

- PFM - Agent for IIS をアンインストールする場合は、PFM - Agent for IIS をアンインストールするノードの Performance Management のプログラムのサービスをすべて停止してください。
- 論理ホスト環境を削除しないで PFM - Agent for IIS をアンインストールした場合、環境ディレクトリが残ることがあります。その場合は、環境ディレクトリを削除してください。

4.5 PFM - Agent for IIS の運用方式の変更

ここでは、クラスタシステムで PFM - Agent for IIS の運用方式を変更する手順を説明します。Performance Management 全体の運用方式を変更する手順の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

4.5.1 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポート

論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポートは、次の操作を実行した場合だけ実施します。

- 論理ホストのセットアップ時に、論理ホスト上のノード構成を変更した。
PFM - Agent の論理ホストのセットアップ方法については、「[4.3.4\(2\) 実行系ノードの論理ホスト環境をセットアップする](#)」を参照してください。
- 他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ時に、論理ホスト環境定義ファイルのエクスポートが必要な操作を実行した。
他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ方法については、「[4.3.4\(2\)\(d\) その他の Performance Management プログラムの論理ホスト環境をセットアップする](#)」を参照してください。
- ネットワークの設定時に、ポート番号を設定した。
ネットワークの設定方法については、「[4.3.4\(2\)\(e\) ネットワークの設定をする](#)」を参照してください。

論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポートの手順については、「[4.3.4\(2\)\(i\) 論理ホスト環境定義をエクスポートする](#)」～「[4.3.4\(3\) 待機系の論理ホスト環境をセットアップする](#)」を参照してください。

5

監視テンプレート

この章では、PFM - Agent for IIS の監視テンプレートについて説明します。

アラームの記載形式

ここでは、アラームの記載形式を示します。アラームは、アルファベット順に記載しています。記載形式を次に示します。

アラーム名

監視テンプレートのアラーム名を示します。

概要

このアラームで監視できる監視対象の概要について説明します。

主な設定

このアラームの主な設定値を表で説明します。この表では、アラームの設定値と、PFM - Web Console の [アラーム階層] 画面でアラームアイコンをクリックし、[プロパティの表示] メソッドをクリックしたときに表示される、[プロパティ] 画面の設定項目との対応を示しています。各アラームの設定の詳細については、PFM - Web Console のアラームの [プロパティ] 画面で確認してください。

設定値の「-」は、設定が常に無効であることを示します。

なお、条件式で異常条件と警告条件が同じ場合は、アラームイベントは異常のものだけが発行されます。

関連レポート

このアラームに関連する、監視テンプレートのレポートを示します。PFM - Web Console の [エージェント階層] 画面でエージェントアイコンをクリックし、[アラームの状態の表示] メソッドで表示される



アイコンをクリックすると、このレポートを表示できます。

アラーム一覧

PFM - Agent for IIS の監視テンプレートで定義されているアラームは、

「PFM IIS Template Alarms 09.51」というアラームテーブルにまとめられています。「09.51」は、アラームテーブルのバージョンを示します。このアラームテーブルは、PFM - Web Console の「アラーム階層」タブに表示される「IIS」フォルダに格納されています。監視テンプレートで定義されているアラームを次の表に示します。

表 5-1 アラーム一覧 (監視テンプレート)

アラーム名	監視対象
APNT Errors/sec	ASP.NET の 1 秒間当たりのエラー数を監視します。この値には接続エラー、コンパイルエラー、およびランタイムエラーが含まれます。この値が"0"より大きい場合はサーバの構成、ASP.NET ページのスクリプトに何らかの問題があります。この値は、監視間隔の平均値となります。
APNT Reqs Queued	ASP.NET のキューの待ち数を監視します。負荷の増加率以上にこの値が増加する場合は、ASP.NET ページのスクリプトが複雑すぎます。この値は、監視間隔の平均値となります。
APNT Reqs Rejected	ASP.NET のリクエストに対し、実行されなかった数を監視します。実行されない理由はキューが満杯の場合、または接続数を処理するだけのリソースがないためです。この値が"1"以上の場合は、ASP.NET ページのスクリプトが複雑すぎます。この値は、監視間隔の平均値となります。
ASP Errors/sec	ASP の 1 秒間当たりのエラー数を監視します。この値には接続エラー、コンパイルエラー、およびランタイムエラーが含まれます。この値が"0"より大きい場合はサーバの構成、ASP ページのスクリプトに何らかの問題があります。この値は、監視間隔の平均値となります。
ASP Reqs Queued	ASP のキューの待ち数を監視します。負荷の増加率以上にこの値が増加する場合は、ASP ページのスクリプトが複雑すぎます。この値は、監視間隔の平均値となります。
ASP Reqs Rejected	ASP のリクエストに対し、実行されなかった数を監視します。実行されない理由はキューが満杯の場合、または接続数を処理するだけのリソースがないためです。この値が"1"以上の場合は、ASP ページのスクリプトが複雑すぎます。この値は、監視間隔の平均値となります。
Logical Disk Queue	Disk Queue の READ, WRITE 要求の平均値を監視します。"2"未満が望ましい値です。この値は、監視間隔の平均値となります。
Mem Available Bytes	コンピュータ上で現在利用できる物理メモリー容量を監視します。物理メモリーの総容量から OS や実行中のアプリケーションが使用しているメモリー容量を引いた値です。この値は、監視間隔の平均値となります。
Pages Reads/sec	ハードページフォルト（実際にハードディスクとやりとりしなければならないページフォルト）の数を監視します。表示される値は、読み取り操作で取得したページ数でなく、読み取り操作の回数です。毎秒 5 回以上読み取り操作が続いている状態の場合は、メモリー不足の可能性が高いです。この値は、監視間隔の平均値となります。
Physical Disk Queue	Disk Queue の READ, WRITE 要求の平均値を監視します。"2"未満が望ましいです。この値は、監視間隔の平均値となります。

APNT Errors/sec

概要

ASP.NET の 1 秒間当たりのエラー数を監視します。この値には接続エラー、コンパイルエラー、およびランタイムエラーが含まれます。この値が"0"より大きい場合はサーバの構成、ASP.NET ページのスク립トに何らかの問題があります。

この値は、監視間隔の平均値となります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
タブ名	項目	
基本情報	プロダクト	IIS
	メッセージテキスト	Need to check the Error displayed in the APNT pages and appropriate action taken.
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	アラーム通知	状態が変化した時に通知する
	通知対象	アラームの状態変化
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	回しきい値超過	2
	インターバル中	3
アクション	E メール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	ASP.NET Throughput (PI_APNT)
	フィールド	Errors/sec
	異常条件	Errors/sec > "1"
	警告条件	Errors/sec > "0"

(凡例)

— : 設定は常に無効です

関連レポート

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/APNT Condition(5.0)

APNT Reqs Queued

概要

ASP.NET のキューの待ち数を監視します。負荷の増加率以上にこの値が増加する場合は、ASP.NET ページのスク립トが複雑すぎます。

この値は、監視間隔の平均値となります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
タブ名	項目	
基本情報	プロダクト	IIS
	メッセージテキスト	May need to upgrade or add processors
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	アラーム通知	状態が変化した時に通知する
	通知対象	アラームの状態変化
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	回しきい値超過	2
	インターバル中	3
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	ASP.NET Throughput (PI_APNT)
	フィールド	Reqs Queued
	異常条件	Reqs Queued > "1"
	警告条件	Reqs Queued > "0"

(凡例)

— : 設定は常に無効です

関連レポート

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/APNT Condition(5.0)

APNT Reqs Rejected

概要

ASP.NET のリクエストに対し、実行されなかった数を監視します。実行されない理由はキューが満杯の場合、または接続数を処理するだけのリソースがないためです。この値が"1"以上の場合は、ASP.NET ページのスクリプトが複雑すぎます。

この値は、監視間隔の平均値となります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
タブ名	項目	
基本情報	プロダクト	IIS
	メッセージテキスト	May need to upgrade or add processors
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	アラーム通知	状態が変化した時に通知する
	通知対象	アラームの状態変化
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	回しきい値超過	2
	インターバル中	3
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	ASP.NET Throughput (PI_APNT)
	フィールド	Reqs Rejected
	異常条件	Reqs Rejected > "1"
	警告条件	Reqs Rejected > "0"

(凡例)

— : 設定は常に無効です

関連レポート

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/APNT Condition(5.0)

ASP Errors/sec

概要

ASP の 1 秒間当たりのエラー数を監視します。この値には接続エラー、コンパイルエラー、およびランタイムエラーが含まれます。この値が"0"より大きい場合はサーバの構成、ASP ページのスクリプトに何らかの問題があります。

この値は、監視間隔の平均値となります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
タブ名	項目	
基本情報	プロダクト	IIS
	メッセージテキスト	Need to check the Error displayed in the ASP pages and appropriate action taken.
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	アラーム通知	状態が変化した時に通知する
	通知対象	アラームの状態変化
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	回しきい値超過	2
	インターバル中	3
アクション	E メール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)
	フィールド	Errors/sec
	異常条件	Errors/sec > "1"
	警告条件	Errors/sec > "0"

(凡例)

— : 設定は常に無効です

関連レポート

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/ASP Condition

ASP Reqs Queued

概要

ASP のキューの待ち数を監視します。負荷の増加率以上にこの値が増加する場合は、ASP ページのスク립トが複雑すぎます。

この値は、監視間隔の平均値となります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
タブ名	項目	
基本情報	プロダクト	IIS
	メッセージテキスト	May need to upgrade or add processors
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	アラーム通知	状態が変化した時に通知する
	通知対象	アラームの状態変化
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	回しきい値超過	2
	インターバル中	3
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)
	フィールド	Reqs Queued
	異常条件	Reqs Queued > "1"
	警告条件	Reqs Queued > "0"

(凡例)

— : 設定は常に無効です

関連レポート

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/ASP Condition

ASP Reqs Rejected

概要

ASP のリクエストに対し、実行されなかった数を監視します。実行されない理由はキューが満杯の場合か、または接続数を処理するだけのリソースがないためです。

この値が"1"以上の場合は、ASP ページのスク립トが複雑すぎます。

この値は、監視間隔の平均値となります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
タブ名	項目	
基本情報	プロダクト	IIS
	メッセージテキスト	May need to upgrade or add processors
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	アラーム通知	状態が変化した時に通知する
	通知対象	アラームの状態変化
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	回しきい値超過	2
	インターバル中	3
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)
	フィールド	Reqs Rejected
	異常条件	Reqs Rejected > "1"
	警告条件	Reqs Rejected > "0"

(凡例)

— : 設定は常に無効です

関連レポート

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/ASP Condition

Logical Disk Queue

概要

Disk Queue の READ, WRITE 要求の平均値を監視します。"2"未満が望ましい値です。

この値は、監視間隔の平均値となります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
タブ名	項目	
基本情報	プロダクト	IIS
	メッセージテキスト	Consider upgrading the disk drive or moving some files to an additional disk or server
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	アラーム通知	状態が変化した時に通知する
	通知対象	アラームの状態変化
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	回しきい値超過	2
	インターバル中	3
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Logical Disk Overview (PI_LGDP)
	フィールド	Current Disk Queue Length
	異常条件	Current Disk Queue Length > "1"
	警告条件	Current Disk Queue Length > "0"

(凡例)

— : 設定は常に無効です

関連レポート

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Logical Disk

Mem Available Bytes

概要

コンピュータ上で現在利用できる物理メモリー容量を監視します。物理メモリーの総容量から OS や実行中のアプリケーションが使用しているメモリー容量を引いた値です。

この値は、監視間隔の平均値となります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
タブ名	項目	
基本情報	プロダクト	IIS
	メッセージテキスト	If the server has very little available memory, you may need to add memory to the system
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	アラーム通知	状態が変化した時に通知する
	通知対象	アラームの状態変化
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	回しきい値超過	2
	インターバル中	3
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	IIS WorkingSet (PI_WS)
	フィールド	Memory Available Bytes
	異常条件	Memory Available Bytes < "4,194,304"
	警告条件	Memory Available Bytes < "10,485,760"

(凡例)

— : 設定は常に無効です

関連レポート

Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/Memory Usage Status

Pages Reads/sec

概要

ハードページフォールト（実際にハードディスクとやりとりしなければならないページフォールト）の数を監視します。表示される値は、読み取り操作で取得したページ数でなく、読み取り操作の回数です。毎秒5回以上読み取り操作が続いている状態の場合は、メモリー不足の可能性が高いです。

この値は、監視間隔の平均値となります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
タブ名	項目	
基本情報	プロダクト	IIS
	メッセージテキスト	In such faults there should be increase in the amount of memory / reduce the case size on the server
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	アラーム通知	状態が変化した時に通知する
	通知対象	アラームの状態変化
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	回しきい値超過	2
	インターバル中	3
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	IIS WorkingSet (PI_WS)
	フィールド	Memory Page Reads/sec
	異常条件	Memory Page Reads/sec > "6"
	警告条件	Memory Page Reads/sec > "4"

(凡例)

—：設定は常に無効です

関連レポート

Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/Memory Usage Status

Physical Disk Queue

概要

Disk Queue の READ, WRITE 要求の平均値を監視します。"2"未満が望ましい値です。

この値は、監視間隔の平均値となります。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
タブ名	項目	
基本情報	プロダクト	IIS
	メッセージテキスト	Consider upgrading the disk drive or moving some files to an additional disk or server
	値の存在を監視するアラームとする	しない
	アラームを有効にする	する
	アラーム通知	状態が変化した時に通知する
	通知対象	アラームの状態変化
	すべてのデータを評価する	しない
	監視時刻範囲	常に監視する
	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	する
	回しきい値超過	2
	インターバル中	3
アクション	Eメール	—
	コマンド	—
	SNMP	異常, 警告, 正常
条件式	レコード	Physical Disk Overview (PI_PYDP)
	フィールド	Current Disk Queue Length
	異常条件	Current Disk Queue Length > "1"
	警告条件	Current Disk Queue Length > "0"

(凡例)

— : 設定は常に無効です

関連レポート

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Physical Disk

レポートの記載形式

ここでは、レポートの記載形式を示します。レポートは、アルファベット順に記載しています。記載形式を次に示します。

レポート名

監視テンプレートのレポート名を示します。

概要

このレポートで表示できる情報の概要について説明します。

格納先

このレポートの格納先を示します。


レコード

このレポートで使用するパフォーマンスデータが、格納されているレコードを示します。履歴レポートを表示するためには、この欄に示すレコードを収集するように、あらかじめ設定しておく必要があります。レポートを表示する前に、PFM - Web Console の [エージェント階層] 画面でエージェントのプロパティを表示して、このレコードが「Log = Yes」に設定されているか確認してください。リアルタイムレポートの場合、設定する必要はありません。

フィールド

このレポートで使用するレコードのフィールドについて、表で説明します。

ドリルダウンレポート（レポートレベル）

このレポートに関連づけられた、監視テンプレートのレポートを表で説明します。このドリルダウンレポートを表示するには、PFM - Web Console のレポートウィンドウのツールバーにあるドリルダウンレポートドロップダウンリストから、該当するドリルダウンレポート名を選択し、 ボタンをクリックしてください。なお、レポートによってドリルダウンレポートを持つものと持たないものがあります。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

このレポートのフィールドに関連づけられた、監視テンプレートのレポートを表で説明します。このドリルダウンレポートを表示するには、PFM - Web Console のレポートウィンドウに表示されているレポートのグラフまたはレポートウィンドウ下部に表示されているフィールド名をクリックしてください。履歴レポートの場合、レポート中の青色で表示されている時間をクリックすることで、より詳細な時間間隔でレポートを表示できます。なお、レポートによってドリルダウンレポートを持つものと持たないものがあります。

レポートのフォルダ構成

PFM - Agent for IIS のレポートのフォルダ構成を次に示します。< >内は、フォルダ名を示します。

```
<IIS>
+-- <Monthly Trend>
|   +-- Cache Trend
|   +-- Memory Cache Trend(5.0)
|   +-- <Advanced>
|       +-- FTP Bytes Trend
|       +-- FTP Conns Trend
|       +-- FTP Files Trend
|       +-- Internet Trend
|       +-- Logical Disk Trend
|       +-- Memory Trend(5.0)
|       +-- Physical Disk Trend
|       +-- SMTP Bytes Trend
|       +-- SMTP Messages Trend
|       +-- WWW Cache Trend(5.0)
|       +-- Web Bytes Trend
|       +-- Web Conns Trend
|       +-- Web Files Trend
|       +-- Web Users Trend
+-- <Status Reporting>
|   +-- <Daily Trend>
|       +-- Cache Trend
|       +-- Memory Cache Trend(5.0)
|       +-- <Advanced>
|           +-- APNT Reqs Trend(5.0)
|           +-- APNT TRans Trend(5.0)
|           +-- ASP Reqs Trend
|           +-- ASP Trans Trend
|           +-- Bandwidth Throttling Trend
|           +-- FTP Bytes Trend
|           +-- FTP Conns Trend
|           +-- FTP Files Trend
|           +-- FTP Users Trend
|           +-- HTTP Not-Found Errors Trend
|           +-- Internet Trend
|           +-- Memory Trend(5.0)
|           +-- Logical Disk Trend
|           +-- Network Trend
|           +-- Physical Disk Trend
|           +-- Process Info Inetinfo Trend
|           +-- Processor Trend
|           +-- SMTP Bytes Trend
|           +-- SMTP Messages Trend
|           +-- TCP Conns Trend
|           +-- TCP Trend
|           +-- Thread Count Trend
|           +-- WWW Cache Trend(5.0)
|           +-- Web Bytes Trend
|           +-- Web Conns Trend
|           +-- Web Files Trend
|           +-- Web Users Trend
|   +-- <Real-Time>
```



```

    +---Data Link Status
    +---Internet Status(5.0)
    +---Memory Usage Status(5.0)
    +---Thread Count Status
    +---Thread Info Status
    +---WWW Cache Status(5.0)
+--- <Troubleshooting>
    +--- <Real-Time>
        +--- APNT Condition(5.0)
        +--- ASP Condition
        +--- FTP Bytes
        +--- FTP Conns
        +--- FTP Files
        +--- Logical Disk
        +--- Memory(5.0)
        +--- Physical Disk
        +--- Processor
        +--- Web Bytes
        +--- Web Conns
        +--- Web Files
        +--- <Drilldown Only>
            +--- APNT Condition Detail(5.0)
            +--- ASP Condition Detail
            +--- FTP Users Detail
            +--- Logical Disk Detail
            +--- Physical Disk Detail
            +--- Processor Detail
            +--- Web Users Detail
    +--- <Recent Past>
        +--- Cache Summary
        +--- Memory Cache Summary(5.0)
        +--- <Advanced>
            +---APNT Condition Summary(5.0)
            +---ASP Condition Summary
            +---Logical Disk Summary
            +---Memory Summary(5.0)
            +---Physical Disk Summary
            +---Processor Summary

```

各フォルダの説明を次に示します。

- 「Monthly Trend」フォルダ
最近 1 か月間の 1 日ごとに集計された情報を表示するレポートが格納されています。1 か月のシステムの傾向を分析するために使用します。
- 「Status Reporting」フォルダ
日、または週ごとに、システムの総合的な状態を見るために使用します。また、履歴レポートのほかにリアルタイムレポートの表示もできます。
 - 「Daily Trend」フォルダ
最近 24 時間の 1 時間ごとに集計された情報を表示するレポートが格納されています。1 日ごとにシステムの状態を確認するために使用します。
 - 「Real - Time」フォルダ

システムの状態を確認するためのリアルタイムレポートが格納されています。

- 「Troubleshooting」フォルダ

トラブルを解決するのに役立つ情報を表示するレポートが格納されています。システムに問題が発生した場合、問題の原因を調査するために使用します。

- 「Real - Time」フォルダ

現在のシステムの状態を確認するためのリアルタイムレポートが格納されています。

- 「Recent Past」フォルダ

最近 1 時間の 1 分ごとに集計された情報を表示する履歴レポートが格納されています。

さらに、これらのフォルダの下位には、次のフォルダがある場合があります。上位のフォルダによって、どのフォルダがあるかは異なります。各フォルダについて次に説明します。

- 「Advanced」フォルダ

デフォルトで「Log=No」に設定されているレコードを使用しているレポートが格納されています。このフォルダのレポートを表示するには、使用しているレコードの設定を PFM - Web Console で「Log=Yes」にする必要があります。

- 「Drilldown Only」フォルダ

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）として表示されるレポートが格納されています。そのレポートのフィールドに関連する詳細な情報を表示するために使用します。

レポート一覧

監視テンプレートで定義されているレポートをアルファベット順に次の表に示します。

表 5-2 レポート一覧 (監視テンプレート)

レポート名	表示する情報	格納先
APNT Condition(5.0)	ASP.NET のリクエストに関する情報を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/
APNT Condition Detail(5.0)	ASP.NET の使用状況の詳細。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/
APNT Condition Summary(5.0)	最近 1 時間の、ASP.NET の 1 分ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/
APNT Reqs Trend(5.0)	最近 24 時間の、ASP.NET リクエストの 1 時間ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
APNT Trans Trend(5.0)	最近 24 時間の、ASP.NET トランザクションの 1 時間ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
ASP Condition	ASP のリクエストに関する情報を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/
ASP Condition Detail	ASP の使用状況の詳細。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/
ASP Condition Summary	最近 1 時間の、ASP の 1 分ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/
ASP Reqs Trend	最近 24 時間の、ASP Reqs Trend の 1 時間ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
ASP Trans Trend	最近 24 時間の、ASP Trans Trend の 1 時間ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Bandwidth Throttling Trend	最近 24 時間の、帯域幅スロットリングの 1 時間ごとの使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Cache Summary	最近 1 時間の、キャッシュに関する 1 分ごとの情報。	Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past
Cache Trend (キャッシュに関する 1 日ごとの情報)	最近 1 か月間の、キャッシュに関する 1 日ごとの情報。	Reports/IIS/Monthly Trend/
Cache Trend (キャッシュに関する 1 時間ごとの情報)	最近 24 時間の、キャッシュに関する 1 時間ごとの情報。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/
Data Link Status	最近 24 時間の、Data Link Layer の 1 時間ごとの平均バイト転送量を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/
FTP Bytes	FTP サービスのデータ転送に関する情報を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レポート名	表示する情報	格納先
FTP Bytes Trend (FTP サイトの 1 日ごとの平均バイト数)	最近 1 か月間の、FTP サイトの 1 日ごとの平均バイト数。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
FTP Bytes Trend (FTP サービスの 1 時間ごとの状況)	最近 24 時間の、FTP サービスの 1 時間ごとの状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
FTP Conns	FTP サービスの接続に関する情報を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/
FTP Conns Trend (FTP サイトの 1 日ごとの接続状況)	最近 1 か月間の、FTP サイトの 1 日ごとの接続状況。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
FTP Conns Trend (FTP サービスの 1 時間ごとの接続状況)	最近 24 時間の、FTP サービスの 1 時間ごとの接続状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
FTP Files	FTP サービスのファイル転送に関する情報を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/
FTP Files Trend (FTP サイトの 1 日ごとの平均ファイル数)	最近 1 か月間の、FTP サイトの 1 日ごとの平均ファイル数。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
FTP Files Trend (FTP サービスの 1 時間ごとの平均ファイル数)	最近 24 時間の、FTP サービスの 1 時間ごとの平均ファイル数。	Reports/IIS/Daily Trend/Advanced/
FTP Users Detail	FTP Users の使用状況の詳細。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/
FTP Users Trend	最近 24 時間の、FTP Users の 1 時間ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
HTTP Not-Found Errors Trend	最近 24 時間の、HTTP 要求に対する、"Not-FoundErrors"の 1 時間ごとの発生状況に関する情報。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Internet Status	インターネットサービスの稼働状況に関する情報を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/
Internet Trend (インターネットの 1 日ごとの使用状況)	最近 1 か月間の、インターネットの 1 日ごとの使用状況。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
Internet Trend (インターネットの 1 時間ごとの使用状況)	最近 24 時間の、インターネットの 1 時間ごとの使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Logical Disk	Logical Disk の待ち状況を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/
Logical Disk Detail	Logical Disk の待ち状況の詳細。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/
Logical Disk Summary	最近 1 時間の、Logical Disk の 1 分ごとの使用状況。	Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/
Logical Disk Trend (Logical Disk の 1 日ごとの平均使用状況)	最近 1 か月間の、Logical Disk の 1 日ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レポート名	表示する情報	格納先
Logical Disk Trend (Logical Disk の 1 時間ごとの平均使用状況)	最近 24 時間の, Logical Disk の 1 時間ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Memory(5.0)	システムのメモリー使用状況を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/
Memory Cache Summary(5.0)	最近 1 時間の, キャッシュに関する 1 分ごとの情報。	Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/
Memory Cache Trend(5.0) (メモリーキャッシュに関する 1 日ごとの情報)	最近 1 か月間の, メモリーキャッシュに関する 1 日ごとの情報。	Reports/IIS/Monthly Trend/
Memory Cache Trend(5.0) (メモリーキャッシュに関する 1 時間ごとの情報)	最近 24 時間の, メモリーキャッシュに関する 1 時間ごとの情報。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend
Memory Summary(5.0)	最近 1 時間の, システムの 1 分ごとのメモリー使用状況。	Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/
Memory Trend(5.0) (システムの 1 日ごとのメモリー使用状況)	最近 1 か月間の, システムの 1 日ごとのメモリー使用状況。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
Memory Trend(5.0) (システムの 1 時間ごとのメモリー使用状況)	最近 24 時間の, システムの 1 時間ごとのメモリー使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Memory Usage Status(5.0)	メモリーの使用状況を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/
Network Trend	最近 24 時間の, ネットワークの 1 時間ごとの平均 Datagrams 転送量。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Physical Disk	Physical Disk の待ち状況を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/
Physical Disk Detail	Physical Disk の待ち状況の詳細。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/
Physical Disk Summary	最近 1 時間の, Physical Disk の 1 分ごとの使用状況。	Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/
Physical Disk Trend (Physical Disk の 1 日ごとの平均使用状況)	最近 1 か月間の, Physical Disk の 1 日ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
Physical Disk Trend (Physical Disk の 1 時間ごとの平均使用状況)	最近 24 時間の, Physical Disk の 1 時間ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Process Info Inetinfo Trend	最近 24 時間の Web サービス, FTP サービスの 1 時間ごとの状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Processor	Processor の使用状況を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/
Processor Detail	Processor の使用状況の詳細。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

レポート名	表示する情報	格納先
Processor Summary	最近 1 時間の, Processor の 1 分ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/
Processor Trend	最近 24 時間の, Processor の 1 時間ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
SMTP Bytes Trend (SMTP の 1 日ごとの平均バイト転送量)	最近 1 か月間の, SMTP の 1 日ごとの平均バイト転送量。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
SMTP Bytes Trend (SMTP の 1 時間ごとの平均バイト転送量)	最近 24 時間の, SMTP の 1 時間ごとの平均バイト転送量。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced
SMTP Messages Trend (SMTP Messages の 1 日ごとの使用状況)	最近 1 か月間の, SMTP Messages の 1 日ごとの使用状況。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
SMTP Messages Trend (SMTP Messages の 1 時間ごとの使用状況)	最近 24 時間の, SMTP Messages の 1 時間ごとの使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
TCP Conns Trend	最近 24 時間の, TCP 接続の 1 時間ごとの使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
TCP Trend	最近 24 時間の, TCP の 1 時間ごとの使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Thread Count Status	スレッドの情報を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/
Thread Count Trend	最近 24 時間の, スレッドの 1 時間ごとの情報。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Thread Info Status	スレッドの使用状況を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/
Web Bytes	Web サービスのデータ送受信量に関する情報を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/
Web Bytes Trend (Web サイトの 1 日ごとの平均バイト数)	最近 1 か月間の, Web サイトの 1 日ごとの平均バイト数。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
Web Bytes Trend (Web サービスの 1 時間ごとの状況)	最近 24 時間の, Web サービスの 1 時間ごとの状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Web Conns	Web サービスの接続に関する情報を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/
Web Conns Trend (Web サイトの 1 日ごとの接続状況)	最近 1 か月間の, Web サイトの 1 日ごとの接続状況。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
Web Conns Trend (Web サービスの 1 時間ごとの接続状況)	最近 24 時間の, Web サービスの 1 時間ごとの接続状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Web Files	Web サービスのファイル転送に関する情報を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/
Web Files Trend (Web サイトの 1 日ごとの平均ファイル数)	最近 1 か月間の, Web サイトの 1 日ごとの平均ファイル数。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レポート名	表示する情報	格納先
Web Files Trend (Web サービスの1時間ごとの平均ファイル数)	最近24時間の、Web サービスの1時間ごとの平均ファイル数。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
Web Users Detail	Web サービスへの接続ユーザー情報の詳細。	Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/
Web Users Trend (Web Usersの1日ごとの平均使用状況)	最近1か月の、Web Usersの1日ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
Web Users Trend (Web Usersの1時間ごとの平均使用状況)	最近24時間の、Web Usersの1時間ごとの平均使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/
WWW Cache Status(5.0)	WWW サービスの稼働状況に関する情報を示すリアルタイムレポート。	Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/
WWW Cache Trend(5.0) (WWW サービスの1日ごとの使用状況)	最近1か月の、WWW サービスの1日ごとの使用状況。	Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/
WWW Cache Trend(5.0) (WWW サービスの1時間ごとの使用状況)	最近24時間の、WWW サービスの1時間ごとの使用状況。	Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

APNT Condition(5.0)

概要

ASP.NET のリクエストに関する情報をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

ASP.NET Throughput (PI_APNT)

フィールド

フィールド名	説明
Instance	インスタンス名。
Errors/sec	ASP.NET の 1 秒当たりのエラー数。
Reqs Queued	ASP.NET の待機中のリクエスト数。
Reqs Rejected	ASP.NET の拒否されたリクエスト数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
APNT Condition Detail	ASP.NET の使用状況の詳細。

APNT Condition Detail(5.0)

概要

ASP.NET の使用状況の詳細をリアルタイムで表示します。このレポートは一覧で表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

レコード

ASP.NETThroughput (PI_APNT)

フィールド

フィールド名	説明
Instance	インスタンス名。
Errors/sec	ASP.NET の 1 秒当たりのエラー数。
Req Execution Time	ASP.NET のリクエスト実行時間。
Req Wait Time	ASP.NET のリクエスト待機時間。
Reqs Disconnected	ASP.NET の通信エラーまたはユーザー操作によって切断された要求の数。
Reqs Executing	ASP.NET のリクエストを実行した数。
Reqs Failed Total	ASP.NET の失敗したリクエストの数。
Reqs Not Authorized	ASP.NET の認証されていないリクエストの数。
Reqs Not Found	ASP.NET の未発見のリクエストの数。
Reqs Queued	ASP.NET の待機中のリクエスト数。
Reqs Rejected	ASP.NET の拒否されたリクエスト数。
Reqs Succeeded	ASP.NET の成功したリクエストの数。
Reqs Timed Out	ASP.NET のタイムアウトしたリクエストの数。
Reqs Total	ASP.NET のリクエストの総数。
Reqs/sec	ASP.NET の 1 秒当たりのリクエスト数。
Sessions Current	ASP.NET の現在のセッション数。
Trans Aborted	ASP.NET の中断されたトランザクションの数。
Trans Committed	ASP.NET のコミットされたトランザクションの数。
Trans Pending	ASP.NET の保留中のトランザクションの数。
Trans Total	ASP.NET のトランザクションの総数。

フィールド名	説明
Trans/sec	ASP.NET の 1 秒当たりのトランザクション。

APNT Condition Summary(5.0)

概要

最近 1 時間の、ASP.NET の 1 分ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは集合縦棒グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/

レコード

ASP.NET Throughput (PI_APNT)

フィールド

フィールド名	説明
Instance	インスタンス名。
Errors/sec	ASP.NET の 1 秒当たりのエラー数。
Reqs Queued	ASP.NET の待機中のリクエスト数。
Reqs Rejected	ASP.NET の拒否されたリクエスト数。

APNT Reqs Trend(5.0)

概要

最近 24 時間の、ASP.NET リクエストの 1 時間ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは集合縦棒グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

ASP.NET Throughput (PI_APNT)

フィールド

フィールド名	説明
Instance	インスタンス名。
Errors/sec	ASP.NET の 1 秒当たりのエラー数。
Req Execution Time	ASP.NET のリクエスト実行時間。
Req Wait Time	ASP.NET のリクエスト待機時間。
Reqs Disconnected	ASP.NET の通信エラーまたはユーザー操作によって切断された要求の数。
Reqs Executing	ASP.NET のリクエストを実行した数。
Reqs Failed Total	ASP.NET の失敗したリクエストの数。
Reqs Not Authorized	ASP.NET の認証されていないリクエストの数。
Reqs Not Found	ASP.NET の未発見のリクエストの数。
Reqs Queued	ASP.NET の待機中のリクエスト数。
Reqs Rejected	ASP.NET の拒否されたリクエスト数。
Reqs Succeeded	ASP.NET の成功したリクエストの数。
Reqs Timed Out	ASP.NET のタイムアウトしたリクエストの数。
Reqs Total	ASP.NET のリクエストの総数。
Reqs/sec	ASP.NET の 1 秒当たりのリクエスト数。

APNT Trans Trend(5.0)

概要

最近 24 時間の、ASP.NET トランザクションの 1 時間ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

ASP.NET Throughput (PI_APNT)

フィールド

フィールド名	説明
Instance	インスタンス名。
Sessions Current	ASP.NET の現在のセッション数。
Trans Aborted	ASP.NET の中断されたトランザクションの数。
Trans Committed	ASP.NET のコミットされたトランザクションの数。
Trans Pending	ASP.NET の保留中のトランザクションの数。
Trans Total	ASP.NET のトランザクションの総数。
Trans/sec	ASP.NET の 1 秒当たりのトランザクション。

ASP Condition

概要

ASP のリクエストに関する情報をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)

フィールド

フィールド名	説明
Errors/sec	ASP の 1 秒当たりのエラー数。
Reqs Queued	ASP の待機中のリクエスト数。
Reqs Rejected	ASP の拒否されたリクエスト数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
ASP Condition Detail	ASP の使用状況の詳細。

ASP Condition Detail

概要

ASP の使用状況の詳細をリアルタイムで表示します。このレポートは一覧で表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

レコード

Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)

フィールド

フィールド名	説明
Errors/sec	ASP の 1 秒当たりのエラー数。
Req Execution Time	ASP のリクエスト実行時間。
Req Wait Time	ASP のリクエスト待機時間。
Reqs Disconnected	ASP の認証されていないリクエストの数。
Reqs Executing	ASP のリクエストを実行した数。
Reqs Failed Total	ASP の失敗したリクエストの数。
Reqs Not Authorized	ASP の認証されていないリクエストの数。
Reqs Not Found	ASP の未発見のリクエストの数。
Reqs Queued	ASP の待機中のリクエスト数。
Reqs Rejected	ASP の拒否されたリクエスト数。
Reqs Succeeded	ASP の成功したリクエストの数。
Reqs Timed Out	ASP のタイムアウトしたリクエストの数。
Reqs Total	ASP のリクエストの総数。
Reqs/sec	ASP の 1 秒当たりのリクエスト数。
Sessions Current	ASP の現在のセッション数。
Trans Aborted	ASP の中断されたトランザクションの数。
Trans Committed	ASP のコミットされたトランザクションの数。
Trans Pending	ASP の保留中のトランザクションの数。
Trans Total	ASP のトランザクションの総数。
Trans/sec	ASP の 1 秒当たりのトランザクション。

ASP Condition Summary

概要

最近 1 時間の、ASP の 1 分ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/

レコード

Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)

フィールド

フィールド名	説明
Errors/sec	ASP の 1 秒当たりのエラー数。
Reqs Queued	ASP の待機中のリクエスト数。
Reqs Rejected	ASP の拒否されたリクエスト数。

ASP Reqs Trend

概要

最近 24 時間の、ASP Reqs Trend の 1 時間ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)

フィールド

フィールド名	説明
Errors/sec	ASP の 1 秒当たりのエラー数。
Req Execution Time	ASP のリクエスト実行時間。
Req Wait Time	ASP のリクエスト待機時間。
Reqs Disconnected	ASP の認証されていないリクエストの数。
Reqs Executing	ASP のリクエストを実行した数。
Reqs Failed Total	ASP の失敗したリクエストの数。
Reqs Not Authorized	ASP の認証されていないリクエストの数。
Reqs Not Found	ASP の未発見のリクエストの数。
Reqs Queued	ASP の待機中のリクエスト数。
Reqs Rejected	ASP の拒否されたリクエスト数。
Reqs Succeeded	ASP の成功したリクエストの数。
Reqs Timed Out	ASP のタイムアウトしたリクエストの数。
Reqs Total	ASP のリクエストの総数。
Reqs/sec	ASP の 1 秒当たりのリクエスト数。

ASP Trans Trend

概要

最近 24 時間の、ASP Trans Trend の 1 時間ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)

フィールド

フィールド名	説明
Sessions Current	ASP の現在のセッション数。
Trans Aborted	ASP の中断されたトランザクションの数。
Trans Committed	ASP のコミットされたトランザクションの数。
Trans Pending	ASP の保留中のトランザクションの数。
Trans Total	ASP のトランザクションの総数。
Trans/sec	ASP の 1 秒当たりのトランザクション。

Bandwidth Throttling Trend

概要

最近 24 時間の、帯域幅スロットリングの 1 時間ごとの使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

IIS Bandwidth Throttling (PI_BT)

フィールド

フィールド名	説明
Current Blocked Async I/O Req	インターネットサービスのブロックされた現在の非同期 I/O。
Measured Async I/O B/W Usage	インターネットサービスの測定された非同期帯域幅の総使用数。
Total Allowed Async I/O Req	インターネットサービスの許可された非同期 I/O の総数。
Total Blocked Async I/O Req	インターネットサービスのブロックされた現在の非同期 I/O リクエストの総数。
Total Rejected Async I/O Req	インターネットサービスの拒否された現在の非同期 I/O リクエストの総数。

Cache Summary

概要

最近 1 時間の、キャッシュに関する 1 分ごとの情報を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

File System Cache (PI)

フィールド

フィールド名	説明
Cache Copy Reads/sec	ファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。
Cache Fast Reads/sec	インストールしたファイルシステムをバイパスし、ファイルシステムキャッシュから読み込む頻度 (1 秒当たり)。
Cache MDL Reads/sec	MDL を使用してのファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。
Cache Pin Reads/sec	キャッシュから最近アクセスされたデータのブロックをシステムが読み込もうとした頻度 (1 秒当たり)。
Cache Read Ahead/sec	ファイルへのシーケンシャルアクセスをする際のファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。

Cache Trend (キャッシュに関する 1 日ごとの情報)

概要

最近 1 か月間の、キャッシュに関する 1 日ごとの情報を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/

レコード

File System Cache (PI)

フィールド

フィールド名	説明
Cache Copy Reads/sec	ファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。
Cache Fast Reads/sec	インストールしたファイルシステムをバイパスし、ファイルシステムキャッシュから読み込む頻度 (1 秒当たり)。
Cache MDL Reads/sec	MDL を使用してのファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。
Cache Pin Reads/sec	キャッシュから最近アクセスされたデータのブロックをシステムが読み込もうとした頻度 (1 秒当たり)。
Cache Read Ahead/sec	ファイルへのシーケンシャルアクセスをする際のファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。

Cache Trend (キャッシュに関する 1 時間ごとの情報)

概要

最近 24 時間の、キャッシュに関する 1 時間ごとの情報を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/

レコード

File System Cache (PI)

フィールド

フィールド名	説明
Cache Copy Reads/sec	ファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。
Cache Fast Reads/sec	インストールしたファイルシステムをバイパスし、ファイルシステムキャッシュから読み込む頻度 (1 秒当たり)。
Cache MDL Reads/sec	MDL を使用してのファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。
Cache Pin Reads/sec	キャッシュから最近アクセスされたデータのブロックをシステムが読み込もうとした頻度 (1 秒当たり)。
Cache Read Ahead/sec	ファイルへのシーケンシャルアクセスをする際のファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。

Data Link Status

概要

最近 24 時間の、Data Link Layer の 1 時間ごとの平均バイト転送量をリアルタイムで表示します。このレポートは集合縦棒グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/

レコード

DataLink Layer Overview (PD_TRDL)

フィールド

フィールド名	説明
Bytes Rcvd/sec	ネットワークインターフェースの 1 秒当たりの受信バイト数。
Bytes Sent/sec	ネットワークインターフェースの 1 秒当たりの送信バイト数。
Bytes Total/sec	ネットワークインターフェースの 1 秒当たりの送受信バイト数。
Instance	インスタンス。

FTP Bytes

概要

FTP サービスのデータ転送に関する情報をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

Application Layer Overview (PI_TRAL)

フィールド

フィールド名	説明
FTP - Bytes Rcvd/sec	FTP サービスの 1 秒当たりの受信バイト数。
FTP - Bytes Sent/sec	FTP サービスの 1 秒当たりの送信バイト数。
FTP - Bytes Total/sec	FTP サービスが送受信した総バイト数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
FTP Users Detail	FTP Users の平均使用状況の詳細。

FTP Bytes Trend (FTP サイトの 1 日ごとの平均バイト数)

概要

最近 1 か月間の、FTP サイトの 1 日ごとの平均バイト数を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

Application Layer Overview (PI_TRAL)

フィールド

フィールド名	説明
FTP - Bytes Rcvd/sec	FTP サービスの 1 秒当たりの受信バイト数。
FTP - Bytes Sent/sec	FTP サービスの 1 秒当たりの送信バイト数。
FTP - Bytes Total/sec	FTP サービスが送受信した総バイト数。

FTP Bytes Trend (FTP サービスの 1 時間ごとの状況)

概要

最近 24 時間の、FTP サービスの 1 時間ごとの状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Application Layer Overview (PI_TRAL)

フィールド

フィールド名	説明
FTP - Bytes Rcvd/sec	FTP サービスの 1 秒当たりの受信バイト数。
FTP - Bytes Sent/sec	FTP サービスの 1 秒当たりの送信バイト数。
FTP - Bytes Total/sec	FTP サービスが送受信した総バイト数。

FTP Conns

概要

FTP サービスの接続に関する情報をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

Monitoring Connection (PI_CONN)

フィールド

フィールド名	説明
FTP - Current Conns	FTP サービスの現在の接続数。
FTP - Maximum Conns	FTP サービスの最大接続数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
FTP Users Detail	FTP Users の平均使用状況の詳細。

FTP Conns Trend (FTP サイトの 1 日ごとの接続状況)

概要

最近 1 か月間の、FTP サイトの 1 日ごとの接続状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

Monitoring Connection (PI_CONN)

フィールド

フィールド名	説明
FTP - Current Conns	FTP サービスの現在の接続数。
FTP - Maximum Conns	FTP サービスの最大接続数。

FTP Conns Trend (FTP サービスの 1 時間ごとの接続状況)

概要

最近 24 時間の、FTP サービスの 1 時間ごとの接続状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Monitoring Connection (PI_CONN)

フィールド

フィールド名	説明
FTP - Current Conns	FTP サービスの現在の接続数。
FTP - Maximum Conns	FTP サービスの最大接続数。

FTP Files

概要

FTP サービスのファイル転送に関する情報をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

IIS File Transfer (PI_FLTR)

フィールド

フィールド名	説明
FTP - Total Files Rcvd	FTP サーバが受信したファイルの総数。
FTP - Total Files Sent	FTP サーバが送信したファイルの総数。
FTP - Total Files Xferd	FTP サーバが転送したファイルの総数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
FTP Users Detail	FTP Users の平均使用状況の詳細。

FTP Files Trend (FTP サイトの 1 日ごとの平均ファイル数)

概要

最近 1 か月間の、FTP サイトの 1 日ごとの平均ファイル数を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

IIS File Transfer (PI_FLTR)

フィールド

フィールド名	説明
FTP - Total Files Rcvd	FTP サーバが受信したファイルの総数。
FTP - Total Files Sent	FTP サーバが送信したファイルの総数。
FTP - Total Files Xferd	FTP サーバが転送したファイルの総数。

FTP Files Trend (FTP サービスの 1 時間ごとの平均ファイル数)

概要

最近 24 時間の、FTP サービスの 1 時間ごとの平均ファイル数を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Daily Trend/Advanced/

レコード

IIS File Transfer (PI_FLTR)

フィールド

フィールド名	説明
FTP - Total Files Rcvd	FTP サーバが受信したファイルの総数。
FTP - Total Files Sent	FTP サーバが送信したファイルの総数。
FTP - Total Files Xferd	FTP サーバが転送したファイルの総数。

FTP Users Detail

概要

FTP Users の使用状況の詳細をリアルタイムで表示します。このレポートは一覧で表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

レコード

FTP User Overview (PI_ANAF)

フィールド

フィールド名	説明
Current Anonymous Users	FTP サービスの現在の匿名ユーザー数。
Current Nonanonymous Users	FTP サービスの現在の非匿名ユーザー数。
Maximum Anonymous Users	FTP サービスの匿名ユーザーの最大数。
Maximum Nonanonymous Users	FTP サービスの非匿名ユーザーの最大数。
Total Anonymous Users	FTP サービスの匿名ユーザーの総数。
Total Nonanonymous Users	FTP サービスの非匿名ユーザーの総数。

FTP Users Trend

概要

最近 24 時間の、FTP Users の 1 時間ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

FTP User Overview (PI_ANAF)

フィールド

フィールド名	説明
Current Anonymous Users	FTP サービスの現在の匿名ユーザー数。
Current Nonanonymous Users	FTP サービスの現在の非匿名ユーザー数。
Maximum Anonymous Users	FTP サービスの匿名ユーザーの最大数。
Maximum Nonanonymous Users	FTP サービスの非匿名ユーザーの最大数。
Total Anonymous Users	FTP サービスの匿名ユーザーの総数。
Total Nonanonymous Users	FTP サービスの非匿名ユーザーの総数。

HTTP Not-Found Errors Trend

概要

最近 24 時間の HTTP 要求での, "Not-Found Errors"の 1 時間ごとの発生状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Not Found Errors (PI_NFE)

フィールド

フィールド名	説明
Web - Not Found Errors/sec	Web サービスの 1 秒当たりの未発見のエラー数。

Internet Status

概要

インターネットサービスの稼働状況に関する情報をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/

レコード

IIS WorkingSet (PI_WS)

フィールド

フィールド名	説明
IIS - Cache Flushes	インターネットサービスのキャッシュの一部が期限切れになった回数。
IIS - Cache Hits	インターネットサービスのキャッシュで見つかったクエリ数 (1 秒当たり)。
IIS - Cache Hits %	インターネットサービスのキャッシュで見つかったクエリの割合。
IIS - Cache Misses	インターネットサービスのキャッシュで見つからなかったクエリ数 (1 秒当たり)。
Process Page Faults/sec	インターネットサービスのプロセスページフォールト (1 秒当たり)。
Process Working Set	インターネットサービスのプロセスのワーキングセットにおけるバイト数。

Internet Trend (インターネットの 1 日ごとの使用状況)

概要

最近 1 か月間の、インターネットの 1 日ごとの使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

IIS WorkingSet (PI_WS)

フィールド

フィールド名	説明
IIS - Cache Flushes	インターネットサービスのキャッシュの一部が期限切れになった回数。
IIS - Cache Hits	インターネットサービスのキャッシュで見つかったクエリ数 (1 秒当たり)。
IIS - Cache Hits %	インターネットサービスのキャッシュで見つかったクエリの割合。
IIS - Cache Misses	インターネットサービスのキャッシュで見つからなかったクエリ数 (1 秒当たり)。

Internet Trend (インターネットの 1 時間ごとの使用状況)

概要

最近 24 時間の、インターネットの 1 時間ごとの使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

IIS WorkingSet (PI_WS)

フィールド

フィールド名	説明
IIS - Cache Flushes	インターネットサービスのキャッシュの一部が期限切れになった回数。
IIS - Cache Hits	インターネットサービスのキャッシュで見つかったクエリ数 (1 秒当たり)。
IIS - Cache Hits %	インターネットサービスのキャッシュで見つかったクエリの割合。
IIS - Cache Misses	インターネットサービスのキャッシュで見つからなかったクエリ数 (1 秒当たり)。

Logical Disk

概要

Logical Disk の待ち状況をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

Logical Disk Overview (PI_LGDP)

フィールド

フィールド名	説明
Current Disk Queue Length	現在のディスクキュー長。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Logical Disk Detail	Logical Disk の待ち状況の詳細。

Logical Disk Detail

概要

Logical Disk の待ち状況の詳細をリアルタイムで表示します。このレポートは一覧で表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

レコード

Logical Disk Overview (PI_LGDP)

フィールド

フィールド名	説明
% Disk Time	ディスクドライブがビジー状態の経過時間の割合。
Avg Disk Queue Length	ディスクキュー平均の長さ。
Avg Disk Sec/Transfer	平均ディスク転送時間 (秒単位)。
Current Disk Queue Length	現在のディスクキュー長。
Disk Reads/sec	ディスク読み込みの 1 秒当たりの回数。
Disk Writes/sec	ディスク書き込みの 1 秒当たりの回数。

Logical Disk Summary

概要

最近 1 時間の、Logical Disk の 1 分ごとの使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/

レコード

Logical Disk Overview (PI_LGDP)

フィールド

フィールド名	説明
Current Disk Queue Length	現在のディスクキュー長。

Logical Disk Trend (Logical Disk の 1 日ごとの平均使用状況)

概要

最近 1 か月間の、Logical Disk の 1 日ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

Logical Disk Overview (PI_LGDP)

フィールド

フィールド名	説明
% Disk Time	ディスクドライブがビジー状態の経過時間の割合。
Avg Disk Queue Length	ディスクキュー平均の長さ。
Avg Disk Sec/Transfer	平均ディスク転送時間 (秒単位)。
Current Disk Queue Length	現在のディスクキュー長。
Disk Reads/sec	ディスク読み込みの 1 秒当たりの回数。
Disk Writes/sec	ディスク書き込みの 1 秒当たりの回数。

Logical Disk Trend (Logical Disk の 1 時間ごとの平均使用状況)

概要

最近 24 時間の、Logical Disk の 1 時間ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Logical Disk Overview (PI_LGDP)

フィールド

フィールド名	説明
% Disk Time	ディスクドライブがビジー状態の経過時間の割合。
Avg Disk Queue Length	ディスクキュー平均の長さ。
Avg Disk Sec/Transfer	平均ディスク転送時間 (秒単位)。
Current Disk Queue Length	現在のディスクキュー長。
Disk Reads/sec	ディスク読み込みの 1 秒当たりの回数。
Disk Writes/sec	ディスク書き込みの 1 秒当たりの回数。

Memory(5.0)

概要

システムのメモリー使用状況をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

IIS WorkingSet (PI_WS)

フィールド

フィールド名	説明
Memory Available Bytes	使用可能なメモリーのバイト数。
Memory Page Faults/sec	1秒当たりのメモリーページフォルト数。
Memory Page Reads/sec	1秒当たりのメモリーページ読み込み数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Processor Detail	Processor の使用状況の詳細。

Memory Cache Summary(5.0)

概要

最近 1 時間の、メモリーキャッシュに関する 1 分ごとの情報を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/

レコード

File System Cache (PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mem Cache Faults/sec	キャッシュメモリーのフォルト数 (1 秒当たり)。
Mem Cache Bytes	キャッシュメモリーのバイト数。

Memory Cache Trend(5.0) (メモリーキャッシュに関する 1 日ごとの情報)

概要

最近 1 か月間の、メモリーキャッシュに関する 1 日ごとの情報を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/

レコード

File System Cache (PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mem Cache Faults/sec	キャッシュメモリーのフォルト数 (1 秒当たり)。
Mem Cache Bytes	キャッシュメモリーのバイト数。

Memory Cache Trend(5.0) (メモリーキャッシュに関する 1 時間ごとの情報)

概要

最近 24 時間の、メモリーキャッシュに関する 1 時間ごとの情報を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/

レコード

File System Cache (PI)

フィールド

フィールド名	説明
Mem Cache Faults/sec	キャッシュメモリーのフォルト数 (1 秒当たり)。
Mem Cache Bytes	キャッシュメモリーのバイト数。

Memory Summary(5.0)

概要

最近 1 時間の、システムの 1 分ごとのメモリー使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/

レコード

IIS WorkingSet (PI_WS)

フィールド

フィールド名	説明
Memory Available Bytes	使用可能なメモリーのバイト数。
Memory Page Faults/sec	1 秒当たりのメモリーページフォールト数。
Memory Page Input/sec	1 秒当たりのメモリーページ入力。
Memory Page Reads/sec	1 秒当たりのメモリーページ読み込み数。

Memory Trend(5.0) (システムの 1 日ごとのメモリー使用状況)

概要

最近 1 か月間の、システムの 1 日ごとのメモリー使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

IIS WorkingSet (PI_WS)

フィールド

フィールド名	説明
Memory Available Bytes	使用可能なメモリーのバイト数。
Memory Page Faults/sec	1 秒当たりのメモリーページフォールト数。
Memory Page Input/sec	1 秒当たりのメモリーページ入力。
Memory Page Reads/sec	1 秒当たりのメモリーページ読み込み数。

Memory Trend(5.0) (システムの 1 時間ごとのメモリー使用状況)

概要

最近 24 時間の、システムの 1 時間ごとのメモリー使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

IIS WorkingSet (PI_WS)

フィールド

フィールド名	説明
Memory Available Bytes	使用可能なメモリーのバイト数。
Memory Page Faults/sec	1 秒当たりのメモリーページフォールト数。
Memory Page Input/sec	1 秒当たりのメモリーページ入力。
Memory Page Reads/sec	1 秒当たりのメモリーページ読み込み数。

Memory Usage Status(5.0)

概要

メモリーの使用状況をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/

レコード

IIS WorkingSet (PI_WS)

フィールド

フィールド名	説明
Memory Available Bytes	使用可能なメモリーのバイト数。
Memory Page Faults/sec	1秒当たりのメモリーページフォールト数。
Memory Page Input/sec	1秒当たりのメモリーページ入力。
Memory Page Reads/sec	1秒当たりのメモリーページ読み込み数。

Network Trend

概要

最近 24 時間の、ネットワークの 1 時間ごとの平均 Datagrams 転送量を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Network Layer Overview (PI_TRNL)

フィールド

フィールド名	説明
Datagrams Forwarded/sec	IP データグラムがネットワークレイヤーから他へ送信される割合 (1 秒当たり)。
Datagrams Rcvd/sec	IP データグラムがネットワークレイヤーに受信した割合 (1 秒当たり)。
Datagrams Sent/sec	IP データグラムがネットワークレイヤーに送信した割合 (1 秒当たり)。
Datagrams/sec	IP データグラムとネットワークレイヤーの送受信の割合 (1 秒当たり)。

Physical Disk

概要

Physical Disk の待ち状況をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

Physical Disk Overview (PI_PYDP)

フィールド

フィールド名	説明
Current Disk Queue Length	現在のディスクキュー長。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Physical Disk Detail	Physical Disk の待ち状況の詳細。

Physical Disk Detail

概要

Physical Disk の待ち状況の詳細をリアルタイムで表示します。このレポートは一覧で表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

レコード

Physical Disk Overview (PI_PYDP)

フィールド

フィールド名	説明
% Disk Time	ディスクドライブがビジー状態の経過時間の割合。
Avg Disk Queue Length	ディスクキュー平均の長さ。
Avg Disk Sec/Transfer	平均ディスク転送時間 (秒単位)。
Current Disk Queue Length	現在のディスクキュー長。
Disk Reads/sec	1 秒当たりのディスク読み込み数。
Disk Writes/sec	1 秒当たりのディスク書き込み数。

Physical Disk Summary

概要

最近 1 時間の、Physical Disk の 1 分ごとの使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/

レコード

Physical Disk Overview (PI_PYDP)

フィールド

フィールド名	説明
Current Disk Queue Length	現在のディスクキュー長。

Physical Disk Trend (Physical Disk の 1 日ごとの平均使用状況)

概要

最近 1 か月間の、Physical Disk の 1 日ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

Physical Disk Overview (PI_PYDP)

フィールド

フィールド名	説明
% Disk Time	ディスクドライブがビジー状態の経過時間の割合。
Avg Disk Queue Length	ディスクキュー平均の長さ。
Avg Disk Sec/Transfer	平均ディスク転送時間 (秒単位)。
Current Disk Queue Length	現在のディスクキュー長。
Disk Reads/sec	ディスク読み込みの 1 秒当たりの回数。
Disk Writes/sec	ディスク書き込みの 1 秒当たりの回数。

Physical Disk Trend (Physical Disk の 1 時間ごとの平均使用状況)

概要

最近 24 時間の、Physical Disk の 1 時間ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Physical Disk Overview (PI_PYDP)

フィールド

フィールド名	説明
% Disk Time	ディスクドライブがビジー状態の経過時間の割合。
Avg Disk Queue Length	ディスクキュー平均の長さ。
Avg Disk Sec/Transfer	平均ディスク転送時間 (秒単位)。
Current Disk Queue Length	現在のディスクキュー長。
Disk Reads/sec	ディスク書き込みの 1 秒当たりの回数。
Disk Writes/sec	ディスク読み込みの 1 秒当たりの回数。

Process Info Inetinfo Trend

概要

最近 24 時間の Web サービス, FTP サービスの 1 時間ごとの状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

IIS WorkingSet (PI_WS)

フィールド

フィールド名	説明
Process Page Faults/sec	インターネットサービスのプロセスページフォールト (1 秒当たり)。

Processor

概要

Processor の使用状況をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

Processor Activity (PI_PA)

フィールド

フィールド名	説明
Processor Queue Length	プロセッサキューのスレッドの数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Processor Detail	Processor の使用状況の詳細。

Processor Detail

概要

Processor の使用状況の詳細をリアルタイムで表示します。このレポートは一覧で表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

レコード

Processor Activity (PI_PA)

フィールド

フィールド名	説明
% Privileged Time	割り込み処理, DPCS などのプロセッサ特別処理時間の割合。
% Processor Time	プロセッサが実行している処理時間の割合。
% User Time	ユーザープロセスでのプロセッサが実行している処理時間の割合。
Process - % Processor Time	すべての IIS プロセスの処理時間の割合。
Processor Queue Length	プロセッサキューのスレッドの数。

Processor Summary

概要

最近 1 時間の、Processor の 1 分ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Recent Past/Advanced/

レコード

Processor Activity (PI_PA)

フィールド

フィールド名	説明
Processor Queue Length	プロセッサキューのスレッドの数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Memory Summary	最近 1 時間の、システムの 1 分ごとのメモリー使用状況。

Processor Trend

概要

最近 24 時間の、Processor の 1 時間ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Processor Activity (PI_PA)

フィールド

フィールド名	説明
%Privileged Time	割り込み処理, DPCS などのプロセッサ特別処理時間の割合。
%Processor Time	プロセッサが実行している処理時間の割合。
%User Time	ユーザープロセスでのプロセッサが実行している処理時間の割合。
Process - %Processor Time	すべての IIS プロセスの処理時間の割合。
Processor Queue Length	プロセッサキューのスレッドの数。

SMTP Bytes Trend (SMTP の 1 日ごとの平均バイト転送量)

概要

最近 1 か月間の、SMTP の 1 日ごとの平均バイト転送量を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

Application Layer Overview (PI_TRAL)

フィールド

フィールド名	説明
SMTP - Bytes Rcvd/sec	SMTP サーバの 1 秒当たりの受信バイト数。
SMTP - Bytes Sent/sec	SMTP サーバの 1 秒当たりの送信バイト数。
SMTP - Bytes Total/sec	SMTP サーバが送受信した総バイト数。

SMTP Bytes Trend (SMTP の 1 時間ごとの平均バイト転送量)

概要

最近 24 時間の、SMTP の 1 時間ごとの平均バイト転送量を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/

レコード

Application Layer Overview (PI_TRAL)

フィールド

フィールド名	説明
SMTP - Bytes Rcvd/sec	SMTP サーバの 1 秒当たりの受信バイト数。
SMTP - Bytes Sent/sec	SMTP サーバの 1 秒当たりの送信バイト数。
SMTP - Bytes Total/sec	SMTP サーバが送受信した総バイト数。

SMTP Messages Trend (SMTP Messages の 1 日ごとの使用状況)

概要

最近 1 か月間の、SMTP Messages の 1 日ごとの使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

IIS File Transfer (PI_FLTR)

フィールド

フィールド名	説明
SMTP - Total Msgs Rcvd	SMTP サーバが受信したメッセージの総数。
SMTP - Total Msgs Sent	SMTP サーバが送信したメッセージの総数。

SMTP Messages Trend (SMTP Messages の 1 時間ごとの使用状況)

概要

最近 24 時間の、SMTP Messages の 1 時間ごとの使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

IIS File Transfer (PI_FLTR)

フィールド

フィールド名	説明
SMTP - Total Msgs Rcvd	SMTP サーバが受信したメッセージの総数。
SMTP - Total Msgs Sent	SMTP サーバが送信したメッセージの総数。

TCP Conns Trend

概要

最近 24 時間の、TCP 接続の 1 時間ごとの使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

TCP Connection Overview (PI_TCPC)

フィールド

フィールド名	説明
Conn Failures	TCP 接続に失敗した接続数。
Conns Established	TCP 接続された接続数。
Conns Reset	TCP 接続がリセットされた接続数。

TCP Trend

概要

最近 24 時間の、TCP の 1 時間ごとの使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Transport Layer Overview (PI_TRTL)

フィールド

フィールド名	説明
Segments Rcvd/sec	TCP セグメントの現在有効な接続のエラーも含んだ 1 秒当たりの受信回数。
Segments Retransmitted/sec	TCP セグメントが再送したバイト数の割合 (1 秒当たり)。
Segments Sent/sec	TCP セグメントの現在有効な接続のエラーも含んだ 1 秒当たりの送信回数。
Segments/sec	TCP セグメントの現在有効な接続のエラーも含んだ 1 秒当たりの送受信回数。

Thread Count Status

概要

スレッドの情報をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/

レコード

IIS Thread Count (PI_TCNT)

フィールド

フィールド名	説明
Thread Count	IIS プロセスで現在アクティブとなっているスレッドの数。

Thread Count Trend

概要

最近 24 時間の、スレッドの 1 時間ごとの情報を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

IIS Thread Count (PI_TCNT)

フィールド

フィールド名	説明
Thread Count	IIS プロセスで現在アクティブとなっているスレッドの数。

Thread Info Status

概要

スレッドの使用状況をリアルタイムで表示します。このレポートは集合縦棒グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/

レコード

IIS Thread Details (PD)

フィールド

フィールド名	説明
% Processor Time	IIS スレッドがプロセッサの使用に費やした時間の割合。
Context Switches/sec	スレッド間で切り替えを行った割合/秒。
Instance	インスタンス。

Web Bytes

概要

Web サービスのデータ送受信に関する情報をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

Application Layer Overview (PI_TRAL)

フィールド

フィールド名	説明
Web - Bytes Rcvd/sec	Web サービスの 1 秒当たりの受信バイト数。
Web - Bytes Sent/sec	Web サービスの 1 秒当たりの送信バイト数。
Web - Bytes Total/sec	Web サービスが送受信した総バイト数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Web Users Detail	Web Users の平均使用状況の詳細。

Web Bytes Trend (Web サイトの 1 日ごとの平均バイト数)

概要

最近 1 か月間の、Web サイトの 1 日ごとの平均バイト数を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

Application Layer Overview (PI_TRAL)

フィールド

フィールド名	説明
Web - Bytes Rcvd/sec	Web サービスの 1 秒当たりの受信バイト数。
Web - Bytes Sent/sec	Web サービスの 1 秒当たりの送信バイト数。
Web - Bytes Total/sec	Web サービスが送受信した総バイト数。

Web Bytes Trend (Web サービスの 1 時間ごとの状況)

概要

最近 24 時間の、Web サービスの 1 時間ごとの状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Application Layer Overview (PI_TRAL)

フィールド

フィールド名	説明
Web - Bytes Rcvd/sec	Web サービスの 1 秒当たりの受信バイト数。
Web - Bytes Sent/sec	Web サービスの 1 秒当たりの送信バイト数。
Web - Bytes Total/sec	Web サービスが送受信した総バイト数。

Web Conns

概要

Web サービスの接続に関する情報をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

Monitoring Connection (PI_CONN)

フィールド

フィールド名	説明
Web - Current Conns	Web サービスの現在の接続数。
Web - Maximum Conns	Web サービスの最大接続数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Web Users Detail	Web Users の平均使用状況の詳細。

Web Conns Trend (Web サイトの 1 日ごとの接続状況)

概要

最近 1 か月間の、Web サイトの 1 日ごとの接続状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

Monitoring Connection (PI_CONN)

フィールド

フィールド名	説明
Web - Current Conns	Web サービスの現在の接続数。
Web - Maximum Conns	Web サービスの最大接続数。

Web Conns Trend (Web サービスの 1 時間ごとの接続状況)

概要

最近 24 時間の、Web サービスの 1 時間ごとの接続状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Monitoring Connection (PI_CONN)

フィールド

フィールド名	説明
Web - Current Conns	Web サービスの現在の接続数。
Web - Maximum Conns	Web サービスの最大接続数。

Web Files

概要

Web サービスのファイル転送に関する情報をリアルタイムで表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/

レコード

IIS File Transfer (PI_FLTR)

フィールド

フィールド名	説明
Web - Total Files Rcvd	Web サーバが受信したファイルの総数。
Web - Total Files Sent	Web サーバが送信したファイルの総数。
Web - Total Files Xferd	Web サーバが転送したファイルの総数。

ドリルダウンレポート (レポートレベル)

レポート名	説明
Web Users Detail	Web Users の平均使用状況の詳細。

Web Files Trend (Web サイトの 1 日ごとの平均ファイル数)

概要

最近 1 か月間の、Web サイトの 1 日ごとの平均ファイル数を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

IIS File Transfer (PI_FLTR)

フィールド

フィールド名	説明
Web - Total Files Rcvd	Web サーバが受信したファイルの総数。
Web - Total Files Sent	Web サーバが送信したファイルの総数。
Web - Total Files Xferd	Web サーバが転送したファイルの総数。

Web Files Trend (Web サービスの 1 時間ごとの平均ファイル数)

概要

最近 24 時間の、Web サービスの 1 時間ごとの平均ファイル数を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

IIS File Transfer (PI_FLTR)

フィールド

フィールド名	説明
Web - Total Files Rcvd	Web サーバが受信したファイルの総数。
Web - Total Files Sent	Web サーバが送信したファイルの総数。
Web - Total Files Xferd	Web サーバが転送したファイルの総数。

Web Users Detail

概要

Web サービスへの接続ユーザー情報の詳細をリアルタイムで表示します。このレポートは一覧で表示されます。

格納先

Reports/IIS/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only/

レコード

Web User Overview (PI_ANAW)

フィールド

フィールド名	説明
Anonymous Users/sec	Web サービスの 1 秒当たりの匿名ユーザー数。
Curr Anonymous Users	Web サービスの現在の匿名ユーザー数。
Curr Nonanonymous Users	Web サービスの現在の非匿名ユーザー数。
Max Anonymous Users	Web サービスの匿名ユーザーの最大数。
Max Nonanonymous Users	Web サービスの非匿名ユーザーの最大数。
Nonanonymous Users/sec	Web サービスの 1 秒当たりの非匿名ユーザー数。
Total Anonymous Users	Web サービスの匿名ユーザーの総数。
Total Nonanonymous Users	Web サービスの非匿名ユーザーの総数。

Web Users Trend (Web Users の 1 日ごとの平均使用状況)

概要

最近 1 か月間の、Web Users の 1 日ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

Web User Overview (PI_ANAW)

フィールド

フィールド名	説明
Anonymous Users/sec	Web サービスの 1 秒当たりの匿名ユーザー数。
Curr Anonymous Users	Web サービスの現在の匿名ユーザー数。
Curr Nonanonymous Users	Web サービスの現在の非匿名ユーザー数。
Max Anonymous Users	Web サービスの匿名ユーザーの最大数。
Max Nonanonymous Users	Web サービスの非匿名ユーザーの最大数。
Nonanonymous Users/sec	Web サービスの 1 秒当たりの非匿名ユーザー数。
Total Anonymous Users	Web サービスの匿名ユーザーの総数。
Total Nonanonymous Users	Web サービスの非匿名ユーザーの総数。

Web Users Trend (Web Users の 1 時間ごとの平均使用状況)

概要

最近 24 時間の、Web Users の 1 時間ごとの平均使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

Web User Overview (PI_ANAW)

フィールド

フィールド名	説明
Anonymous Users/sec	Web サービスの 1 秒当たりの匿名ユーザー数。
Curr Anonymous Users	Web サービスの現在の匿名ユーザー数。
Curr Nonanonymous Users	Web サービスの現在の非匿名ユーザー数。
Max Anonymous Users	Web サービスの匿名ユーザーの最大数。
Max Nonanonymous Users	Web サービスの非匿名ユーザーの最大数。
Nonanonymous Users/sec	Web サービスの 1 秒当たりの非匿名ユーザー数。
Total Anonymous Users	Web サービスの匿名ユーザーの総数。
Total Nonanonymous Users	Web サービスの非匿名ユーザーの総数。

WWW Cache Status(5.0)

概要

WWW サービスの稼働状況に関する情報をリアルタイムで表示します。このレポートは集合縦棒グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Real-Time/

レコード

WWW Service Cache (PI_WSC)

フィールド

フィールド名	説明
WSC - Cache Flushes	WWW サービスのキャッシュから削除された数。
WSC - Cache Hits	WWW サービスのキャッシュで見つかったクエリ数(1 秒当たり)。
WSC - Cache Hits %	WWW サービスのキャッシュで見つかったクエリの割合。
WSC - Cache Misses	WWW サービスのキャッシュで見つからなかったクエリ数(1 秒当たり)。

WWW Cache Trend(5.0) (WWW サービスの 1 日ごとの使用状況)

概要

最近 1 か月間の、WWW サービスの 1 日ごとの使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Monthly Trend/Advanced/

レコード

WWW Service Cache (PI_WSC)

フィールド

フィールド名	説明
WSC - Cache Flushes	WWW サービスのキャッシュから削除された数。
WSC - Cache Hits	WWW サービスのキャッシュで見つかったクエリ数(1 秒当たり)。
WSC - Cache Hits %	WWW サービスのキャッシュで見つかったクエリの割合。
WSC - Cache Misses	WWW サービスのキャッシュで見つからなかったクエリ数(1 秒当たり)。

WWW Cache Trend(5.0) (WWW サービスの 1 時間ごとの使用状況)

概要

最近 24 時間の、WWW サービスの 1 時間ごとの使用状況を表示します。このレポートは折れ線グラフで表示されます。

格納先

Reports/IIS/Status Reporting/Daily Trend/Advanced/

レコード

WWW Service Cache (PI_WSC)

フィールド

フィールド名	説明
WSC - Cache Flushes	WWW サービスのキャッシュから削除された数。
WSC - Cache Hits	WWW サービスのキャッシュで見つかったクエリ数(1 秒当たり)。
WSC - Cache Hits %	WWW サービスのキャッシュで見つかったクエリの割合。
WSC - Cache Misses	WWW サービスのキャッシュで見つからなかったクエリ数(1 秒当たり)。

6

レコード

この章では、PFM - Agent for IIS のレコードについて説明します。

各レコードのパフォーマンスデータの収集方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の Performance Management の機能について説明している章、またはマニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

データモデルについて

各 PFM - Agent が持つレコードおよびフィールドの総称を「データモデル」と呼びます。各 PFM - Agent と、その PFM - Agent が持つデータモデルには、それぞれ固有のバージョン番号が付与されています。PFM - Agent for IIS のデータモデルのバージョンについては、「[付録 H バージョン互換](#)」を参照してください。

各 PFM - Agent のデータモデルのバージョンは、PFM - Web Console の [エージェント階層] 画面でエージェントのプロパティを表示して確認してください。

データモデルについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management で扱うデータの概要について説明している章、またはマニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

レコードの記載形式

この章では、PFM - Agent for IIS のレコードをアルファベット順に記載しています。各レコードの説明は、次の項目から構成されています。

機能

各レコードに格納されるパフォーマンスデータの概要および注意事項について説明します。

デフォルト値および変更できる値

各レコードに設定されているパフォーマンスデータの収集条件のデフォルト値およびユーザーが変更できる値を表で示します。「デフォルト値および変更できる値」に記載している項目とその意味を次の表に示します。この表で示す各項目については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

項目	意味	変更可否
Collection Interval	パフォーマンスデータの収集間隔（秒単位）。	○：変更できる ×：変更できない
Collection Offset ^{※1}	パフォーマンスデータの収集を開始するオフセット値（秒単位）。オフセット値については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。	
Log	収集したパフォーマンスデータを Store データベースに記録するかどうか。 Yes：記録する。ただし、「Collection Interval=0」の場合、記録しない。 No：記録しない。	
LOGIF	収集したパフォーマンスデータを Store データベースに記録するかどうかの条件。	
Over 10 Sec Collection Time ^{※2}	システム構成によって、レコードの収集に 10 秒以上掛かることがあるかどうか。 Yes：10 秒以上掛かることがある。 No：10 秒掛からない。	
Realtime Report Data Collection Mode ^{※2}	リアルタイムレポートの表示モードを指定。 Reschedule：再スケジュールモード Temporary Log：一時保存モード なお、Over 10 Sec Collection Time の値が「Yes」のレコードには、一時保存モード（Temporary Log）を指定する必要がある。	

注※1

指定できる値は、0~32,767 秒（Collection Interval で指定した値の範囲内）です。これは、複数のデータを収集する場合に、一度にデータの収集処理が実行されると負荷が集中するので、収集処理の負荷を分散するために使用します。なお、データ収集の記録時間は、Collection Offset の値に関係なく、Collection Interval と同様の時間となります。

Collection Offset の値を変更する場合は、収集処理の負荷を考慮した上で値を指定してください。

注※2

履歴収集優先機能が有効の場合に表示されます。

ODBC キーフィールド

PFM - Manager または PFM - Base で、Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合に必要な主キーを示します。ODBC キーフィールドには、各レコード共通のものと各レコード固有のものがあります。ここで示すのは、各レコード固有の ODBC キーフィールドです。複数インスタンスレコードだけが、固有の ODBC キーフィールドを持っています。

各レコード共通の ODBC キーフィールドについては、「[ODBC キーフィールド一覧](#)」を参照してください。

ライフタイム

各レコードに収集されるパフォーマンスデータの一貫性が保証される期間を示します。ライフタイムについては、マニュアル「[JP1/Performance Management 設計・構築ガイド](#)」の、Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

レコードサイズ

1 回の収集で各レコードに格納されるパフォーマンスデータの容量を示します。

フィールド

各レコードのフィールドについて表で説明しています。表の各項目について次に説明します。

- View 名 (Manager 名)
 - View 名
PFM - Web Console で表示されるフィールド名 (PFM - View 名) を示します。
 - Manager 名
PFM - Manager で、SQL を使用して Store データベースに格納されているフィールドのデータを利用する場合、SQL 文で記述するフィールド名 (PFM - Manager 名) を示します。
SQL 文では、先頭に各レコードのレコード ID を付加した形式で記述します。例えば、IIS Thread Details (PD) レコードの Interval (INTERVAL) フィールドの場合、「PD_INTERVAL」と記述します。
- 説明
各フィールドに格納されるパフォーマンスデータについて説明します。
- 要約
Agent Store がデータを要約するときの方法 (要約ルール) を示します。要約ルールについては、「[要約ルール](#)」を参照してください。
- 形式
char 型や float 型など、各フィールドの値のデータ型を示します。データ型については、「[データ型一覧](#)」を参照してください。

- デルタ

累積値として収集するデータに対し、変化量でデータを表すことを「デルタ」と呼びます。デルタについては、「[フィールドの値](#)」を参照してください。

- データソース

該当するフィールドの値の計算方法または取得先を示します。フィールドの値については、「[フィールドの値](#)」を参照してください。

ODBC キーフィールド一覧

ODBC キーフィールドには、各レコード共通のものと各レコード固有のものがあります。ここで示すのは、各レコード共通の ODBC キーフィールドです。PFM - Manager で Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合、ODBC キーフィールドが必要です。

各レコード共通の ODBC キーフィールド一覧を次の表に示します。各レコード固有の ODBC キーフィールドについては、各レコードの説明を参照してください。

表 6-1 ODBC キーフィールド一覧

ODBC キーフィールド	ODBC フォーマット	データ	説明
レコード ID_DATE	SQL_INTEGER	内部	レコードが生成された日付を表すレコードのキー。
レコード ID_DATETIME	SQL_INTEGER	内部	レコード ID_DATE フィールドとレコード ID_TIME フィールドの組み合わせ。
レコード ID_DEVICEID	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent が動作しているホスト名。
レコード ID_DRAWER_TYPE	SQL_VARCHAR	内部	区分。有効な値を次に示す。 m：分 H：時 D：日 W：週 M：月 Y：年
レコード ID_PROD_INST	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent のインスタンス名。
レコード ID_PRODID	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent のプロダクト ID。
レコード ID_RECORD_TYPE	SQL_VARCHAR	内部	レコードタイプを表す識別子（4 バイト）。
レコード ID_TIME	SQL_INTEGER	内部	レコードが生成された時刻（グリニッジ標準時）。

要約ルール

PI レコードタイプのレコードでは、Collection Interval に設定された間隔で収集されるデータと、あらかじめ定義されたルールに基づき一定の期間（分、時、日、週、月、または年単位）ごとに要約されたデータが、Store データベースに格納されます。要約の種類はフィールドごとに定義されています。この定義を「要約ルール」と呼びます。

要約ルールによっては、要約期間中の中間データを保持する必要があるものがあります。この場合、中間データを保持するためのフィールドが Store データベース内のレコードに追加されます。このフィールドを「追加フィールド」と呼びます。追加フィールドの一部は、PFM - Web Console でレコードのフィールドとして表示されます。PFM - Web Console に表示される追加フィールドは、履歴レポートに表示するフィールドとして使用できます。

なお、要約によって追加される「追加フィールド」と区別するために、ここでは、この章の各レコードの説明に記載されているフィールドを「固有フィールド」と呼びます。

追加フィールドのフィールド名は次のようになります。

- Store データベースに格納される追加フィールド名
固有フィールドの PFM - Manager 名にサフィックスが付加されたフィールド名になります。
- PFM - Web Console で表示される追加フィールド名
固有フィールドの PFM - View 名にサフィックスが付加されたフィールド名になります。

PFM - Manager 名に付加されるサフィックスと、それに対応する PFM - View 名に付加されるサフィックス、およびフィールドに格納されるデータを次の表に示します。

表 6-2 追加フィールドのサフィックス一覧

PFM - Manager 名	PFM - View 名	格納データ
_TOTAL	(Total)	要約期間内のレコードのフィールドの値の総和
_TOTAL_SEC	(Total)	要約期間内のレコードのフィールドの値の総和 (utime 型の場合)
_COUNT	—	要約期間内の収集レコード数
_HI	(Max)	要約期間内のレコードのフィールド値の最大値
_LO	(Min)	要約期間内のレコードのフィールド値の最小値

(凡例)

—：追加フィールドがないことを示します。

要約ルールの一覧を次の表に示します。

表 6-3 要約ルール一覧

要約 ルール名	要約ルール
COPY	要約期間内の最新のレコードのフィールド値がそのまま格納される。
AVG	要約期間内のフィールド値の平均値が格納される。 次に計算式を示す。 (フィールド値の総和)/(収集レコード数) 追加フィールド (Store データベース) <ul style="list-style-type: none"> • _TOTAL • _TOTAL_SEC (utime 型の場合) • _COUNT 追加フィールド (PFM - Web Console) ※1※2 <ul style="list-style-type: none"> • (Total)
ADD	要約期間内のフィールド値の総和が格納される。
HI	要約期間内のフィールド値の最大値が格納される。
LO	要約期間内のフィールド値の最小値が格納される。
HILO	要約期間内のデータの最大値, 最小値, および平均値が格納される。 固有フィールドには平均値が格納される。 次に計算式を示す。 (フィールド値の総和)/(収集レコード数) 追加フィールド (Store データベース) <ul style="list-style-type: none"> • _HI • _LO • _TOTAL • _TOTAL_SEC (utime 型の場合) • _COUNT 追加フィールド (PFM - Web Console) ※1※2 <ul style="list-style-type: none"> • (Max) • (Min) • (Total)
%	要約期間内のフィールド値の平均値が格納される。 主に百分率のフィールドに適用される。 次に計算式を示す。 (フィールド値の総和)/(収集レコード数) 追加フィールド (Store データベース) <ul style="list-style-type: none"> • _TOTAL • _TOTAL_SEC (utime 型の場合) • _COUNT
—	要約されないことを示す。

注※1

PFM - Manager 名に「_AVG」が含まれる utime 型のフィールドは、PFM - Web Console に追加される「(Total)」フィールドを履歴レポートで利用できません。

注※2

PFM - Manager 名に次の文字列が含まれるフィールドは、PFM - Web Console に追加される (Total) フィールドを履歴レポートで利用できません。

[_PER_], [PCT], [PERCENT], [_AVG], [_RATE_TOTAL]

データ型一覧

各フィールドの値のデータ型と、対応する C および C++ のデータ型の一覧を次の表に示します。この表で示す「データ型」の「フィールド」の値は、各レコードのフィールドの表にある「形式」の列に示されています。

表 6-4 データ型一覧

データ型		サイズ (バイト)	説明
フィールド	C および C++		
char(n)	char()	()内の数	n バイトの長さを持つ文字データ。
double	double	8	数値 (1.7E±308 (15 桁))。
float	float	4	数値 (3.4E±38 (7 桁))。
long	long	4	数値 (-2,147,483,648~2,147,483,647)。
short	short	2	数値 (-32,768~32,767)。
string(n)	char[]	()内の数	n バイトの長さを持つ文字列。最後の文字は、「null」。
time_t	unsigned long	4	数値 (0~4,294,967,295)
timeval	構造体	8	数値 (最初の 4 バイトは秒、次の 4 バイトはマイクロ秒を表す)。
ulong	unsigned long	4	数値 (0~4,294,967,295)。
utime	構造体	8	数値 (最初の 4 バイトは秒、次の 4 バイトはマイクロ秒を表す)。
word	unsigned short	2	数値 (0~65,535)。
(該当なし)	unsigned char	1	数値 (0~255)。

フィールドの値

ここでは、各フィールドに格納される値について説明します。

データソース

各フィールドには、Performance Management や監視対象プログラムから取得した値や、これらの値をある計算式に基づいて計算した値が格納されます。各フィールドの値の取得先または計算方法は、フィールドの表の「データソース」列で示します。

「-」は、パフォーマンスデータを加工してフィールドの値を設定していないことを示します。

デルタ

累積値として収集するデータに対し、変化量でデータを表すことを「デルタ」と呼びます。例えば、1 回目に収集されたパフォーマンスデータが「3」、2 回目に収集されたパフォーマンスデータが「4」とすると、累積値の場合は「7」、変化量の場合は「1」が格納されます。各フィールドの値がデルタかどうかは、フィールドの表の「デルタ」列で示します。

リアルタイムレポートの設定で、[デルタで表示] がチェックされている場合、最初にデータが収集されたときから値が表示されます。ただし、前回のデータを必要とするレポートの場合、初回の値は「0」で表示されます。2 回目以降のデータ収集は、収集データの値が表示されます。

PFM - Agent for IIS で収集されるパフォーマンスデータは、次の表のように異なります。

表 6-5 PFM - Agent for IIS で収集されるパフォーマンスデータ

レコードタイプ	デルタ	データ種別	[デルタ値で表示]の チェック*	レコードの値
PI レコードタイプ	Yes	-	-	-
	No	リアルタイムデータ	あり	収集時点の値が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。
		<ul style="list-style-type: none">履歴データアラームの監視データ	-	収集時点の値が表示される。
PD レコードタイプ	Yes	-	-	-
	No	リアルタイムデータ	あり	収集時点の値が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。
		<ul style="list-style-type: none">履歴データアラームの監視データ	-	収集時点の値が表示される。

(凡例)

－：該当しない

注※

次に示す PFM - Web Console のダイアログボックスの項目でチェックされていることを示します。

- [レポートウィザード- 表示設定 (リアルタイムレポート)] ダイアログボックスの [デルタ値で表示]
- [レポートの表示設定] ダイアログボックス (リアルタイムレポート) の [デルタ値で表示]

パフォーマンスデータが収集される際の注意事項を次に示します。

PFM - Agent for IIS で最初に履歴レポートを表示する場合、1 回目と 2 回目に収集されたデータを基に、履歴レポートに表示されるパフォーマンスデータが作成されます。このため、最初に履歴レポートに表示されるデータが収集されるまでには、設定した収集間隔の最大 2 倍の時間が掛かります。

各フィールドの平均および割合

各フィールドの平均や割合の値については、Interval 時間によって秒単位の値として求められるものと、データの収集間隔によって求められるものとがあります。特に断り書きがない場合、データの収集間隔によって求められる値となります (Interval が 60 秒間隔の場合、1 分単位のデータとなります)。

Interval フィールドの値

Interval フィールドの値は、レコードタイプによって異なります。Interval フィールドの値を次の表に示します。

表 6-6 Interval フィールドの値

レコードタイプ	説明
PI レコードタイプ	<ul style="list-style-type: none">• リアルタイムレポートの場合 最初の値は 5。以降はレポートに設定されている「更新間隔」と同じ。次の計算式で算出される。 $\text{Interval フィールドの値} = \text{Record Time フィールドの値} - \text{前回取得時の Record Time フィールドの値}$• 履歴レポートの場合 Collection Interval の値と同じ。次の計算式で算出される。 $\text{Interval フィールドの値} = \text{Record Time フィールドの値} - \text{前回取得時の Record Time フィールドの値}$
PD レコードタイプ	<ul style="list-style-type: none">• リアルタイムレポートの場合 最初の値は 5。以降はレポートに設定されている「更新間隔」と同じ。次の計算式で算出される。 $\text{Interval フィールドの値} = \text{Record Time フィールドの値} - \text{前回取得時の Record Time フィールドの値}$• 履歴レポートの場合 Collection Interval の値と同じ。次の計算式で算出される。 $\text{Interval フィールドの値} = \text{Record Time フィールドの値} - \text{前回取得時の Record Time フィールドの値}$

Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド

Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールドを次の表に示します。

表 6-7 Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド

View 名 (Manager 名)	説明	形式	デルタ	サポートバージョン	データソース
Agent Host (DEVICEID)	PFM - Agent が動作しているホスト名。	string(256)	No	すべて	—
Agent Instance (PROD_INST)	PFM - Agent のインスタンス名。	string(256)	No	すべて	—
Agent Type (PRODID)	PFM - Agent のプロダクト ID。1 バイトの識別子で表される。	char	No	すべて	—
Date (DATE)	レコードが作成された日。グリニッジ標準時。*1 *2	char(3)	No	すべて	—
Date and Time (DATETIME)	Date (DATE) フィールドと Time (TIME) フィールドの組み合わせ。 *2	char(6)	No	すべて	—
Drawer Type (DRAWER_TYPE)	PI レコードタイプのレコードの場合、データが要約される区分。	char	No	すべて	—
GMT Offset (GMT_ADJUST)	グリニッジ標準時とローカル時間の差。秒単位。	long	No	すべて	—
Time (TIME)	レコードが作成された時刻。グリニッジ標準時。 *1*2	char(3)	No	すべて	—

(凡例)

— : IIS から取得したパフォーマンスデータを加工してフィールドの値を設定していないことを意味します。

注*1

PI レコードタイプのレコードでは、データが要約されるため、要約される際の基準となる時刻が設定されます。レコード区分ごとの設定値を次の表に示します。

表 6-8 レコード区分ごとの設定値

区分	レコード区分ごとの設定値
分	レコードが作成された時刻の 0 秒
時	レコードが作成された時刻の 0 分 0 秒
日	レコードが作成された日の 0 時 0 分 0 秒

区分	レコード区分ごとの設定値
週	レコードが作成された週の月曜日の 0 時 0 分 0 秒
月	レコードが作成された月の 1 日の 0 時 0 分 0 秒
年	レコードが作成された年の 1 月 1 日の 0 時 0 分 0 秒

注※2

レポートによるデータ表示を行った場合、Date フィールドは YYYYMMDD 形式で、Date and Time フィールドは YYYYMMDD hh:mm:ss 形式で、Time フィールドは hh:mm:ss 形式で表示されます。

Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると出力されるフィールド

jpctool db dump コマンドで、Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると、次に示すフィールドが出力されます。これらのフィールドも、Store データベースに記録される時追加されるフィールドですが、PFM - Web Console では表示されないため、レポートに表示するフィールドとして使用できません。これらのフィールドは、PFM - Agent が内部で使用するフィールドなので、運用では使用しないでください。

- レコード ID_DATE_F
- レコード ID_DEVICEID_F
- レコード ID_DRAWER_TYPE_F
- レコード ID_DRAWER_COUNT
- レコード ID_DRAWER_COUNT_F
- レコード ID_INST_SEQ
- レコード ID_PRODID_F
- レコード ID_PROD_INST_F
- レコード ID_RECORD_TYPE
- レコード ID_RECORD_TYPE_F
- レコード ID_SEVERITY
- レコード ID_SEVERITY_F
- レコード ID_TIME_F
- レコード ID_UOWID
- レコード ID_UOWID_F
- レコード ID_UOW_INST
- レコード ID_UOW_INST_F
- レコード ID_PFM - Manager 名_SEC
- レコード ID_PFM - Manager 名_MSEC

レコードの注意事項

レコードを収集する場合の注意事項を次に示します。

アプリケーションイベントログに PerfXX (PerfXX はサービスに関連するソース名) のイベントが記録されている場合、PFM - Agent for IIS が正常に動作しない場合や、そのサービスに対応するレコードが収集できない場合があります。この現象はサービスが正常にインストールできていない場合に発生します。この現象が発生している場合、サービスを再インストールするか、Microsoft のサポート技術情報で、出力されている原因を取り除くか、サービスの開発元に対処方法をお問い合わせください。

PFM - Agent for IIS が正常に動作しない場合や、そのサービスに対応するレコードが収集できない場合の例を次の表に示します。

イベント ID	ソース	現象	対処方法
1008	Perflib	"[サービス]" (DLL "[サービス] の DLL ファイル名") の Open プロシージャに失敗しました。このサービスのパフォーマンスデータは利用できません。	この現象はサービスが正常にインストールできていない場合に発生します。レコードを収集したい場合は、この現象が発生しているサービスを再インストールするか、サービスの開発元に対処方法をお問い合わせください。

- パフォーマンスモニターで、"logical disk parameters"の表示が不可能な場合は、DOS プロンプト画面より"diskperf -y"を実行しホストを再起動してください。

IIS のバージョンとインストールされている IIS 役割サービス等の組み合わせによって、収集できるレコードに違いがあります。

- IIS7.5 については、IIS7.5 環境のレコード収集可否表を参照ください。
- IIS8.0 については、IIS8.0 環境のレコード収集可否表を参照ください。
- IIS8.5 については、IIS8.5 環境のレコード収集可否表を参照ください。

レコード一覧

ここでは、PFM - Agent for IIS で収集できるレコードの一覧を記載します。

PFM - Agent for IIS で収集できるレコードおよびそのレコードに格納される情報を、レコード名順およびレコード ID 順で次の表に示します。

表 6-9 PFM - Agent for IIS のレコード一覧 (レコード名順)

レコード名	レコード ID	格納される情報
Active Server Pages Throughput	PI_ASPT	ASP リクエストについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
Application Layer Overview	PI_TRAL	WEB,FTP,SMTP の送受信についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
ASP.NET Throughput	PI_APNT	ASP.NET リクエストについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
DataLink Layer Overview	PD_TRDL	データリンク層についてのある時点での状態を示すパフォーマンスデータ。
File System Cache	PI	メモリーとキャッシュのパフォーマンスオブジェクトについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
FTP User Overview	PI_ANAF	FTP ユーザーの傾向についてある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
IIS Bandwidth Throttling	PI_BT	Internet Information Services Global (すべての IIS サービスの帯域幅の使用状況やキャッシュ処理状況を監視) についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
IIS File Transfer	PI_FLTR	ファイルの送受信についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
IIS Thread Count	PI_TCNT	Inetinfo に関するスレッドについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
IIS Thread Details	PD	IIS のスレッド詳細 (スレッドの動作を示すカウンタ群) についてのある時点での状態を示すパフォーマンスデータ。
IIS WorkingSet	PI_WS	ワーキングセットについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
Logical Disk Overview	PI_LGDP	論理ディスクの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
Monitoring Connection	PI_CONN	Web と FTP のコネクションについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
Network Layer Overview	PI_TRNL	ネットワーク層の傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
Not Found Errors	PI_NFE	Web Not Found (Web 接続失敗) についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。

レコード名	レコード ID	格納される情報
Physical Disk Overview	PI_PYDP	物理ディスクの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
Processor Activity	PI_PA	プロセッサタイムやキュー長などについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
TCP Connection Overview	PI_TCPC	TCP コネクションの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
Transport Layer Overview	PI_TRTL	TCP セグメントの送受信についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
Web User Overview	PI_ANAW	Web ユーザーの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
WWW Service Cache	PI_WSC	WWW サービスのキャッシュ情報についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。

表 6-10 PFM - Agent for IIS のレコード一覧 (レコード ID 順)

レコード ID	レコード名	格納される情報
PD	IIS Thread Details	IIS のスレッド詳細 (スレッドの動作を示すカウンタ群) についてのある時点での状態を示すパフォーマンスデータ。
PD_TRDL	DataLink Layer Overview	データリンク層についてのある時点での状態を示すパフォーマンスデータ。
PI	File System Cache	メモリーとキャッシュのパフォーマンスオブジェクトについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_ANAF	FTP User Overview	FTP ユーザーの傾向についてある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_ANAW	Web User Overview	Web ユーザーの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_APNT	ASP.NET Throughput	ASP.NET リクエストについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_ASPT	Active Server Pages Throughput	ASP リクエストについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_BT	IIS Bandwidth Throttling	Internet Information Services Global (すべての IIS サービスの帯域幅の使用状況やキャッシュ処理状況を監視) についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_CONN	Monitoring Connection	Web と FTP のコネクションについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_FLTR	IIS File Transfer	ファイルの送受信についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_LGDP	Logical Disk Overview	論理ディスクの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。

レコード ID	レコード名	格納される情報
PI_NFE	Not Found Errors	Web Not Found (Web 接続失敗) についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_PA	Processor Activity	プロセッサタイムやキュー長などについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_PYDP	Physical Disk Overview	物理ディスクの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_TCNT	IIS Thread Count	Inetinfo に関するスレッドについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_TCPC	TCP Connection Overview	TCP コネクションの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_TRAL	Application Layer Overview	WEB,FTP,SMTP の送受信についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_TRNL	Network Layer Overview	ネットワーク層の傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_TRTL	Transport Layer Overview	TCP セグメントの送受信についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_WS	IIS WorkingSet	ワーキングセットについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。
PI_WSC	WWW Service Cache	WWW サービスのキャッシュについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータ。

Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)

機能

Active Server Pages Throughput (PI_ASPT) レコードには、ASP リクエストについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：1013 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データ ソース
Errors/sec (ASP_ERRORS_SEC)	ASP の 1 秒当たりのエラー数。	Avg	double	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データ ソース
(INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—
Req Execution Time (ASP_REQUESTS_EXECUTION_TIME)	ASP のリクエスト実行時間。	Avg	ulong	No	—
Req Wait Time (ASP_REQUEST_WAIT_TIME)	ASP のリクエスト待機時間。	Avg	ulong	No	—
Reqs Disconnected (ASP_REQUESTS_DISCONNECTED)	ASP の認証されていないリクエストの数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Executing (ASP_REQUESTS_EXECUTING)	ASP のリクエストを実行した数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Failed Total (ASP_REQUESTS_FAILED_TOTAL)	ASP の失敗したリクエストの数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Not Authorized (ASP_REQUESTS_NOT_AUTHORIZED)	ASP の認証されていないリクエストの数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Not Found (ASP_REQUESTS_NOT_FOUND)	ASP の未発見のリクエストの数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Queued (ASP_REQUESTS_QUEUED)	ASP の待機中のリクエスト数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Rejected (ASP_REQUESTS_REJECTED)	ASP の拒否されたリクエスト数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Succeeded (ASP_REQUESTS_SUCCEEDED)	ASP の成功したリクエストの数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Timed Out (ASP_REQUESTS_TIMED_OUT)	ASP のタイムアウトしたリクエストの数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Total (ASP_REQUESTS_TOTAL)	ASP のリクエストの総数。	Avg	ulong	No	—
Reqs/sec (ASP_REQUESTS_SEC)	ASP の 1 秒当たりのリクエスト数。	Avg	double	No	—
Sessions Current (ASP_SESSIONS_CURRENT)	ASP の現在のセッション数。	Avg	ulong	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データ ソース
Trans Aborted (ASP_TRANSACTIONS_ABORTED)	ASP の中断されたトランザクションの数。	Avg	ulong	No	—
Trans Committed (ASP_TRANSACTIONS_COMMITTED)	ASP のコミットされたトランザクションの数。	Avg	ulong	No	—
Trans Pending (ASP_TRANSACTIONS_PENDING)	ASP の保留中のトランザクションの数。	Avg	ulong	No	—
Trans Total (ASP_TRANSACTIONS_TOTAL)	ASP のトランザクションの総数。	Avg	ulong	No	—
Trans/sec (ASP_TRANSACTIONS_SEC)	ASP の 1 秒当たりのトランザクション。	Avg	double	No	—

Application Layer Overview (PI_TRAL)

機能

Application Layer Overview (PI_TRAL) レコードには, WEB,FTP,SMTP の送受信についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：861 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
FTP - Bytes Rcvd/sec (BYTES_RCVD_SEC_FTP)	FTP サービスの 1 秒当たりの受信バイト数。	Avg	double	No	—
FTP - Bytes Sent/sec (BYTES_SENT_SEC_FTP)	FTP サービスの 1 秒当たりの送信バイト数。	Avg	double	No	—
FTP - Bytes Total/sec (BYTES_TOTAL_SEC_FTP)	FTP サービスが送受信した総バイト数。	Avg	double	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—
SMTP - Bytes Rcvd/sec (RCVD_SEC_SMTP)	SMTP サーバの 1 秒当たりの受信バイト数。	Avg	double	No	—
SMTP - Bytes Sent/sec (SENT_SEC_SMTP)	SMTP サーバの 1 秒当たりの送信バイト数。	Avg	double	No	—
SMTP - Bytes Total/sec (TOTAL_SEC_SMTP)	SMTP サーバが送受信した総バイト数。	Avg	double	No	—
Web - Bytes Rcvd/sec (BYTES_RCVD_SEC_WEB)	Web サービスの 1 秒当たりの受信バイト数。	Avg	double	No	—
Web - Bytes Sent/sec (BYTES_SENT_SEC_WEB)	Web サービスの 1 秒当たりの送信バイト数。	Avg	double	No	—
Web - Bytes Total/sec (BYTES_TOTAL_SEC_WEB)	Web サービスが送受信した総バイト数。	Avg	double	No	—

ASP.NET Throughput (PI_APNT)

機能

ASP.NET Throughput (PI_APNT)レコードには、ASP.NET リクエストについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

このレコードは複数インスタンスレコードです。

注意事項

ASP.NET 2.0, 3.0, 3.5 および 4 の情報収集ができます。

複数バージョンの ASP.NET がインストールされている環境では、バージョンごとに情報収集を行います。ASP.NET のバージョンを追加または削除した場合は、エージェントを再起動してください。

レポートのインスタンス名には、ASP.NET のパフォーマンスオブジェクト名が表示されます。

ASP.NET の各バージョンに対応したレポートのインスタンス名を下表に示します。

ASP.NET	レポートのインスタンス名
2.0	ASP.NET Apps v2.0.50727*
3.0	ASP.NET Apps v2.0.50727*
3.5	ASP.NET Apps v2.0.50727*
4	ASP.NET Apps v4.0.30319

注※

ASP.NET2.0, 3.0 および 3.5 のレポートのインスタンス名は同じになります。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

PI_APNT_INSTANCE

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：362 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Errors/sec (ASP_ERRORS_SEC)	ASP.NET の 1 秒当たりのエラー数。	Avg	double	No	—
Instance (INSTANCE)	インスタンス。	—	string(30)	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔(秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻(グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—
Req Execution Time (ASP_REQUESTS_EXECUTION_TIME)	ASP.NET のリクエスト実行時間。	Avg	ulong	No	—
Req Wait Time (ASP_REQUEST_WAIT_TIME)	ASP.NET のリクエスト待機時間。	Avg	ulong	No	—
Reqs Disconnected (ASP_REQUESTS_DISCONNECTED)	ASP.NET の通信エラーまたはユーザー操作によって切断された要求の数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Executing (ASP_REQUESTS_EXECUTING)	ASP.NET のリクエストを実行した数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Failed Total (ASP_REQUESTS_FAILED_TOTAL)	ASP.NET の失敗したリクエストの数。	Avg	ulong	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Reqs Not Authorized (ASP_REQUESTS_NOT_AUTHORIZED)	ASP.NET の認証されていないリクエストの数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Not Found (ASP_REQUESTS_NOT_FOUND)	ASP.NET の未発見のリクエストの数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Queued (ASP_REQUESTS_QUEUED)	ASP.NET の待機中のリクエスト数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Rejected (ASP_REQUESTS_REJECTED)	ASP.NET の拒否されたリクエスト数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Succeeded (ASP_REQUESTS_SUCCEEDED)	ASP.NET の成功したリクエストの数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Timed Out (ASP_REQUESTS_TIMED_OUT)	ASP.NET のタイムアウトしたリクエストの数。	Avg	ulong	No	—
Reqs Total (ASP_REQUESTS_TOTAL)	ASP.NET のリクエストの総数。	Avg	ulong	No	—
Reqs/sec (ASP_REQUESTS_SEC)	ASP.NET の 1 秒当たりのリクエスト数。	Avg	double	No	—
Sessions Current (ASP_SESSIONS_CURRENT)	ASP.NET の現在のセッション数。	Avg	ulong	No	—
Trans Aborted (ASP_TRANSACTIONS_ABORTED)	ASP.NET の中断されたトランザクションの数。	Avg	ulong	No	—
Trans Committed (ASP_TRANSACTIONS_COMMITTED)	ASP.NET のコミットされたトランザクションの数。	Avg	ulong	No	—
Trans Pending (ASP_TRANSACTIONS_PENDING)	ASP.NET の保留中のトランザクションの数。	Avg	ulong	No	—
Trans Total (ASP_TRANSACTIONS_TOTAL)	ASP.NET のトランザクションの総数。	Avg	ulong	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Trans/sec (ASP_TRANSACTIONS_SE C)	ASP.NET の 1 秒当たりのトランザクション。	Avg	double	No	—

DataLink Layer Overview (PD_TRDL)

機能

DataLink Layer Overview (PD_TRDL) レコードには、データリンク層についてのある時点での状態を示すパフォーマンスデータが格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

PD_TRDL_INSTANCE

ライフタイム

NIC インストールから NIC 取り外しまで。

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：56 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Bytes Rcvd/sec (NWK_INTERFACE_BYTES_RCVD_SEC)	ネットワークインターフェースの 1 秒当たりの受信バイト数。	Avg	double	No	—
Bytes Sent/sec (NWK_INTERFACE_BYTES_SENT_SEC)	ネットワークインターフェースの 1 秒当たりの送信バイト数。	Avg	double	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Bytes Total/sec (NWK_INTERFACE_BYTES_TOTAL_SEC)	ネットワークインターフェースの1秒当たりの送受信バイト数。	Avg	double	No	—
Instance (INSTANCE)	インスタンス。	—	string(32)	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

File System Cache (PI)

機能

File System Cache (PI) レコードには、メモリーとキャッシュのパフォーマンスオブジェクトについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	Yes	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：821 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Cache Copy Reads/sec (CACHE_READS_PER_SEC)	ファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—
Cache Fast Reads/sec (CACHE_FAST_READS_PER_SEC)	インストールしたファイルシステムをバイパスし、ファイルシステムキャッシュから読み込む頻度 (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Cache MDL Reads/sec (CACHE_MDL_READS_PER_SEC)	MDL を使用してのファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—
Cache Pin Reads/sec (CACHE_PIN_READS_PER_SEC)	キャッシュから最近アクセスされたデータのブロックをシステムが読み込もうとした頻度 (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—
Cache Read Ahead/sec (CACHE_READ_AHEAD_PER_SEC)	ファイルへのシーケンシャルアクセスをする際のファイルシステムキャッシュからの読み込みの頻度 (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Mem Cache Bytes (MEM_CACHE_BYTES)	キャッシュメモリのバイト数。	Avg	double	No	—
Mem Cache Faults/sec (MEM_CACHE_FAULTS_PER_SEC)	キャッシュメモリのフォルト数 (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

FTP User Overview (PI_ANAF)

機能

FTP User Overview (PI_ANAF) レコードには、FTP ユーザーの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

FTP サイトの構築から設定変更まで。

レコードサイズ

- 固定部：777 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Current Anonymous Users (FTP_CUR_ANONY_USERS)	FTP サービスの現在の匿名ユーザー数。	Avg	ulong	No	—
Current Nonanonymous Users (FTP_CUR_NONANONY_USERS)	FTP サービスの現在の非匿名ユーザー数。	Avg	ulong	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Maximum Anonymous Users (FTP_MAX_ANONY_USERS)	FTP サービスの匿名ユーザーの最大数。	Avg	ulong	No	—
Maximum Nonanonymous Users (FTP_MAX_NONANONY_USERS)	FTP サービスの非匿名ユーザーの最大数。	Avg	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—
Total Anonymous Users (FTP_TOTAL_ANONY_USERS)	FTP サービスの匿名ユーザーの総数。	Avg	ulong	No	—
Total Nonanonymous Users (FTP_TOTAL_NONANONY_USERS)	FTP サービスの非匿名ユーザーの総数。	Avg	ulong	No	—

IIS Bandwidth Throttling (PI_BT)

機能

IIS Bandwidth Throttling (PI_BT) レコードには、Internet Information Services Global (すべての IIS サービスの帯域幅の使用状況やキャッシュ処理状況を監視) についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：761 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Current Blocked Async I/O Req (IIS_CURRENT_BLOCKED_ASYNC_IO_REQ)	インターネットサービスのブロックされた現在の非同期 I/O。	Avg	ulong	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Measured Async I/O B/W Usage (IIS_MEASURED_ASYNC_I O_BW_USAGE)	インターネットサービスの測定された非同期帯域幅の総使用数。	Avg	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—
Total Allowed Async I/O Req (IIS_TOTAL_ALLOWED_A SYNC_IO_REQ)	インターネットサービスのブロックされた許可された非同期 I/O の総数。	Avg	ulong	No	—
Total Blocked Async I/O Req (IIS_TOTAL_BLOCKED_A SYNC_IO_REQ)	インターネットサービスのブロックされた現在の非同期 I/O リクエストの総数。	Avg	ulong	No	—
Total Rejected Async I/O Req (IIS_TOTAL_REJECTED_A SYNC_IO_REQ)	インターネットサービスの拒否された現在の非同期 I/O リクエストの総数。	Avg	ulong	No	—

IIS File Transfer (PI_FLTR)

機能

IIS File Transfer (PI_FLTR) レコードには、ファイルの送受信についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：809 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
FTP - Total Files Rcvd (FILES_RCVD_FTP)	FTP サーバが受信したファイルの総数。	Avg	ulong	No	—
FTP - Total Files Sent (FILES_SENT_FTP)	FTP サーバが送信したファイルの総数。	Avg	ulong	No	—
FTP - Total Files Xferd (FILES_XFERD_FTP)	FTP サーバが転送したファイルの総数。	Avg	ulong	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—
SMTP - Total Msgs Rcvd (SMTP_MSG_RCVD_TOTAL)	SMTP サーバが受信したメッセージの総数。	Avg	ulong	No	—
SMTP - Total Msgs Sent (SMTP_MSG_SENT_TOTAL)	SMTP サーバが送信したメッセージの総数。	Avg	ulong	No	—
Web - Total Files Rcvd (FILES_RCVD_WEB)	Web サーバが受信したファイルの総数。	Avg	ulong	No	—
Web - Total Files Sent (FILES_SENT_WEB)	Web サーバが送信したファイルの総数。	Avg	ulong	No	—
Web - Total Files Xferd (FILES_XFERD_WEB)	Web サーバが転送したファイルの総数。	Avg	ulong	No	—

IIS Thread Count (PI_TCNT)

機能

IIS Thread Count (PI_TCNT) レコードには、Inetinfo に関するスレッドについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

注意事項

SMTP サービスが情報収集対象のホストにインストールされていることが必要です。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：697 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔（秒単位）。	Add	ulong	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—
Thread Count (THREAD_COUNT)	IIS プロセスで現在アクティブとなっているスレッドの数。	Avg	ulong	No	—

IIS Thread Details (PD)

機能

IIS Thread Details (PD) レコードには、IIS のスレッド詳細（スレッドの動作を示すカウンタ群）についてのある時点での状態を示すパフォーマンスデータが格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

PD_INSTANCE

ライフタイム

スレッドの生成からスレッドの消滅まで。

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：48 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
% Processor Time (PER_PROCESSOR_TIME)	IIS スレッドがプロセッサの使用に費やした時間の割合。	Avg	double	No	—
Context Switches/sec (CONTEXT_SWITCHES_PER_SEC)	スレッド間で切り替えを行った割合/秒。	Avg	double	No	—
Instance	インスタンス。	—	string(32)	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
(INSTANCE)	インスタンス。	—	string(32)	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

IIS WorkingSet (PI_WS)

機能

IIS WorkingSet (PI_WS) レコードには、ワーキングセットについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

注意事項

IIS - Cache Hits (IIS_CACHE_HITS) フィールドおよび IIS - Cache Hits % (IIS_CACHE_HITS_PER) フィールドは、OS の仕様により値が取得できない場合があります (または値が 0 のまま変化しません)。

SMTP サービスが情報収集対象のホストにインストールされていることが必要です。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：869 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
IIS - Cache Flushes (IIS_CACHE_FLUSHES)	インターネットサービスのキャッシュの一部が期限切れになった回数。	Avg	ulong	No	—
IIS - Cache Hits (IIS_CACHE_HITS)	インターネットサービスのキャッシュで見つかったクエリ数 (1 秒当たり)。	Avg	ulong	No	—
IIS - Cache Hits % (IIS_CACHE_HITS_PER)	インターネットサービスのキャッシュで見つかったクエリの割合。	Avg	double	No	—
IIS - Cache Misses (IIS_CACHE_MISSES)	インターネットサービスのキャッシュで見つからなかったクエリ数 (1 秒当たり)。	Avg	ulong	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔。(秒単位)。	Add	ulong	No	—
Memory Available Bytes (MEMORY_AVAILABLE_BYTES)	使用可能なメモリのバイト数。	Avg	double	No	—
Memory Page Faults/sec (MEMORY_PAGE_FAULTS_PER_SEC)	1 秒当たりのメモリーページフォールト数。	Avg	double	No	—
Memory Page Input/sec (MEMORY_PAGE_INPUTS_PER_SEC)	1 秒当たりのメモリーページ入力。	Avg	double	No	—
Memory Page Reads/sec (MEMORY_PAGE_READS_PER_SEC)	1 秒当たりのメモリーページ読み込み数。	Avg	double	No	—
Process Page Faults/sec (PROCESS_PAGE_FAULTS_PER_SEC)	インターネットサービスのプロセスページフォールト (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—
Process Working Set (PROCESS_WORKING_SET)	インターネットサービスのプロセスのワーキングセットにおけるバイト数。	Avg	double	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

Logical Disk Overview (PI_LGDP)

機能

Logical Disk Overview (PI_LGDP) レコードには、論理ディスクの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

ディスクドライブの構成から構成変更まで。

レコードサイズ

- 固定部：797 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
% Disk Time (PER_DISK_TIME)	ディスクドライブがビジー状態の経過時間の割合。	Avg	double	No	—
Avg Disk Queue Length (AVG_DISK_QUEUE_LENGTH)	ディスクキュー平均の長さ。	Avg	double	No	—
Avg Disk Sec/Transfer	平均ディスク転送時間（秒単位）。	Avg	double	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
(AVG_DISK_SEC_PER_TRANSFER)	平均ディスク転送時間 (秒単位)。	Avg	double	No	—
Current Disk Queue Length (CURRENT_DISK_QUEUE_LENGTH)	現在のディスクキュー長。	Avg	ulong	No	—
Disk Reads/sec (DISK_READS_PER_SEC)	ディスク読み込みの 1 秒当たりの回数。	Avg	double	No	—
Disk Writes/sec (DISK_WRITES_PER_SEC)	ディスク書き込みの 1 秒当たりの回数。	Avg	double	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

Monitoring Connection (PI_CONN)

機能

Monitoring Connection (PI_CONN) レコードには、Web と FTP の接続についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：745 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
FTP - Current Conns (FTP_CUR_CONNS)	FTP サービスの現在の接続数。	Avg	ulong	No	—
FTP - Maximum Conns (FTP_MAX_CONNS)	FTP サービスの最大接続数。	Avg	ulong	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—
Web - Current Conns (WEB_CUR_CONNS)	Web サービスの現在の接続数。	Avg	ulong	No	—
Web - Maximum Conns (WEB_MAX_CONNS)	Web サービスの最大接続数。	Avg	ulong	No	—

Network Layer Overview (PI_TRNL)

機能

Network Layer Overview (PI_TRNL) レコードには、ネットワーク層の傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：761 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Datagrams Forwarded/sec (DATAGRAMS_FORWARDED_PER_SEC)	IP データグラムがネットワークレイヤーから他へ送信される割合 (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—
Datagrams Rcvd/sec (DATAGRAMS_RCVD_PER_SEC)	IP データグラムがネットワークレイヤーに受信した割合 (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Datagrams Sent/sec (DATAGRAMS_SENT_PER_SEC)	IP データグラムがネットワークレイヤーに送信した割合 (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—
Datagrams/sec (DATAGRAMS_PER_SEC)	IP データグラムとネットワークレイヤーの送受信の割合 (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

Not Found Errors (PI_NFE)

機能

Not Found Errors (PI_NFE) レコードには、Web Not Found (Web 接続失敗) についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：701 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Web - Not Found Errors/sec (WEB_NOT_FOUND_ERRORS_PER_SEC)	Web サービスの 1 秒当たりの未発見のエラー数。	Avg	double	No	—

Physical Disk Overview (PI_PYDP)

機能

Physical Disk Overview (PI_PYDP) レコードには、物理ディスクの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

ハードディスク構成からハードディスク追加、削除、構成変更まで。

レコードサイズ

- 固定部：797 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
% Disk Time (PER_DISK_TIME)	ディスクドライブがビジー状態の経過時間の割合。	Avg	double	No	—
Avg Disk Queue Length (AVG_DISK_QUEUE_LENGTH)	ディスクキュー平均の長さ。	Avg	double	No	—
Avg Disk Sec/Transfer	平均ディスク転送時間（秒単位）。	Avg	double	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
(AVG_DISK_SEC_PER_TRANSFER)	平均ディスク転送時間 (秒単位)。	Avg	double	No	—
Current Disk Queue Length (CURRENT_DISK_QUEUE_LENGTH)	現在のディスクキュー長。	Avg	ulong	No	—
Disk Reads/sec (DISK_READS_PER_SEC)	1 秒当たりのディスク読み込み数。	Avg	double	No	—
Disk Writes/sec (DISK_WRITES_PER_SEC)	1 秒当たりのディスク書き込み数。	Avg	double	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

Processor Activity (PI_PA)

機能

Processor Activity (PI_PA) レコードには、プロセッサタイムやキュー長などについてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：777 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
% Privileged Time (PROCESSOR_PER_PRIVILEGED_TIME)	割り込み処理, DPCS などのプロセッサ特別処理時間の割合。	Avg	double	No	—
% Processor Time (PROCESSOR_PER_PROCESSOR_TIME)	プロセッサが実行している処理時間の割合。	Avg	double	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
% User Time (PROCESSOR_PER_USER_TIME)	ユーザープロセスでのプロセッサが実行している処理時間の割合。	Avg	double	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Process - % Processor Time (PROCESS_PER_PROCESSOR_TIME)	すべての IIS プロセスの処理時間の割合。	Avg	double	No	—
Processor Queue Length (PROCESSOR_QUEUE_LENGTH)	プロセッサキューのスレッドの数。	Avg	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

TCP Connection Overview (PI_TCPC)

機能

TCP Connection Overview (PI_TCPC) レコードには、TCP コネクションの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：729 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Conn Failures (TCP_CONN_FAILURES)	TCP 接続に失敗した接続数。	Avg	ulong	No	—
Conns Established (TCP_CONNS_ESTABLISHED)	TCP 接続された接続数。	Avg	ulong	No	—
Conns Reset (TCP_CONNS_RESET)	TCP 接続がリセットされた接続数。	Avg	ulong	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

Transport Layer Overview (PI_TRTL)

機能

Transport Layer Overview (PI_TRTL) レコードには、TCP セグメントの送受信についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：761 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Segments Rcvd/sec (TCP_SEG_RCVD_SEC)	TCP セグメントの現在有効な接続のエラーも含んだ 1 秒当たりの受信回数。	Avg	double	No	—
Segments Retransmitted/sec (TCP_SEG_RE_XMITD_SEC)	TCP セグメントが再送したバイト数の割合 (1 秒当たり)。	Avg	double	No	—
Segments Sent/sec (TCP_SEG_SENT_SEC)	TCP セグメントの現在有効な接続のエラーも含んだ 1 秒当たりの送信回数。	Avg	double	No	—
Segments/sec (TCP_SEG_SEC)	TCP セグメントの現在有効な接続のエラーも含んだ 1 秒当たりの送受信回数。	Avg	double	No	—

Web User Overview (PI_ANAW)

機能

Web User Overview (PI_ANAW) レコードには、Web ユーザーの傾向についてのある一定の時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

Web サイトの設定から変更，削除まで。

レコードサイズ

- 固定部：817 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Anonymous Users/sec (WEB_ANONY_USERS_SEC)	Web サービスの 1 秒当たりの匿名ユーザー数。	Avg	double	No	—
Curr Anonymous Users (WEB_CURRENT_ANONY_USERS)	Web サービスの現在の匿名ユーザー数。	Avg	ulong	No	—
Curr Nonanonymous Users	Web サービスの現在の非匿名ユーザー数。	Avg	ulong	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
(WEB_CURRENT_NONANONY_USERS)	Web サービスの現在の非匿名ユーザー数。	Avg	ulong	No	—
Interval (INTERVAL)	情報が収集された間隔 (秒単位)。	Add	ulong	No	—
Max Anonymous Users (WEB_MAX_ANONY_USERS)	Web サービスの匿名ユーザーの最大数。	Avg	ulong	No	—
Max Nonanonymous Users (WEB_MAX_NONANONY_USERS)	Web サービスの非匿名ユーザーの最大数。	Avg	ulong	No	—
Nonanonymous Users/sec (WEB_NONANONY_USERS_SEC)	Web サービスの 1 秒当たりの非匿名ユーザー数。	Avg	double	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻 (グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—
Total Anonymous Users (WEB_TOTAL_ANONY_USERS)	Web サービスの匿名ユーザーの総数。	Avg	ulong	No	—
Total Nonanonymous Users (WEB_TOTAL_NONANONY_USERS)	Web サービスの非匿名ユーザーの総数。	Avg	ulong	No	—

WWW Service Cache (PI_WSC)

機能

WWW Service Cache (PI_WSC) レコードには、WWW サービスのキャッシュ情報について、ある一定時間を単位としたパフォーマンスデータが格納されます。

注意事項

ホスト全体のパフォーマンスデータが格納されます。個々のサイトのデータは収集できません。
また、FTP サービスのキャッシュについてのパフォーマンスデータは含みません。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	60	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○
Over 10 Sec Collection Time	No	×
Realtime Report Data Collection Mode	Reschedule	○

ODBC キーフィールド

なし

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：749 バイト
- 可変部：0 バイト

フィールド

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Interval	情報が収集された間隔(秒単位)。	Add	ulong	No	—

View 名 (Manager 名)	説明	要約	形式	デルタ	データソース
(INTERVAL)	情報が収集された間隔(秒単位)。	Add	ulong	No	—
Record Time (RECORD_TIME)	レコードが作成された時刻(グリニッジ標準時)。	Copy	time_t	No	—
Record Type (INPUT_RECORD_TYPE)	レコードタイプ識別子。	Copy	char(8)	No	—
WSC - Cache Flushes (WSC_CACHE_FLUSHES)	WWWサービスのキャッシュから削除された数。	Avg	ulong	No	—
WSC - Cache Hits (WSC_CACHE_HITS)	WWWサービスのキャッシュ参照が成功した回数。	Avg	ulong	No	—
WSC - Cache Hits % (WSC_CACHE_HITS_PER)	WWWサービスのキャッシュ参照が成功した比率。	Avg	double	No	—
WSC - Cache Misses (WSC_CACHE_MISSES)	WWWサービスのキャッシュ参照が失敗した回数。	Avg	ulong	No	—

IIS7.5 環境のレコード収集可否表

IIS7.5 環境における、役割サービスのインストール状態とレコード収集可否について、組み合わせの一覧を記載します。

IIS の役割サービスとパフォーマンスカウンタ

IIS の個々の機能を役割サービスと呼称します。

IIS 構築の際には、インストールする役割サービスによって異なるパフォーマンスカウンタが組み込まれます。

レコード情報は、端末のパフォーマンスカウンタ等から情報を収集するため、インストールされている役割サービスによって、レコード情報の収集可否は変化します。

IIS7.5 について

Windows Server 2008 R2 に付属しています。

FTP7.5 がインストール可能です。

SMTP サービスのインストールは、IIS7.0 以降 IIS と分離しました、機能画面よりインストールします。

収集可否

○：収集可能です。

○[0]：収集不可能ですが、他バージョンとの互換をとるため項目を残し 0 を設定します。

△：無効な値が収集されます。

×：収集不可能です。

全レコード共通で、Interval, Record Time, Record Type の 3 項目が収集されます。

これらは IIS から収集する情報ではなく、エージェントが自己生成する情報です。

- Interval は、レコード収集時間の間隔です。
- Record Time は、レコード収集時刻です。
- Record Type は、レコード ID 名です。

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
1	PD	% Processor Time	×	×	○	×	×	○
		Context Switches/sec	×	×	○	×	×	○
		Instance	×	×	○	×	×	○
2	PD_TRDL	Bytes Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○
		Bytes Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Bytes Total/sec	○	○	○	○	○	○
		Instance	○	○	○	○	○	○
3	PI	Cache Copy Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache Fast Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache MDL Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache Pin Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache Read Ahead/sec	○	○	○	○	○	○
		Mem Cache Bytes	○	○	○	○	○	○
		Mem Cache Faults/sec	○	○	○	○	○	○
4	PL_ANAF	Current Anonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Current Nonanonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Maximum Anonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Maximum Nonanonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Total Anonymous Users	×	○	×	×	×	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
4	PL_ANAF	Total Nonanonymous Users	×	○	×	×	×	○
5	PL_ANAW	Anonymous Users/sec	○	○	○	○	○	○
		Curr Anonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Curr Nonanonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Max Anonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Max Nonanonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Nonanonymous Users/sec	○	○	○	○	○	○
		Total Anonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Total Nonanonymous Users	○	○	○	○	○	○
6	PL_ASPT	Errors/sec	×	×	×	○	×	○
		Req Execution Time	×	×	×	○	×	○
		Req Wait Time	×	×	×	○	×	○
		Reqs Disconnected	×	×	×	○	×	○
		Reqs Executing	×	×	×	○	×	○
		Reqs Failed Total	×	×	×	○	×	○
		Reqs Not Authorized	×	×	×	○	×	○
		Reqs Not Found	×	×	×	○	×	○
		Reqs Queued	×	×	×	○	×	○
		Reqs Rejected	×	×	×	○	×	○
		Reqs Succeeded	×	×	×	○	×	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
6	PL_ASPT	Reqs Timed Out	×	×	×	○	×	○
		Reqs Total	×	×	×	○	×	○
		Reqs/sec	×	×	×	○	×	○
		Sessions Current	×	×	×	○	×	○
		Trans Aborted	×	×	×	○	×	○
		Trans Committed	×	×	×	○	×	○
		Trans Pending	×	×	×	○	×	○
		Trans Total	×	×	×	○	×	○
		Trans/sec	×	×	×	○	×	○
7	PL_BT	Current Blocked Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
		Measured Async I/O B/W Usage	×	×	△	×	×	△
		Total Allowed Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
		Total Blocked Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
		Total Rejected Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
8	PL_CONN	FTP - Current Conns	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Maximum Conns	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		Web - Current Conns	○	○	○	○	○	○
		Web - Maximum Conns	○	○	○	○	○	○
9	PL_FLTR	FTP - Total Files Rcvd	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Total Files Sent	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
9	PL_FLTR	FTP - Total Files Xferd	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Total Msgs Rcvd	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Total Msgs Sent	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		Web - Total Files Rcvd	○	○	○	○	○	○
		Web - Total Files Sent	○	○	○	○	○	○
		Web - Total Files Xferd	○	○	○	○	○	○
10	PL_LGDP	% Disk Time	○	○	○	○	○	○
		Avg Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Avg Disk sec/ Transfer	○	○	○	○	○	○
		Current Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Disk Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Disk Writes/sec	○	○	○	○	○	○
11	PL_NFE	Web - Not Found Errors/sec	○	○	○	○	○	○
12	PL_PA	% Privileged Time	○	○	○	○	○	○
		% Processor Time	○	○	○	○	○	○
		% User Time	○	○	○	○	○	○
		Process - % Processor Time	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		Processor Queue Length	○	○	○	○	○	○
13	PL_PYDP	% Disk Time	○	○	○	○	○	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
13	PL_PYDP	Avg Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Avg Disk sec/Transfer	○	○	○	○	○	○
		Current Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Disk Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Disk Writes/sec	○	○	○	○	○	○
14	PL_TCNT	Thread Count	×	×	○	×	×	○
15	PL_TCPC	Conn Failures	○	○	○	○	○	○
		Conns Established	○	○	○	○	○	○
		Conns Reset	○	○	○	○	○	○
16	PL_TRAL	FTP - Bytes Rcvd/sec	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Bytes Sent/sec	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Bytes Total/sec	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Bytes Rcvd/sec	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Bytes Sent/sec	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Bytes Total/sec	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		Web - Bytes Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○
		Web - Bytes Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Web - Bytes Total/sec	○	○	○	○	○	○
17	PL_TRNL	Datagrams Forwarded/sec	○	○	○	○	○	○
		Datagrams Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
17	PL_TRNL	Datagrams Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Datagrams/sec	○	○	○	○	○	○
18	PL_TRTL	Segments Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○
		Segments Retransmitted/sec	○	○	○	○	○	○
		Segments Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Segments/sec	○	○	○	○	○	○
19	PL_WS	IIS - Cache Flushes	×	×	○	×	×	○
		IIS - Cache Hits	×	×	○	×	×	○
		IIS - Cache Hits %	×	×	○	×	×	○
		IIS - Cache Misses	×	×	○	×	×	○
		Memory Available Bytes	×	×	○	×	×	○
		Memory Page Faults/sec	×	×	○	×	×	○
		Memory Page Input/sec	×	×	○	×	×	○
		Memory Page Reads/sec	×	×	○	×	×	○
		Process Page Faults/sec	×	×	○	×	×	○
		Process Working Set	×	×	○	×	×	○
20	PL_APNT	Errors/sec	×	×	×	×	○	○
		Req Execution Time	×	×	×	×	○	○
		Req Wait Time	×	×	×	×	○	○
		Reqs Disconnected	×	×	×	×	○	○
		Reqs Executing	×	×	×	×	○	○
		Reqs Failed Total	×	×	×	×	○	○
		Reqs Not Authorized	×	×	×	×	○	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
20	PL_APNT	Reqs Not Found	×	×	×	×	○	○
		Reqs Queued	×	×	×	×	○	○
		Reqs Rejected	×	×	×	×	○	○
		Reqs Succeeded	×	×	×	×	○	○
		Reqs Timed Out	×	×	×	×	○	○
		Reqs Total	×	×	×	×	○	○
		Reqs/sec	×	×	×	×	○	○
		Sessions Current	×	×	×	×	○	○
		Trans Aborted	×	×	×	×	○	○
		Trans Committed	×	×	×	×	○	○
		Trans Pending	×	×	×	×	○	○
		Trans Total	×	×	×	×	○	○
		Trans/sec	×	×	×	×	○	○
21	PI_WSC	WSC - Cache Flushes	○	○	○	○	○	○
		WSC - Cache Hits	○	○	○	○	○	○
		WSC - Cache Hits %	○	○	○	○	○	○
		WSC - Cache Misses	○	○	○	○	○	○

IIS8.0 環境のレコード収集可否表

IIS8.0 環境における、役割サービスのインストール状態とレコード収集可否について、組み合わせの一覧を記載します。

IIS の役割サービスとパフォーマンスカウンタ

IIS の個々の機能を役割サービスと呼称します。

IIS 構築の際には、インストールする役割サービスによって異なるパフォーマンスカウンタが組み込まれます。

レコード情報は、端末のパフォーマンスカウンタ等から情報を収集するため、インストールされている役割サービスによって、レコード情報の収集可否は変化します。

IIS8.0 について

Windows Server 2012 に付属しています。

FTP7.5 がインストール可能です。

SMTP サービスのインストールは、IIS7.0 以降 IIS と分離しました、機能画面よりインストールします。

収集可否

○：収集可能です。

○[0]：収集不可能ですが、他バージョンとの互換をとるため項目を残し 0 を設定します。

△：無効な値が収集されます。

×：収集不可能です。

全レコード共通で、Interval, Record Time, Record Type の 3 項目が収集されます。

これらは IIS から収集する情報ではなく、エージェントが自己生成する情報です。

- Interval は、レコード収集時間の間隔です。
- Record Time は、レコード収集時刻です。
- Record Type は、レコード ID 名です。

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
1	PD	% Processor Time	×	×	○	×	×	○
		Context Switches/sec	×	×	○	×	×	○
		Instance	×	×	○	×	×	○
2	PD_TRDL	Bytes Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○
		Bytes Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Bytes Total/sec	○	○	○	○	○	○
		Instance	○	○	○	○	○	○
3	PI	Cache Copy Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache Fast Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache MDL Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache Pin Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache Read Ahead/sec	○	○	○	○	○	○
		Mem Cache Bytes	○	○	○	○	○	○
		Mem Cache Faults/sec	○	○	○	○	○	○
4	PL_ANAF	Current Anonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Current Nonanonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Maximum Anonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Maximum Nonanonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Total Anonymous Users	×	○	×	×	×	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
4	PL_ANAF	Total Nonanonymous Users	×	○	×	×	×	○
5	PL_ANAW	Anonymous Users/sec	○	○	○	○	○	○
		Curr Anonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Curr Nonanonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Max Anonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Max Nonanonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Nonanonymous Users/sec	○	○	○	○	○	○
		Total Anonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Total Nonanonymous Users	○	○	○	○	○	○
6	PL_ASPT	Errors/sec	×	×	×	○	×	○
		Req Execution Time	×	×	×	○	×	○
		Req Wait Time	×	×	×	○	×	○
		Reqs Disconnected	×	×	×	○	×	○
		Reqs Executing	×	×	×	○	×	○
		Reqs Failed Total	×	×	×	○	×	○
		Reqs Not Authorized	×	×	×	○	×	○
		Reqs Not Found	×	×	×	○	×	○
		Reqs Queued	×	×	×	○	×	○
		Reqs Rejected	×	×	×	○	×	○
		Reqs Succeeded	×	×	×	○	×	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
6	PL_ASPT	Reqs Timed Out	×	×	×	○	×	○
		Reqs Total	×	×	×	○	×	○
		Reqs/sec	×	×	×	○	×	○
		Sessions Current	×	×	×	○	×	○
		Trans Aborted	×	×	×	○	×	○
		Trans Committed	×	×	×	○	×	○
		Trans Pending	×	×	×	○	×	○
		Trans Total	×	×	×	○	×	○
		Trans/sec	×	×	×	○	×	○
7	PL_BT	Current Blocked Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
		Measured Async I/O B/W Usage	×	×	△	×	×	△
		Total Allowed Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
		Total Blocked Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
		Total Rejected Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
8	PL_CONN	FTP - Current Conns	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Maximum Conns	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		Web - Current Conns	○	○	○	○	○	○
		Web - Maximum Conns	○	○	○	○	○	○
9	PL_FLTR	FTP - Total Files Rcvd	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Total Files Sent	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
9	PL_FLTR	FTP - Total Files Xferd	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Total Msgs Rcvd	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Total Msgs Sent	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		Web - Total Files Rcvd	○	○	○	○	○	○
		Web - Total Files Sent	○	○	○	○	○	○
		Web - Total Files Xferd	○	○	○	○	○	○
10	PL_LGDP	% Disk Time	○	○	○	○	○	○
		Avg Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Avg Disk sec/ Transfer	○	○	○	○	○	○
		Current Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Disk Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Disk Writes/sec	○	○	○	○	○	○
11	PL_NFE	Web - Not Found Errors/sec	○	○	○	○	○	○
12	PL_PA	% Privileged Time	○	○	○	○	○	○
		% Processor Time	○	○	○	○	○	○
		% User Time	○	○	○	○	○	○
		Process - % Processor Time	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		Processor Queue Length	○	○	○	○	○	○
13	PL_PYDP	% Disk Time	○	○	○	○	○	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
13	PL_PYDP	Avg Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Avg Disk sec/Transfer	○	○	○	○	○	○
		Current Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Disk Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Disk Writes/sec	○	○	○	○	○	○
14	PL_TCNT	Thread Count	×	×	○	×	×	○
15	PL_TCPC	Conn Failures	○	○	○	○	○	○
		Conns Established	○	○	○	○	○	○
		Conns Reset	○	○	○	○	○	○
16	PL_TRAL	FTP - Bytes Rcvd/sec	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Bytes Sent/sec	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Bytes Total/sec	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Bytes Rcvd/sec	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Bytes Sent/sec	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Bytes Total/sec	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		Web - Bytes Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○
		Web - Bytes Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Web - Bytes Total/sec	○	○	○	○	○	○
17	PL_TRNL	Datagrams Forwarded/sec	○	○	○	○	○	○
		Datagrams Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
17	PL_TRNL	Datagrams Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Datagrams/sec	○	○	○	○	○	○
18	PL_TRTL	Segments Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○
		Segments Retransmitted/sec	○	○	○	○	○	○
		Segments Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Segments/sec	○	○	○	○	○	○
19	PL_WS	IIS - Cache Flushes	×	×	○	×	×	○
		IIS - Cache Hits	×	×	○	×	×	○
		IIS - Cache Hits %	×	×	○	×	×	○
		IIS - Cache Misses	×	×	○	×	×	○
		Memory Available Bytes	×	×	○	×	×	○
		Memory Page Faults/sec	×	×	○	×	×	○
		Memory Page Input/sec	×	×	○	×	×	○
		Memory Page Reads/sec	×	×	○	×	×	○
		Process Page Faults/sec	×	×	○	×	×	○
		Process Working Set	×	×	○	×	×	○
20	PL_APNT	Errors/sec	×	×	×	×	○	○
		Req Execution Time	×	×	×	×	○	○
		Req Wait Time	×	×	×	×	○	○
		Reqs Disconnected	×	×	×	×	○	○
		Reqs Executing	×	×	×	×	○	○
		Reqs Failed Total	×	×	×	×	○	○
		Reqs Not Authorized	×	×	×	×	○	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
20	PL_APNT	Reqs Not Found	×	×	×	×	○	○
		Reqs Queued	×	×	×	×	○	○
		Reqs Rejected	×	×	×	×	○	○
		Reqs Succeeded	×	×	×	×	○	○
		Reqs Timed Out	×	×	×	×	○	○
		Reqs Total	×	×	×	×	○	○
		Reqs/sec	×	×	×	×	○	○
		Sessions Current	×	×	×	×	○	○
		Trans Aborted	×	×	×	×	○	○
		Trans Committed	×	×	×	×	○	○
		Trans Pending	×	×	×	×	○	○
		Trans Total	×	×	×	×	○	○
		Trans/sec	×	×	×	×	○	○
21	PI_WSC	WSC - Cache Flushes	○	○	○	○	○	○
		WSC - Cache Hits	○	○	○	○	○	○
		WSC - Cache Hits %	○	○	○	○	○	○
		WSC - Cache Misses	○	○	○	○	○	○

IIS8.5 環境のレコード収集可否表

IIS8.5 環境における、役割サービスのインストール状態とレコード収集可否について、組み合わせの一覧を記載します。

IIS の役割サービスとパフォーマンスカウンタ

IIS の個々の機能を役割サービスと呼称します。

IIS 構築の際には、インストールする役割サービスによって異なるパフォーマンスカウンタが組み込まれます。

レコード情報は、端末のパフォーマンスカウンタ等から情報を収集するため、インストールされている役割サービスによって、レコード情報の収集可否は変化します。

IIS8.5 について

Windows Server 2012 R2 に付属しています。

FTP7.5 がインストール可能です。

SMTP サービスのインストールは、IIS7.0 以降 IIS と分離しました、機能画面よりインストールします。

収集可否

○：収集可能です。

○[0]：収集不可能ですが、他バージョンとの互換をとるため項目を残し 0 を設定します。

△：無効な値が収集されます。

×：収集不可能です。

全レコード共通で、Interval, Record Time, Record Type の 3 項目が収集されます。

これらは IIS から収集する情報ではなく、エージェントが自己生成する情報です。

- Interval は、レコード収集時間の間隔です。
- Record Time は、レコード収集時刻です。
- Record Type は、レコード ID 名です。

項 番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デ フォ ルト	デフォ ルト + FTP	デフォ ルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォ ルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
1	PD	% Processor Time	×	×	○	×	×	○
		Context Switches/sec	×	×	○	×	×	○
		Instance	×	×	○	×	×	○
2	PD_TRDL	Bytes Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○
		Bytes Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Bytes Total/sec	○	○	○	○	○	○
		Instance	○	○	○	○	○	○
3	PI	Cache Copy Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache Fast Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache MDL Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache Pin Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Cache Read Ahead/sec	○	○	○	○	○	○
		Mem Cache Bytes	○	○	○	○	○	○
		Mem Cache Faults/sec	○	○	○	○	○	○
4	PL_ANAF	Current Anonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Current Nonanonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Maximum Anonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Maximum Nonanonymous Users	×	○	×	×	×	○
		Total Anonymous Users	×	○	×	×	×	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
4	PL_ANAF	Total Nonanonymous Users	×	○	×	×	×	○
5	PL_ANAW	Anonymous Users/sec	○	○	○	○	○	○
		Curr Anonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Curr Nonanonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Max Anonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Max Nonanonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Nonanonymous Users/sec	○	○	○	○	○	○
		Total Anonymous Users	○	○	○	○	○	○
		Total Nonanonymous Users	○	○	○	○	○	○
6	PL_ASPT	Errors/sec	×	×	×	○	×	○
		Req Execution Time	×	×	×	○	×	○
		Req Wait Time	×	×	×	○	×	○
		Reqs Disconnected	×	×	×	○	×	○
		Reqs Executing	×	×	×	○	×	○
		Reqs Failed Total	×	×	×	○	×	○
		Reqs Not Authorized	×	×	×	○	×	○
		Reqs Not Found	×	×	×	○	×	○
		Reqs Queued	×	×	×	○	×	○
		Reqs Rejected	×	×	×	○	×	○
		Reqs Succeeded	×	×	×	○	×	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
6	PL_ASPT	Reqs Timed Out	×	×	×	○	×	○
		Reqs Total	×	×	×	○	×	○
		Reqs/sec	×	×	×	○	×	○
		Sessions Current	×	×	×	○	×	○
		Trans Aborted	×	×	×	○	×	○
		Trans Committed	×	×	×	○	×	○
		Trans Pending	×	×	×	○	×	○
		Trans Total	×	×	×	○	×	○
		Trans/sec	×	×	×	○	×	○
7	PL_BT	Current Blocked Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
		Measured Async I/O B/W Usage	×	×	△	×	×	△
		Total Allowed Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
		Total Blocked Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
		Total Rejected Async I/O Req	×	×	△	×	×	△
8	PL_CONN	FTP - Current Conns	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Maximum Conns	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		Web - Current Conns	○	○	○	○	○	○
		Web - Maximum Conns	○	○	○	○	○	○
9	PL_FLTR	FTP - Total Files Rcvd	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Total Files Sent	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
9	PL_FLTR	FTP - Total Files Xferd	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Total Msgs Rcvd	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Total Msgs Sent	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		Web - Total Files Rcvd	○	○	○	○	○	○
		Web - Total Files Sent	○	○	○	○	○	○
		Web - Total Files Xferd	○	○	○	○	○	○
10	PL_LGDP	% Disk Time	○	○	○	○	○	○
		Avg Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Avg Disk sec/ Transfer	○	○	○	○	○	○
		Current Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Disk Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Disk Writes/sec	○	○	○	○	○	○
11	PL_NFE	Web - Not Found Errors/sec	○	○	○	○	○	○
12	PL_PA	% Privileged Time	○	○	○	○	○	○
		% Processor Time	○	○	○	○	○	○
		% User Time	○	○	○	○	○	○
		Process - % Processor Time	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		Processor Queue Length	○	○	○	○	○	○
13	PL_PYDP	% Disk Time	○	○	○	○	○	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
13	PL_PYDP	Avg Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Avg Disk sec/Transfer	○	○	○	○	○	○
		Current Disk Queue Length	○	○	○	○	○	○
		Disk Reads/sec	○	○	○	○	○	○
		Disk Writes/sec	○	○	○	○	○	○
14	PL_TCNT	Thread Count	×	×	○	×	×	○
15	PL_TCPC	Conn Failures	○	○	○	○	○	○
		Conns Established	○	○	○	○	○	○
		Conns Reset	○	○	○	○	○	○
16	PL_TRAL	FTP - Bytes Rcvd/sec	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Bytes Sent/sec	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		FTP - Bytes Total/sec	○[0]	○	○[0]	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Bytes Rcvd/sec	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Bytes Sent/sec	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		SMTP - Bytes Total/sec	○[0]	○[0]	○	○[0]	○[0]	○
		Web - Bytes Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○
		Web - Bytes Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Web - Bytes Total/sec	○	○	○	○	○	○
17	PL_TRNL	Datagrams Forwarded/sec	○	○	○	○	○	○
		Datagrams Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
17	PL_TRNL	Datagrams Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Datagrams/sec	○	○	○	○	○	○
18	PL_TRTL	Segments Rcvd/sec	○	○	○	○	○	○
		Segments Retransmitted/sec	○	○	○	○	○	○
		Segments Sent/sec	○	○	○	○	○	○
		Segments/sec	○	○	○	○	○	○
19	PL_WS	IIS - Cache Flushes	×	×	○	×	×	○
		IIS - Cache Hits	×	×	○	×	×	○
		IIS - Cache Hits %	×	×	○	×	×	○
		IIS - Cache Misses	×	×	○	×	×	○
		Memory Available Bytes	×	×	○	×	×	○
		Memory Page Faults/sec	×	×	○	×	×	○
		Memory Page Input/sec	×	×	○	×	×	○
		Memory Page Reads/sec	×	×	○	×	×	○
		Process Page Faults/sec	×	×	○	×	×	○
		Process Working Set	×	×	○	×	×	○
20	PL_APNT	Errors/sec	×	×	×	×	○	○
		Req Execution Time	×	×	×	×	○	○
		Req Wait Time	×	×	×	×	○	○
		Reqs Disconnected	×	×	×	×	○	○
		Reqs Executing	×	×	×	×	○	○
		Reqs Failed Total	×	×	×	×	○	○
		Reqs Not Authorized	×	×	×	×	○	○

項番	レコード		インストール状態と収集可否					
	ID	フィールド	デフォルト	デフォルト + FTP	デフォルト + SMTP	デフォルト + ASP	デフォルト + ASP.NET	デフォルト + FTP + SMTP + ASP + ASP.NET
20	PL_APNT	Reqs Not Found	×	×	×	×	○	○
		Reqs Queued	×	×	×	×	○	○
		Reqs Rejected	×	×	×	×	○	○
		Reqs Succeeded	×	×	×	×	○	○
		Reqs Timed Out	×	×	×	×	○	○
		Reqs Total	×	×	×	×	○	○
		Reqs/sec	×	×	×	×	○	○
		Sessions Current	×	×	×	×	○	○
		Trans Aborted	×	×	×	×	○	○
		Trans Committed	×	×	×	×	○	○
		Trans Pending	×	×	×	×	○	○
		Trans Total	×	×	×	×	○	○
		Trans/sec	×	×	×	×	○	○
21	PI_WSC	WSC - Cache Flushes	○	○	○	○	○	○
		WSC - Cache Hits	○	○	○	○	○	○
		WSC - Cache Hits %	○	○	○	○	○	○
		WSC - Cache Misses	○	○	○	○	○	○

7

メッセージ

この章では、PFM - Agent for IIS のメッセージ形式、出力先一覧、Windows イベントログの一覧、およびメッセージ一覧について説明します。

7.1 メッセージの形式

PFM - Agent for IIS が出力するメッセージの形式と、マニュアルでの記載形式を示します。

7.1.1 メッセージの出力形式

PFM - Agent for IIS が出力するメッセージの形式を説明します。メッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。形式を次に示します。

```
KAVFnnnnn-Yメッセージテキスト
```

メッセージ ID は、次の内容を示しています。

K

システム識別子を示します。

AVF

PFM - Agent のメッセージであることを示します。

nnnnn

メッセージの通し番号を示します。PFM - Agent for IIS のメッセージ番号は、「27xxx」です。

Y

メッセージの種類を示します。

- E：エラー
処理は中断されます。
- W：警告
メッセージ出力後、処理は続けられます。
- I：情報
ユーザーに情報を知らせます。
- Q：応答
ユーザーに応答を促します。

メッセージの種類と Windows イベントログの種類との対応を次に示します。

-E

- レベル：エラー
- 意味：エラーメッセージ。

-W

- レベル：警告

- 意味：警告メッセージ。

-I

- レベル：情報
- 意味：付加情報メッセージ。

-Q

(出力されない)

7.1.2 メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を示します。メッセージテキストで太字になっている部分は、メッセージが表示される状況によって表示内容が変わることを示しています。また、メッセージをメッセージ ID 順に記載しています。記載形式の例を次に示します。

メッセージ ID

英語メッセージテキスト

日本語メッセージテキスト

メッセージの説明文

(S)

システムの処置を示します。

(O)

メッセージが表示されたときに、オペレーターがとる処置を示します。

参考

運用中にトラブルが発生した場合には、「[8. トラブルへの対処方法](#)」を参照してログ情報を採取し、初期調査をしてください。

トラブル要因の初期調査をする場合は、OS のログ情報 (Windows イベントログ) や、PFM - Agent for IIS が出力する各種ログ情報を参照してください。これらのログ情報でトラブル発生時間帯の内容を参照して、トラブルを回避したり、トラブルに対処したりしてください。また、トラブルが発生するまでの操作方法などを記録してください。同時に、できるだけ再現性の有無を確認するようにしてください。

7.2 メッセージの出力先一覧

ここでは、PFM - Agent for IIS が出力する各メッセージの出力先を一覧で示します。

表中では、出力先を凡例のように表記しています。

(凡例)

- ：出力する
- －：出力しない

表 7-1 PFM - Agent for IIS のメッセージの出力先一覧

メッセージID	出力先			
	Windows イベントログ	共通 メッセージログ	内部 トレースログ	JP1 システム イベント※
KAVF27000	○	○	－	－
KAVF27001	○	○	○	－
KAVF27002	○	○	－	－
KAVF27003	○	○	－	－
KAVF27004	○	○	－	－
KAVF27005	○	○	－	－
KAVF27300	－	－	○	－
KAVF27302	－	－	○	－
KAVF27303	－	－	○	－
KAVF27304	－	－	○	－
KAVF27400	－	－	○	○
KAVF27401	－	－	○	○
KAVF27402	－	－	○	○
KAVF27403	－	－	○	○

注※

JP1 システムイベントは、エージェントの状態の変化を JP1/IM に通知するイベントです。JP1 システムイベントの詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の統合管理製品 (JP1/IM) と連携した稼働監視について説明している章を参照してください。

JP1 システムイベントを発行するための前提プログラムを次の表に示します。

表 7-2 JP1 システムイベントを発行するための前提プログラム

ホスト種別	前提プログラム	バージョン
監視マネージャー	PFM - Manager	09-00 以降

ホスト種別	前提プログラム	バージョン
監視コンソールサーバ	PFM - Web Console	08-00 以降
監視エージェントホスト	PFM - Agent for IIS	09-00 以降
	PFM - Manager または PFM - Base	09-00 以降
	JP1/Base	08-50 以降

7.3 Windows イベントログの一覧

ここでは、PFM - Agent for IIS が Windows イベントログに出力するメッセージ情報の一覧を示します。

Windows イベントログは、[イベントビューア] ウィンドウのアプリケーションログに表示されます。

PFM - Agent for IIS が出力するイベントの場合、[イベントビューア] ウィンドウの [ソース] に識別子「PFM-IIS」が表示されます。

PFM - Agent for IIS が Windows イベントログに出力するメッセージ情報の一覧を次の表に示します。

表 7-3 Windows イベントログ出力メッセージ情報一覧

メッセージ ID	イベント ID	種類
KAVF27000-I	27000	情報
KAVF27001-I	27001	情報
KAVF27002-E	27002	エラー
KAVF27003-E	27003	エラー
KAVF27004-E	27004	エラー
KAVF27005-E	27005	エラー

7.4 メッセージ一覧

PFM - Agent for IIS が出力するメッセージと対処方法について説明します。PFM - Agent for IIS のメッセージ一覧を次に示します。

KAVF27000-I

```
Agent Collector has started. (host=ホスト名, service=サービス ID)
Agent Collector が起動しました (host=ホスト名, service=サービス ID)
```

Agent が正常に起動しました。

(S)

なし

(O)

なし

KAVF27001-I

```
Agent Collector has stopped. (host=ホスト名, service=サービス ID)
Agent Collector が停止しました (host=ホスト名, service=サービス ID)
```

Agent が正常に停止しました。

(S)

Agent が停止しました。

(O)

ユーザーが Agent を停止するリクエストを行っていない場合、依存したサービス (Agent store, Master Manager, Master store, Name server の) いずれかが停止されていないかを確認してください。

KAVF27002-E

```
Agent Collector failed to start. (rc=リターンコード)
Agent Collector の起動に失敗しました (rc=リターンコード)
```

Agent Collector の起動に失敗しました。

(S)

Agent Collector の処理を終了します。

(O)

共通メッセージログに出力されている直前のメッセージを確認し、そのメッセージの対処方法に従ってください。

KAVF27003-E

Agent Collector stopped abnormally. (rc=リターンコード)

Agent Collector が異常停止しました (rc=リターンコード)

何らかのエラーによって、Agent Collector が停止しました。

(S)

Agent の起動に失敗しました。

(O)

1. サポートされていないプラットフォームに Agent がインストールされている可能性があります。
Agent がサポートしているプラットフォームにインストールされているか確認してください。
2. インストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下の jpcagt.ini が破損しているか、または、存在しない可能性があります。
インストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下の jpcagt.ini.model ファイルをインストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下の jpcagt.ini ファイルにコピーしてください。
3. クラスタシステムの場合、共有ディスクのディレクトリ名¥jp1pc¥agtk¥agent フォルダ配下の jpcagt.ini が破損しているか、または、存在しない可能性があります。
インストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下の jpcagt.ini.model ファイルを共有ディスクのディレクトリ名¥jp1pc¥agtk¥agent フォルダ配下の jpcagt.ini ファイルにコピーしてください。
4. Agent を再起動後、PFM-Web Console の [サービスのプロパティ] 画面で、各レコードのパフォーマンスデータの収集条件を設定し直してください。

KAVF27004-E

Initialization of Agent Configuration failed. (rc=リターンコード)

Agent Configuration の初期化に失敗しました (rc=リターンコード)

Agent Collector 起動時に初期化エラーが発生しました。

(S)

Agent の起動に失敗しました。

(O)

1. インストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下の jpcagt.ini が破損しているか、または、存在しない可能性があります。
インストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下の jpcagt.ini.model ファイルをインストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下の jpcagt.ini ファイルにコピー後、Agent を起動してください。
2. クラスタシステムの場合、共有ディスクのディレクトリ名¥jp1pc¥agtk¥agent フォルダ配下の jpcagt.ini が破損しているか、または、存在しない可能性があります。

インストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下のjpcagt.ini.model ファイルを共有ディスクのディレクトリ名¥jp1pc¥agtk¥agent フォルダ配下のjpcagt.ini ファイルにコピー後、Agent を起動してください。

3. Agent を再起動後、PFM-Web Console の [サービスのプロパティ] 画面で、各レコードのパフォーマンスデータの収集条件を設定し直してください。

KAVF27005-E

"例外名" exception raised. (Detail: 詳細情報)

"例外名" 例外が発生しました (詳細情報: 詳細情報)

データ収集時にエラーが発生しました。

(S)

Agent Collector サービスの処理を続行します。

(O)

エラーが続く場合は、Agent を再起動してください。

KAVF27300-E

An attempt to allocate memory failed. (RecordName=レコード名,Size=サイズ)

メモリーの割り当てに失敗しました (RecordName=レコード名,Size=サイズ)

指定したレコードに対してメモリーを割り当てるできません (メモリー不足)。

(S)

Agent Collector サービスの処理を続行します。

(O)

空きメモリーを増やして Agent を再起動してください。

KAVF27302-E

Data could not be collected for a record "レコード名". (rc=リターンコード)

レコード:"レコード名" のデータ収集ができませんでした (rc=リターンコード)

"レコード名"レコードのデータ収集時にエラーが発生しました。

(S)

Agent Collector サービスの処理を続行します。エラーが発生したレコードはデータ収集ができません。

(O)

以下に該当していないか確認してください。

1. Internet Information Service に障害が発生していないか。

2. レポートの監視対象の指定が正しいか。

解決しない場合は「8. [トラブルへの対処方法](#)」に従って対処してください。

KAVF27303-E

Memory allocation failure in "レコード名" record.

"レコード名" レコード内のメモリーの割り当てに失敗しました

"レコード名"レコードのメモリー割り当てが失敗しました (メモリー不足)。

(S)

Agent Collector サービスの処理を続行します。エラーが発生したレコードはデータ収集ができません。

(O)

空きメモリーを増やして Agent を再起動してください。

KAVF27304-E

No record corresponds to specified record type. (RecordType= レコードタイプ)

指定レコードタイプに対応するレコードが存在しません (RecordType= レコードタイプ)

jpcagt.ini に間違ったレコードタイプが記載されています。

(S)

Agent Collector サービスの処理を続行します。"レコードタイプ"レコードのデータ収集はされません。

(O)

1. インストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下のjpcagt.ini が破損している可能性があります。
インストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下のjpcagt.ini.model ファイルをインストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下のjpcagt.ini ファイルにコピー後、Agent を起動してください。
Agent を再起動後、PFM-Web Console の [サービスのプロパティ] 画面で、各レコードのパフォーマンスデータの収集条件を設定し直してください。
2. クラスタシステムの場合、共有ディスクのディレクトリ名¥jp1pc¥agtk¥agent フォルダ配下のjpcagt.ini が破損している可能性があります。
インストール先フォルダ¥agtk¥agent フォルダ配下のjpcagt.ini.model ファイルを共有ディスクのディレクトリ名¥jp1pc¥agtk¥agent フォルダ配下のjpcagt.ini ファイルにコピー後、Agent を起動してください。
Agent を再起動後、PFM-Web Console の [サービスのプロパティ] 画面で、各レコードのパフォーマンスデータの収集条件を設定し直してください。

KAVF27400-I

Able to add Counter.(RecordType= レコードタイプ)

カウンタの追加に成功しました (レコードタイプ= レコードタイプ)

パフォーマンスカウンタからデータ収集可能な状態になりました。

(S)

なし

(O)

なし

KAVF27401-E

Unable to add Counter.(RecordType= レコードタイプ)

カウンタの追加に失敗しました (レコードタイプ= レコードタイプ)

パフォーマンスカウンタからデータ収集不可能な状態になりました。

(S)

Agent Collector サービスの処理を続行します。"レコードタイプ"レコードのデータ収集はされません。

(O)

以下に該当していないか確認してください。

1. Internet Information Service に障害が発生していないか。
2. レポートの監視対象の指定が正しいか。

解決しない場合は「8. [トラブルへの対処方法](#)」に従って対処してください。

KAVF27402-I

Able to collect QueryData.(RecordType= レコードタイプ)

カウンタの値を更新できました (レコードタイプ= レコードタイプ)

パフォーマンスカウンタの値を取得できました。

(S)

なし

(O)

なし

KAVF27403-E

Unable to collect QueryData.(RecordType= レコードタイプ)

カウンタの値を更新できません (レコードタイプ= レコードタイプ)

パフォーマンスカウンタの値を取得できませんでした。

(S)

Agent Collector サービスの処理を続行します。"レコードタイプ"レコードのデータ収集はされません。

(O)

Internet Information Services に障害が発生していないか確認してください。

解決しない場合は「[8. トラブルへの対処方法](#)」に従って対処してください。

8

トラブルへの対処方法

この章では、Performance Management の運用中にトラブルが発生した場合の対処方法などを説明します。ここでは、主に PFM - Agent でトラブルが発生した場合の対処方法について記載しています。Performance Management システム全体のトラブルへの対処方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

8.1 対処の手順

Performance Management でトラブルが起きた場合の対処の手順を次に示します。

現象の確認

次の内容を確認してください。

- トラブルが発生したときの現象
- メッセージの内容（メッセージが出力されている場合）
- 共通メッセージログなどのログ情報

各メッセージの要因と対処方法については、「7. メッセージ」を参照してください。また、Performance Management が出力するログ情報については、「8.3 トラブルシューティング時に採取するログ情報」を参照してください。

資料の採取

トラブルの要因を調べるために資料の採取が必要です。「8.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料」および「8.5 トラブルシューティング時に採取する資料の採取方法」を参照して、必要な資料を採取してください。

問題の調査

採取した資料を基に問題の要因を調査し、問題が発生している部分、または問題の範囲を切り分けてください。

8.2 トラブルシューティング

ここでは、Performance Management 使用時のトラブルシューティングについて記述します。Performance Management を使用しているときにトラブルが発生した場合、まず、この節で説明している現象が発生していないか確認してください。

8.2.1 PFM - Agent を起動してもパフォーマンスデータが収集されない

レコードのパフォーマンスデータが収集されなかった場合は、IIS のバージョンごとのレコード収集可否表で収集可否を確認してください。

- IIS7.5 の場合は、IIS7.5 環境のレコード収集可否表
- IIS8.0 の場合は、IIS8.0 環境のレコード収集可否表
- IIS8.5 の場合は、IIS8.5 環境のレコード収集可否表

収集可能な場合は、次の方法で対処を行ってください。

- レコード PI_ANAF, PI_CONN, PI_FLTR, PI_TRAL のパフォーマンスデータが収集されない場合
FTP サービスがインストールされているか確認してください。
FTP サービスがインストールされていない場合は、FTP サービスのインストールを次に従いインストールを実施してください。

Windows Server 2008 R2 の場合

[サーバーマネージャー] - [役割] - [Web サーバー(IIS)] の [役割サービスの追加] から [役割サービスの選択] 画面で、[FTP サービス] を選択し、インストールを実施してください。

[FTP サービス] 選択時に、[役割サービスの追加] 画面が表示された場合は、[必要な役割サービスを追加] をクリックしてください。

Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2 の場合

[サーバーマネージャー] の [役割の追加] から [サーバーの役割の選択] 画面で、[Web サーバー(IIS)] を展開してください。

[FTP サーバー] を選択し、インストールを実施してください。

FTP サービスがインストールされている場合は、[\[8.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料\]](#) を参照して、トラブルの要因を調べるための資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

- レコード PI_ASPT のパフォーマンスデータが収集されない場合
ASP がインストールされているか確認してください。
ASP がインストールされていない場合は、ASP のインストールを次に従いインストールを実施してください。

Windows Server 2008 R2 の場合

[サーバーマネージャー] - [役割] - [Web サーバー(IIS)] の [役割サービスの追加] から [役割サービスの選択] 画面で、[ASP] を選択し、インストールを実施してください。

[ASP] 選択時に、[役割サービスの追加] 画面が表示された場合は、[必要な役割サービスを追加] をクリックしてください。

Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2 の場合

[サーバーマネージャー] の [役割の追加] から [サーバーの役割の選択] 画面で、[Web サーバー (IIS)] を展開 - [Web サーバー] を展開 - [アプリケーション開発] を展開してください。

[ASP] を選択し、インストールを実施してください。

[ASP] 選択時に、[役割と機能の追加ウィザード] 画面が表示された場合は、[機能の追加] をクリックしてください。

ASP がインストールされている場合は、[\[8.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料\]](#) を参照して、トラブルの要因を調べるための資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

- レコード PI_APNT のパフォーマンスデータが収集されない場合

ASP.NET がインストールされているか確認してください。

ASP.NET がインストールされていない場合は、ASP.NET のインストールを次に従いインストールを実施してください。

Windows Server 2008 R2 の場合

[サーバーマネージャー] - [役割] - [Web サーバー(IIS)] の [役割サービスの追加] から [役割サービスの選択] 画面で、[ASP.NET] を選択し、インストールを実施してください。

[ASP.NET] 選択時に、[役割サービスの追加] 画面が表示された場合は、[必要な役割サービスを追加] をクリックしてください。

必要に応じて [.NET Framework 3.5.1 の機能] をインストールしてください。

[.NET Framework 3.5.1 の機能] のインストールは、[サーバーマネージャー] - [機能] の [機能の追加] から [機能の選択] 画面で、[.NET Framework 3.5.1 の機能] を選択し、インストールを実施してください。

[.NET Framework 3.5.1 の機能] 選択時に、[機能の追加ウィザード] 画面が表示された場合は、[必要な役割サービスを追加] をクリックしてください。

Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2 の場合

[サーバーマネージャー] の [役割の追加] から [サーバーの役割の選択] 画面で、[Web サーバー (IIS)] を展開 - [Web サーバー] を展開 - [アプリケーション開発] を展開してください。

[ASP.NET 3.5] 及び [ASP.NET 4.5] を選択し、インストールを実施してください。[ASP.NET 3.5] 及び [ASP.NET 4.5] 選択時に、[役割と機能の追加ウィザード] 画面が表示された場合は、[機能の追加] をクリックしてください。

ASP.NET がインストールされている場合は、[\[8.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料\]](#) を参照して、トラブルの要因を調べるための資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

- レコード PD, PI_BT, PI_FLTR, PI_TRAL, PI_WS のパフォーマンスデータが収集されない場合
SMTP サービスがインストールされているか確認してください。

SMTP サービスがインストールされていない場合は、SMTP サービスのインストールを次に従いインストールを実施してください。

Windows Server 2008 R2 の場合

[サーバーマネージャー] - [機能] の [機能の追加] から [機能の選択] 画面で、[SMTP サーバー] を選択し、インストールを実施してください。

[SMTP サーバー] 選択時に、[機能の追加ウィザード] 画面が表示された場合は、[必要な役割サービスを追加] をクリックしてください。

[スタート] - [管理ツール] - [サービス] から [簡易メール転送プロトコル(SMTP)] サービスの状態が [開始] であることを確認してください。

[開始] でない場合は、[簡易メール転送プロトコル(SMTP)] の [プロパティ] から [開始] をクリックしてください。状態が [開始] になったことを確認してください。

Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2 の場合

[サーバーマネージャー] の [役割の追加] から [機能の選択] 画面で、[SMTP サーバー] を選択し、インストールを実施してください。

[SMTP サーバー] 選択時に、[役割と機能の追加ウィザード] 画面が表示された場合は、[機能の追加] をクリックしてください。

[スタート] - [管理ツール] - [サービス] から [簡易メール転送プロトコル(SMTP)] サービスの状態が [実行中] であることを確認してください。

[実行中] でない場合は、[簡易メール転送プロトコル(SMTP)] の [プロパティ] から [開始] をクリックしてください。状態が [実行中] になったことを確認してください。

SMTP サービスがインストールされている場合は、[\[8.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料\]](#) を参照して、トラブルの要因を調べるための資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

インストールを実施された場合やサービスを開始された場合は、PFM - Agent for IIS のサービスを再起動してください。

8.2.2 その他のトラブルに関するトラブルシューティング

トラブルが発生したときの現象を確認してください。メッセージが出力されている場合は、メッセージの内容を確認してください。また、Performance Management が出力するログ情報については、[\[8.3 トラブルシューティング時に採取するログ情報\]](#) を参照してください。

[\[8.2.1 PFM - Agent を起動してもパフォーマンスデータが収集されない\]](#)、およびマニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章に示した対処をしても、トラブルが解決できなかった場合、または、これら以外のトラブルが発生した場合、トラブルの要因を調査するための資料を採取し、システム管理者に連絡してください。

採取が必要な資料および採取方法については、[\[8.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料\]](#) と [\[8.5 トラブルシューティング時に採取する資料の採取方法\]](#) を参照してください。

8.3 トラブルシューティング時に採取するログ情報

Performance Management でトラブルが発生した場合、ログ情報を確認して対処方法を検討します。Performance Management を運用しているときに出力されるログ情報には、次の4種類があります。

- システムログ
- 共通メッセージログ
- 稼働状況ログ
- トレースログ

ここでは、4種類のログ情報、および各ログ情報に設定できるログオプションについて説明します。

8.3.1 トラブルシューティング時に採取するログ情報の種類

(1) システムログ

システムログとは、システムの状態やトラブルを通知するログ情報のことです。このログ情報はイベントログファイルに出力されます。

出力形式については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、ログ情報について説明している章を参照してください。

論理ホスト運用の場合の注意事項

Performance Management のシステムログのほかに、クラスタソフトによる Performance Management の制御などを確認するためにクラスタソフトのログが必要です。

(2) 共通メッセージログ

共通メッセージログとは、システムの状態やトラブルを通知するログ情報のことです。システムログよりも詳しいログ情報が出力されます。共通メッセージログの出力先ファイル名やファイルサイズについては、「8.3.2 トラブルシューティング時に参照するログファイルおよびフォルダ一覧」を参照してください。また、出力形式については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、ログ情報について説明している章を参照してください。

論理ホスト運用の場合の注意事項

論理ホスト運用の Performance Management の場合、共通メッセージログは共有ディスクに出力されます。共有ディスク上にあるログファイルは、フェールオーバーするときにシステムとともに引き継がれますので、メッセージは同じログファイルに記録されます。

(3) 稼働状況ログ

稼働状況ログとは、PFM - Web Console が出力するログ情報のことです。稼働状況ログの出力先ファイル名やファイルサイズについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。また、出力形式については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、ログ情報について説明している章を参照してください。

(4) トレースログ

トレースログとは、トラブルが発生した場合に、トラブル発生の経緯を調査したり、各処理の処理時間を測定したりするために採取するログ情報のことです。

トレースログは、Performance Management のプログラムの各サービスが持つログファイルに出力されます。

論理ホスト運用の場合の注意事項

論理ホスト運用の Performance Management の場合、トレースログは共有ディスクに出力されます。共有ディスク上にあるログファイルは、フェールオーバーするときにシステムとともに引き継がれますので、メッセージは同じログファイルに記録されます。

8.3.2 トラブルシューティング時に参照するログファイルおよびフォルダ一覧

ここでは、Performance Management から出力されるログ情報について説明します。稼働状況ログの出力先ファイル名やファイルサイズについては、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

(1) 共通メッセージログ

ここでは、Performance Management のログ情報のうち、共通メッセージログについて、ログの出力元であるサービス名または制御名、ログファイル名、およびディスク使用量を、次の表に示します。

表 8-1 共通メッセージログのファイル名 (Windows の場合)

ログ情報の種類	出力元	ファイル名	ディスク使用量 ^{※1} (キロバイト)
共通メッセージログ	Performance Management	インストール先フォルダ¥log¥jpc log{01 02} ^{※2}	2,048 (*2)
		インストール先フォルダ¥log¥jpc logw{01 02} ^{※2}	2,048 (*2)

ログ情報の種類	出力元	ファイル名	ディスク使用量 ^{※1} (キロバイト)
共通メッセージログ (論理ホスト運用の場合)	論理ホスト運用の Performance Management	環境ディレクトリ ^{※3} ¥jpc¥log ¥jpclog{01 02} ^{※2}	2,048 (*2)
		環境ディレクトリ ^{※3} ¥jpc¥log ¥jpclogw{01 02} ^{※2}	2,048 (*2)

注※1

() 内の数字は、1つのサービスに対して作成されるログファイルの数を示します。例えば、「2,048 (*2)」の場合、ディスク使用量が2,048キロバイトのログファイルが最大で2つ作成されることを示します。この場合、ディスク使用量は合計で4,096キロバイトとなります。

注※2

共通メッセージログのログファイル名には、末尾に「01」または「02」が付加されます。

シーケンシャルファイル (jpclog) 方式の場合

ログ情報は、まず、末尾が「01」のログファイルに出力されます。ログファイルのサイズが上限に達すると、ログファイル名の末尾が「01」から「02」に変更され、ファイル名の末尾が「01」のログファイルが新規作成されます。その後出力されるログ情報は、末尾が「01」のログファイルに出力されます。すでにファイル名の末尾が「02」のログファイルがある場合は、上書きされます。最新のログは常にファイル名の末尾が「01」のログファイルに出力されます。

ラップアラウンドファイル (jpclogw) 方式の場合

ログ情報は、まず、末尾が「01」のログファイルに出力されます。ログファイルのサイズが上限に達すると、ファイル名の末尾が「02」のログファイルが新規作成されます。その後出力されるログ情報は、末尾が「02」のログファイルに出力されます。すでにファイル名の末尾が「02」のログファイルがある場合は、一度データをすべて削除し、先頭行からログが出力されます。そのあとログの出力ファイルが交互に入れ替わります。

ログファイルの出力方式については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

注※3

環境ディレクトリは、論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のディレクトリです。

(2) トレースログ

ここでは、Performance Management のログ情報のうち、PFM - Agent のトレースログの出力元であるサービス名または制御名、および格納先フォルダ名を、次の表に示します。

表 8-2 トレースログの格納先フォルダ名 (Windows の場合)

ログ情報の種類	出力元	フォルダ名
トレースログ	Action Handler サービス	インストール先フォルダ¥bin¥action¥log¥

ログ情報の種類	出力元	フォルダ名
トレースログ	Performance Management コマンド	インストール先フォルダ¥tools¥log¥
	Agent Collector サービス	インストール先フォルダ¥agtk¥agent¥log¥
	Agent Store サービス	インストール先フォルダ¥agtk¥store¥log¥
トレースログ（論理ホスト運用の場合）	Action Handler サービス	環境ディレクトリ※¥jp1pc¥bin¥action¥log¥
	Performance Management コマンド	環境ディレクトリ※¥jp1pc¥tools¥log¥
	Agent Collector サービス	環境ディレクトリ※¥jp1pc¥agtk¥agent¥log¥
	Agent Store サービス	環境ディレクトリ※¥jp1pc¥agtk¥store¥log¥

注※

環境ディレクトリは、論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のディレクトリです。

8.4 トラブルシューティング時に採取が必要な資料

「8.2 トラブルシューティング」に示した対処をしてもトラブルを解決できなかった場合、トラブルの要因を調べるための資料を採取し、システム管理者に連絡する必要があります。この節では、トラブル発生時に採取が必要な資料について説明します。

Performance Management では、採取が必要な資料を一括採取するためのコマンドを用意しています。PFM - Agent の資料を採取するには、jpcras コマンドを使用します。jpcras コマンドを使用して採取できる資料については、表中に記号で示しています。

注意

jpcras コマンドで採取できる資料は、コマンド実行時に指定するオプションによって異なります。コマンドに指定するオプションと採取できる資料については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

論理ホスト運用の場合の注意事項

論理ホスト運用の場合の注意事項を次に示します。

- 論理ホスト運用する場合の Performance Management のログは、共有ディスクに格納されます。なお、共有ディスクがオンラインになっている場合は、jpcras コマンドで共有ディスク上のログも一括して採取できます。
- フェールオーバー時の問題を調査するには、フェールオーバーの前後の資料が必要です。このため、実行系と待機系の両方の資料が必要になります。
- 論理ホスト運用の Performance Management の調査には、クラスタソフトの資料が必要です。論理ホスト運用の Performance Management は、クラスタソフトから起動や停止を制御されているので、クラスタソフトの動きと Performance Management の動きを対比して調査するためです。

8.4.1 トラブルシューティング時に採取する OS のログ情報

OS に関する次のログ情報の採取が必要です。OS のログ情報を次の表に示します。

表 8-3 OS のログ情報

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
システムログ	Windows イベントログ	—	×
プロセス情報	プロセスの一覧	—	○
システムファイル	hosts ファイル	システムフォルダ\system32\drivers\etc\hosts	○
	services ファイル	システムフォルダ\system32\drivers\etc\services	○
OS 情報	システム情報	—	○

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
OS 情報	ネットワークステータス	—	○
	ホスト名	—	○
	Windows ファイアウォールの情報	—	○
ダンプ情報	問題のレポートと解決策のログファイル	ユーザーモードプロセスダンプの出力先フォルダ¥プログラム名. プロセス ID. dmp 例：jpcagtk.exe.2420.dmp	×

(凡例)

- ：採取できる
- ×：採取できない
- ：該当しない

8.4.2 トラブルシューティング時に採取する Performance Management の情報

Performance Management に関する次の情報の採取が必要です。また、ネットワーク接続でのトラブルの場合、接続先マシン上のファイルの採取も必要です。Performance Management の情報を次の表に示します。

表 8-4 Performance Management の情報

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名 またはレジストリ	jpcras コマンドでの採取
共通メッセージログ	Performance Management から出力されるメッセージログ (シーケンシャルファイル方式)	インストール先フォルダ¥log¥jpclog{01 02}※1	○
	Performance Management から出力されるメッセージログ (ラップアラウンドファイル方式)	インストール先フォルダ¥log¥jpclogw{01 02}※1	○
構成情報	各構成情報ファイル	—	○
	jpctool service list コマンドの出力結果	—	○

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名 またはレジストリ	jpcras コマンド での採取
バージョン情報	製品バージョン	—	○
	履歴情報	—	○
データベース情報	Agent Store	<ul style="list-style-type: none"> Store バージョン 1.0 の場合 インストール先フォルダ¥agtk¥store¥*.DB インストール先フォルダ¥agtk¥store¥*.IDX Store バージョン 2.0 の場合 インストール先フォルダ¥agtk¥store¥STPD インストール先フォルダ¥agtk¥store¥STPI フォルダ 下の次に示すファイル。 *.DB *.IDX 	○
トレースログ	Performance Management のプログラムの各サービスのトレース情報	—※2	○
インストールログ※3	インストール時のメッセージログ	システムフォルダ¥TEMP¥HCDINST¥*.LOG	×

(凡例)

- ：採取できる
- ×
- ：該当しない

注※1

ログファイルの出力方式については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

注※2

トレースログの格納先フォルダについては、「[8.3.2](#) [トラブルシューティング時に参照するログファイルおよびフォルダ一覧](#)」を参照してください。

注※3

インストールに失敗した場合に採取してください。

8.4.3 トラブルシューティング時に採取するオペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について、次に示す情報が必要です。

- オペレーション内容の詳細
- トラブル発生時刻

- マシン構成 (各 OS のバージョン, ホスト名, PFM - Manager と PFM - Agent の構成など)
- 再現性の有無
- PFM - Web Console からログインしている場合は, ログイン時の Performance Management ユーザー名
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は, コマンドに指定した引数

8.4.4 トラブルシューティング時に採取する画面上のエラー情報

次に示すハードコピーを採取してください。

- アプリケーションエラーが発生した場合は, 操作画面のハードコピー
- エラーメッセージダイアログボックスのハードコピー (詳細ボタンがある場合はその内容を含む)
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は, [コマンドプロンプト] ウィンドウまたは [管理者コンソール] ウィンドウのハードコピー

8.4.5 トラブルシューティング時に採取するその他の情報

その他の必要な情報を次に示します。

- Windows の [イベントビューア] ウィンドウの, [システムログ] および [アプリケーションログ] の内容
- [アクセサリ] - [システムツール] - [システム情報] の内容

8.5 トラブルシューティング時に採取する資料の採取方法

トラブルが発生したときに資料を採取する方法を次に示します。

8.5.1 トラブルシューティング時のダンプ情報の採取方法

ダンプ情報の採取手順を次に示します。

1. タスクマネージャを開く。
2. プロセスのタブを選択する。
3. ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、「ダンプ ファイルの作成」を選択する。
次のフォルダに、ダンプファイルが格納されます。

```
システムドライブ¥Users¥ユーザー名¥AppData¥Local¥Temp
```

4. 手順 3 のフォルダからダンプファイルを採取する。
手順 3 と異なるフォルダにダンプファイルが出力されるように環境変数の設定を変更している場合は、変更先のフォルダからダンプファイルを採取してください。

8.5.2 資料採取コマンドの実行によるトラブルシューティング資料の採取方法

トラブルの要因を調べるための資料の採取には、jpcras コマンドを使用します。資料採取コマンドの実行手順を次に示します。なお、ここで説明する操作は、OS ユーザーとして Administrators 権限を持つユーザーが実行してください。

1. 資料採取するサービスがインストールされているホストにログインする。
2. コマンドプロンプトで次に示すコマンドを実行して、コマンドインタプリタの「コマンド拡張機能」を有効にする。

```
cmd /E:ON
```

3. 採取する資料および資料の格納先フォルダを指定して、jpcras コマンドを実行する。
jpcras コマンドで、採取できるすべての情報をc:¥tmp¥jpc¥agt フォルダに格納する場合の、コマンドの指定例を次に示します。

```
jpcras c:¥tmp¥jpc¥agt all all
```

jpcras コマンドを実行すると、PFM サービスの一覧取得および起動状態の確認のため、内部的に「jpctool service list -id * -host *」コマンドが実行されます。コマンド実行ホストとほかの Performance

Management システムのホストとの間にファイアウォールが設定されていたり、システム構成が大規模だったりすると、「jpctool service list -id * -host *」コマンドの実行に時間が掛かる場合があります。そのような場合は、環境変数 JPC_COLCTRLNOHOST に 1 を設定することで「jpctool service list -id * -host *」コマンドの処理を抑止し、コマンドの実行時間を短縮できます。

jpccras コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能 (UAC) を有効にしている場合は、コマンド実行時にユーザーアカウント制御のダイアログが表示される場合があります。ダイアログが表示された場合は、[続行] ボタンをクリックして資料採取を続行してください。[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、資料採取が中止されます。

8.5.3 資料採取コマンドの実行によるトラブルシューティング資料の採取方法 (論理ホスト運用の場合)

論理ホスト運用の Performance Management の資料は共有ディスクにあり、資料は実行系と待機系の両方で採取する必要があります。

トラブルの要因を調べるための資料の採取には、jpccras コマンドを使用します。資料採取コマンドの実行手順を次に示します。なお、ここで説明する操作は、OS ユーザーとして Administrators 権限を持つユーザーが実行してください。

論理ホスト運用の場合の資料採取コマンドの実行について、手順を説明します。

1. 共有ディスクをオンラインにする。

論理ホストの資料は共有ディスクに格納されています。実行系ノードでは、共有ディスクがオンラインになっていることを確認して資料を採取してください。

2. 実行系と待機系の両方で、採取する資料および資料の格納先フォルダを指定して、jpccras コマンドを実行する。

jpccras コマンドで、採取できるすべての情報を c:%tmp%jpc%agt フォルダに格納する場合の、コマンドの指定例を次に示します。

```
jpccras c:%tmp%jpc%agt all all
```

jpccras コマンドを lhost の引数を指定しないで実行すると、そのノードの物理ホストと論理ホストの Performance Management の資料が一とおり採取されます。論理ホスト環境の Performance Management がある場合は、共有ディスク上のログファイルが取得されます。

なお、共有ディスクがオフラインになっているノードでjpcras コマンドを実行すると、共有ディスク上のファイルを取得できませんが、エラーは発生しないで正常終了します。

注意

実行系ノードと待機系ノードの両方で、資料採取コマンドを実行して資料採取をしてください。フェールオーバーの前後の調査をするには、実行系と待機系の両方の資料が必要です。

jpcras コマンドについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、コマンドについて説明している章を参照してください。

3. クラスタソフトの資料を採取する。

この資料は、クラスタソフトと Performance Management のどちらでトラブルが発生しているのかを調査するために必要になります。クラスタソフトから Performance Management への起動停止などの制御要求と結果を調査できる資料を採取してください。

8.5.4 トラブルシューティング時の Windows イベントログ資料の採取方法

Windows の [イベントビューア] ウィンドウの、[システム] および [アプリケーション] の内容を採取してください。

8.5.5 トラブルシューティング時に確認するオペレーション内容の採取方法

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し、記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

- オペレーション内容の詳細
- トラブル発生時刻
- マシン構成 (各 OS のバージョン、ホスト名、PFM - Manager と PFM - Agent の構成など)
- 再現性の有無
- PFM - Web Console からログインしている場合は、ログイン時の Performance Management ユーザー名
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、コマンドに指定した引数

8.5.6 トラブルシューティング時の画面上のエラー情報の採取方法

次に示すハードコピーを採取してください。

- アプリケーションエラーが発生した場合は、操作画面のハードコピー
- エラーメッセージダイアログボックスのハードコピー

詳細情報がある場合はその内容をコピーしてください。

- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は、[コマンドプロンプト] ウィンドウまたは [管理者コンソール] ウィンドウのハードコピー

[コマンドプロンプト] ウィンドウのハードコピーを採取する際は、["コマンドプロンプト"のプロパティ] ウィンドウについて次のように設定しておいてください。

- [オプション] タブの [編集オプション]
[簡易編集モード] がチェックされた状態にする。
- [レイアウト] タブ
[画面バッファのサイズ] の [高さ] に「500」を設定する。

8.5.7 トラブルシューティング時に採取するその他の資料の採取方法

その他の必要な情報を採取してください。

- [アクセサリ] – [システムツール] – [システム情報] によって、資料を採取できます。

8.6 Performance Management の障害検知

Performance Management では、ヘルスチェック機能を利用することで Performance Management 自身の障害を検知できます。ヘルスチェック機能では、監視エージェントや監視エージェントが稼働するホストの稼働状態を監視し、監視結果を監視エージェントの稼働状態の変化として PFM - Web Console 上に表示します。

また、PFM サービス自動再起動機能を利用することで、PFM サービスが何らかの原因で異常停止した場合に自動的に PFM サービスを再起動したり、定期的に PFM サービスを再起動したりできます。

ヘルスチェック機能によって監視エージェントの稼働状態を監視したり、PFM サービス自動再起動機能によって PFM サービスを自動再起動したりするには、Performance Management のサービスの詳細な状態を確認するステータス管理機能を使用します。このため、対象となる監視エージェントがステータス管理機能に対応したバージョンであり、ステータス管理機能が有効になっている必要があります。ホストの稼働状態を監視する場合は前提となる条件はありません。

また、Performance Management のログファイルをシステム統合監視製品である JP1/Base で監視することによっても、Performance Management 自身の障害を検知できます。これによって、システム管理者は、トラブルが発生したときに障害を検知し、要因を特定して復旧の対処をします。

Performance Management 自身の障害検知の詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

8.7 Performance Management システムの障害回復

Performance Management のサーバで障害が発生したときに、バックアップファイルを基にして、障害が発生する前の正常な状態に回復する必要があります。

障害が発生する前の状態に回復する手順については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

付録

付録 A 構築前のシステム見積もり

PFM - Agent for IIS を使ったシステムを構築する前に、使用するマシンの性能が、PFM - Agent for IIS を運用するのに十分であるか、見積もっておくことをお勧めします。

付録 A.1 メモリー所要量

メモリー所要量は、PFM - Agent for IIS の設定状況や使用状況によって変化します。メモリー所要量の見積もり式については、リリースノートを参照してください。

付録 A.2 ディスク占有量

ディスク占有量は、パフォーマンスデータを収集するレコード数によって変化します。ディスク占有量の見積もりには、システム全体のディスク占有量、Store データベース (Store バージョン 1.0) のディスク占有量、または Store データベース (Store バージョン 2.0) の見積もりが必要になります。これらの見積もり式については、リリースノートを参照してください。

付録 A.3 クラスタ運用時のディスク占有量

クラスタ運用時のディスク占有量の検証は、クラスタシステムで運用しない場合のディスク占有量と同じです。ディスク占有量については、リリースノートを参照してください。

付録 B 識別子一覧

PFM - Agent for IIS を操作したり、PFM - Agent for IIS の Store データベースからパフォーマンスデータを抽出したりする際、PFM - Agent for IIS であることを示す識別子が必要な場合があります。PFM - Agent for IIS の識別子を次の表に示します。

表 B-1 PFM - Agent for IIS の識別子一覧

用途	名称	識別子	説明
コマンドなど	プロダクト ID	K	プロダクト ID とは、サービス ID の一部。サービス ID は、コマンドを使用して Performance Management のシステム構成を確認する場合や、パフォーマンスデータをバックアップする場合などに必要である。サービス ID については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、付録に記載されている命名規則を参照のこと。
	サービスキー	agtk	コマンドを使用して PFM - Agent for IIS を起動する場合や、終了する場合などに必要である。サービスキーについては、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、付録に記載されている命名規則を参照のこと。
ヘルプ	ヘルプ ID	pcak	PFM - Agent for IIS のヘルプであることを表す。

付録 C プロセス一覧

ここでは、PFM - Agent for IIS のプロセス一覧を記載します。

PFM - Manager , PFM - Base, および PFM - Web Console のプロセスについては、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の付録に記載されているプロセス一覧を参照してください。

PFM - Agent for IIS のプロセス一覧を次の表に示します。なお、プロセス名の後ろに記載されている値は、同時に起動できるプロセス数です。

表 C-1 PFM - Agent for IIS のプロセス一覧

プロセス名 (プロセス数)	機能
jpcagtk.exe(1)	IIS Agent Collector サービスプロセス。このプロセスは、PFM - Agent for IIS ごとに 1 つ起動する。
jpcsto.exe(1)	Agent Store サービスプロセス。このプロセスは、PFM - Agent for IIS ごとに 1 つ起動する。
jpcKCollect.exe(1) ^{※1}	パフォーマンスデータ収集プロセス。
stpqlpr.exe(1) ^{※2}	Store データベースのバックアップ/エクスポート実行プロセス。

注※1

jpcagtk プロセスの子プロセスです。

注※2

jpcsto プロセスの子プロセスです。

付録 D ポート番号一覧

ここでは、Performance Management で使用するポート番号を記載します。

PFM - Manager, および PFM - Base のポート番号およびファイアウォールの通過方向については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の付録を参照してください。

ポート番号は、ユーザー環境に合わせて任意の番号に変更することもできます。

ポート番号の変更方法については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。なお、使用するプロトコルは TCP/IP です。

注意

Performance Management は、1 対 1 のアドレス変換をする静的 NAT (Basic NAT) に対応しています。

動的 NAT や、ポート変換機能を含む NAT (IP Masquerade, NAT+) には対応していません。

付録 D.1 Performance Management のポート番号

Performance Management で使用するポート番号を次の表に示します。

表 D-1 Performance Management で使用するポート番号

ポート番号	サービス名	パラメーター	用途
20279 [※]	Agent Store サービス	jp1pcstok	パフォーマンスデータを記録したり、履歴レポートを取得したりするときに使用する。
20280 [※]	Agent Collector サービス	jp1pcagtk	アラームをバインドしたり、リアルタイムレポートを取得したりするときに使用する。

注※

jpccconf port define コマンド実行時にポート番号を任意の番号に変更しない場合、これらのポート番号が割り当てられます。また、jpccconf port define コマンドを実行しない場合、サービスが再起動されるたびにシステムで使用されていないポート番号が自動的に割り当てられます。

付録 D.2 ファイアウォールの通過方向

ファイアウォールを挟んで PFM - Manager と PFM - Agent for IIS を配置する場合は、PFM - Manager と PFM - Agent のすべてのサービスにポート番号を固定値で設定してください。また、各ポート番号を次の表に示す方向で設定し、ファイアウォールを通過させるようにしてください。詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の、ファイアウォールの通過方向について説明している箇所を参照してください。

付録 E PFM - Agent for IIS のプロパティ

ここでは、PFM - Web Console で表示される PFM - Agent for IIS の Agent Store サービスのプロパティ一覧、および Agent Collector サービスのプロパティ一覧を記載します。

付録 E.1 Agent Store サービスのプロパティ一覧

PFM - Agent for IIS の Agent Store サービスのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 E-1 PFM - Agent for IIS の Agent Store サービスのプロパティ一覧

フォルダ名	プロパティ名	説明
—	First Registration Date [※]	サービスが PFM - Manager に認識された最初の日時が表示される。
	Last Registration Date [※]	サービスが PFM - Manager に認識された最新の日時が表示される。
General	—	ホスト名やインストール先フォルダなどの情報が格納される。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	Directory	サービスの動作するカレントフォルダ名が表示される。
	Host Name	サービスが動作する物理ホスト名が表示される。
	Process ID	サービスのプロセス ID が表示される。
	Physical Address	サービスが動作するホストの IP アドレスおよびポート番号が表示される。
	User Name	サービスプロセスを実行したユーザー名が表示される。
	Time Zone	サービスで使用されるタイムゾーンが表示される。
System	—	サービスが起動されている OS の、OS 情報が格納される。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	CPU Type	CPU の種類が表示される。
	Hardware ID	ハードウェア ID が表示される。
	OS Type	OS の種類が表示される。
	OS Name	OS 名が表示される。
	OS Version	OS のバージョンが表示される。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Network Services		-	Performance Management 通信共通ライブラリについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Build Date	Agent Store サービスの作成日が表示される。
		INI File	jpcns.ini ファイルの格納フォルダ名が表示される。
Network Services	Service	-	サービスについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Description	ホスト名やサービス種別などサービスの追加情報が表示される。
		Local Service Name	サービス ID が表示される。
		Remote Service Name	接続先 PFM - Manager ホストの Master Manager のサービス ID が表示される。
		EP Service Name	接続先 PFM - Manager ホストの Correlator のサービス ID が表示される。
Retention		-	データの保存期間を設定する。このフォルダに格納されているプロパティは Store バージョンが「1.0」のときのみ変更できる。詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。
		Product Interval - Minute Drawer	分ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> • Minute • Hour • Day • 2 Days • 3 Days • 4 Days • 5 Days • 6 Days • Week • Month • Year
		Product Interval - Hour Drawer	時間ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 <ul style="list-style-type: none"> • Hour • Day • 2 Days • 3 Days • 4 Days

フォルダ名	プロパティ名	説明
Retention	Product Interval - Hour Drawer	<ul style="list-style-type: none"> • 5 Days • 6 Days • Week • Month • Year
	Product Interval - Day Drawer	<p>日ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Day • 2 Days • 3 Days • 4 Days • 5 Days • 6 Days • Week • Month • Year
	Product Interval - Week Drawer	<p>週ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Week • Month • Year
	Product Interval - Month Drawer	<p>月ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Month • Year
	Product Interval - Year Drawer	<p>年ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間。Year で固定。</p>
	Product Detail - PD レコードタイプのレコード ID	<p>各 PD レコードの保存レコード数を設定する。0～2,147,483,647 の整数が指定できる。</p> <p>注意：範囲外の数値，またはアルファベットなどの文字を指定した場合，エラーメッセージが表示される。</p>
RetentionEx	—	<p>レコードのデータの保存期間を設定する。1 度以上 Store バージョン「2.0」で運用した場合に表示される。詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。</p>
RetentionEx	Product Interval - PI レコードタ	<p>PI レコードのデータの保存期間を設定する。各レコードごとにフォルダが表示される。このフォルダに格納されているプロパティは Store バージョンが「2.0」のときのみ変更できる。詳細については，マ</p>

フォルダ名	プロパティ名	説明
RetentionEx	イプのレコード ID	—
	Period - Minute Drawer(Day)	分ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間(単位: 日)を設定する。0~366 の整数が指定できる。 注意: PFM - Web Console 08-10 以降を使用している場合、範囲外の数値、またはアルファベットなどの文字を指定するとエラーメッセージが表示される。
	Period - Hour Drawer(Day)	時間ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間(単位: 日)を設定する。0~366 の整数が指定できる。 注意: PFM - Web Console 08-10 以降を使用している場合、範囲外の数値、またはアルファベットなどの文字を指定するとエラーメッセージが表示される。
	Period - Day Drawer(Week)	日ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間(単位: 週)を設定する。0~522 の整数が指定できる。 注意: PFM - Web Console 08-10 以降を使用している場合、範囲外の数値、またはアルファベットなどの文字を指定するとエラーメッセージが表示される。
	Period - Week Drawer(Week)	週ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間(単位: 週)を設定する。0~522 の整数が指定できる。 注意: PFM - Web Console 08-10 以降を使用している場合、範囲外の数値、またはアルファベットなどの文字を指定するとエラーメッセージが表示される。
	Period - Month Drawer(Month)	月ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間(単位: 月)を設定する。0~120 の整数が指定できる。 注意: PFM - Web Console 08-10 以降を使用している場合、範囲外の数値、またはアルファベットなどの文字を指定するとエラーメッセージが表示される。
	Period - Year Drawer(Year)	年ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間(単位: 年)。10 で固定。
Product Detail - PD レコードタイプ	—	PD レコードのデータの保存期間を設定する。各レコードごとにフォルダが表示される。このフォルダに格納されているプロパティは Store バージョンが「2.0」のときのみ変更できる。詳細については、マ

フォルダ名		プロパティ名	説明
RetentionEx	プのレコード ID	—	マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。
		Period(Day)	PD レコードタイプのレコードの保存期間(単位：日)を設定する。0~366 の整数が指定できる。 注意：PFM - Web Console 08-10 以降を使用している場合、範囲外の数値、またはアルファベットなどの文字を指定するとエラーメッセージが表示される。
	Product Log - PL レコードタイプのレコード ID	Period (Day)	PL レコードタイプのレコード ID ごとに、パフォーマンスデータの保存期間を設定する。 保存期間（日数）を 0~366 の整数で指定できる。
Disk Usage	—	—	各データベースで使用されているディスク容量が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティには、プロパティを表示した時点でのディスク使用量が表示される。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	Product Interval	—	PI レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。
	Product Detail	—	PD レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。
	Product Alarm	—	PA レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。 PFM - Agent for IIS では使用しない。
	Product Log	—	PL レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。 PFM - Agent for IIS では使用しない。
	Total Disk Usage	—	データベース全体で使用されるディスク容量が表示される。
Configuration	—	—	Store バージョンの値が格納される。1 度以上 Store バージョン「2.0」で運用した場合に表示される。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。詳細については、マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の、稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。
	Store Version	—	Store データベースのバージョンが表示される。 <ul style="list-style-type: none"> • Store バージョン 1.0 の場合「1.0」 • Store バージョン 2.0 の場合「2.0」

フォルダ名	プロパティ名	説明
Multiple Manager Configuration	Primary Manager	監視二重化の場合、プライマリーに設定しているマネージャーのホスト名が表示される。このプロパティは変更できない。
	Secondary Manager	監視二重化の場合、セカンダリーに設定しているマネージャーのホスト名が表示される。このプロパティは変更できない。

(凡例)

－：該当しない

注※

PFM - Web Console の画面の [エージェント階層] の [プロパティの表示] から表示した場合、First Registration Date プロパティおよび Last Registration Date プロパティは表示されません。これらのプロパティ値を参照したい場合は、PFM - Web Console の画面の [サービス階層] から [プロパティ] を表示してください。

付録 E.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧

PFM - Agent for IIS の Agent Collector サービスのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 E-2 PFM - Agent for IIS の Agent Collector サービスのプロパティ一覧

フォルダ名	プロパティ名	説明
-	First Registration Date ^{*1}	サービスが PFM - Manager に認識された最初の日時が表示される。
	Last Registration Date ^{*1}	サービスが PFM - Manager に認識された最新の日時が表示される。
	Data Model Version	データモデルのバージョンが表示される。
General	－	ホスト名やフォルダなどの情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	Directory	サービスの動作するカレントフォルダ名が表示される。
	Host Name	サービスが動作する物理ホスト名が表示される。
	Process ID	サービスのプロセス ID が表示される。
	Physical Address	サービスが動作するホストの IP アドレスおよびポート番号が表示される。
	User Name	サービスプロセスを実行したユーザー名が表示される。
	Time Zone	サービスで使用されるタイムゾーンが表示される。

フォルダ名		プロパティ名	説明
System		—	サービスが起動されている OS の、OS 情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		CPU Type	CPU の種類が表示される。
		Hardware ID	ハードウェア ID が表示される。
		OS Type	OS の種類が表示される。
		OS Name	OS 名が表示される。
		OS Version	OS のバージョンが表示される。
Network Services		—	Performance Management 通信共通ライブラリについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Build Date	Agent Collector サービスの作成日が表示される。
		INI File	jpcns.ini ファイルの格納フォルダ名が表示される。
Network Services	Service	—	サービスについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Description	ホスト名やサービス種別などサービスの追加情報が表示される。
		Local Service Name	サービス ID が表示される。
		Remote Service Name	Agent Collector が接続する Agent Store のサービス ID が表示される。
		AH Service Name	同一ホストにある Action Handler のサービス ID が表示される。
JP1 Event Configurations		—	JP1 イベントの発行条件のプロパティが格納されている。
		各サービス	Agent Collector サービス、Agent Store サービス、Action Handler サービス、および Status Server サービスのリスト項目から「Yes」または「No」を選択し、サービスごとに JP1 システムイベントを発行するかどうかを指定する。
		JP1 Event Send Host	JP1/Base の接続先イベントサーバ名を指定する。ただし、Action Handler サービスと同一マシンの論理ホストまたは物理ホストで動作しているイベントサーバだけ指定できる。指定できる値は

フォルダ名		プロパティ名	説明
JP1 Event Configurations		JP1 Event Send Host	0～255 バイトの半角英数字および「.」「-」で、範囲外の値が指定された場合は、省略されたと仮定する。値が省略された場合は、Action Handler サービスが動作するホストをイベント発行元ホストとして使用する。「localhost」が指定された場合は、物理ホストが指定されたものと仮定する。
		Monitoring Console Host	JP1/IM - Manager のモニター起動で PFM - Web Console のブラウザを起動する場合、起動させる PFM - Web Console ホストを指定する。指定できる値は 0～255 バイトの半角英数字および「.」「-」で、範囲外の値が指定された場合は、省略されたと仮定する。値が省略された場合は、接続先の PFM - Manager ホストを仮定する。
		Monitoring Console Port	起動する PFM - Web Console のポート番号 (http リクエストポート番号) を指定する。指定できる値は 1～65535 で、範囲外の値が指定された場合は、省略されたと仮定する。値が省略された場合は、20358 が設定される。
JP1 Event Configurations	Alarm	JP1 Event Mode	アラームの状態が変化した時に、JP1 システムイベントと JP1 ユーザーイベントのどちらのイベントを発行するか指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • JP1 User Event : JP1 ユーザーイベントを発行する • JP1 System Event : JP1 システムイベントを発行する
Detail Records		—	PD レコードタイプのレコードのプロパティが格納されている。収集されているレコードのレコード ID は、太字で表示される。
Detail Records	レコード ID※2	—	レコードのプロパティが格納されている。
		Description	レコードの説明が表示される。このプロパティは変更できない。
		Log	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、レコードを Agent Store データベースに記録するかどうかを指定する。この値が「Yes」でかつ、Collection Interval が 0 より大きい値であれば、データベースに記録される。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Detail Records	レコード ID ^{※2}	Log(ITSLM)	JP1/SLM - Manager と連携する場合に、JP1/SLM - Manager からレコードを PFM - Agent for IIS の Store データベースに記録するかどうかについて「Yes」または「No」で表示される。連携しない場合は「No」固定で表示される。このプロパティは変更できない。
		Monitoring(ITSLM)	JP1/SLM - Manager と連携する場合に、レコードを JP1/SLM - Manager に送信するかどうかについて、JP1/SLM - Manager での設定が「Yes」または「No」で表示される。連携しない場合は「No」固定で表示される。このプロパティは変更できない。
		Collection Interval ^{※3}	データの収集間隔を指定する。指定できる値は 0～2,147,483,647 秒で、1 秒単位で指定できる。なお、0 と指定した場合は 0 秒となり、データは収集されない。
		Collection Offset ^{※3}	データの収集を開始するオフセット値を指定する。指定できる値は、Collection Interval で指定した値の範囲内で、0～32,767 秒の 1 秒単位で指定できる。なお、データ収集の記録時間は、Collection Offset の値によらないで、Collection Interval と同様の時間となる。
		Over 10 Sec Collection Time	履歴データの収集をリアルタイムレポートの表示処理より優先する場合（履歴収集優先機能が有効な場合）にだけ表示される。 レコードの収集に 10 秒以上掛かることがあるかどうか「Yes」または「No」で表示される。 <ul style="list-style-type: none"> • Yes：10 秒以上掛かることがある • No：10 秒掛からない このプロパティは変更できない。
		Realtime Report Data Collection Mode	履歴データの収集をリアルタイムレポートの表示処理より優先する場合（履歴収集優先機能が有効な場合）にだけ表示される。 リアルタイムレポートの表示モードを指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • Reschedule：再スケジュールモードの場合

フォルダ名		プロパティ名	説明
Detail Records	レコード ID※2	Realtime Report Data Collection Mode	<ul style="list-style-type: none"> Temporary Log：一時保存モードの場合 <p>なお、Over 10 Sec Collection Time の値が「Yes」のレコードには、一時保存モード（Temporary Log）を指定する必要がある。</p>
		LOGIF	レコードをデータベースに記録するときの条件を指定する。条件に合ったレコードだけがデータベースに記録される。PFM - Web Console の [ログ出力条件式の編集] ダイアログボックスで作成した条件式（文字列）が表示される。
		Sync Collection With	次の形式で指定したレコードと収集の同期を取る。 Sync Collection With =レコード種別, レコード ID (例) Sync Collection With=Interval Records, PI
Interval Records		—	PI レコードタイプのレコードのプロパティが格納されている。収集されているレコードのレコード ID は、太字で表示される。
Interval Records	レコード ID※2	—	レコードのプロパティが格納されている。
		Description	レコードの説明が表示される。このプロパティは変更できない。
		Log	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、レコードを Agent Store データベースに記録するかどうかを指定する。この値が「Yes」でかつ、Collection Interval が 0 より大きい値であれば、データベースに記録される。
		Log(ITSLM)	JP1/SLM - Manager と連携する場合に、JP1/SLM - Manager からレコードを PFM - Agent for IIS の Store データベースに記録するかどうかについて「Yes」または「No」で表示される。連携しない場合は「No」固定で表示される。このプロパティは変更できない。
		Monitoring(ITSLM)	JP1/SLM - Manager と連携する場合に、レコードを JP1/SLM - Manager に送信するかどうかについて、JP1/SLM - Manager での設定が「Yes」または「No」で表示される。連携しない場合は

フォルダ名		プロパティ名	説明
Interval Records	レコード ID※2	Monitoring(ITSLM)	「No」固定で表示される。このプロパティは変更できない。
		Collection Interval	データの収集間隔を指定する。指定できる値は0~2,147,483,647秒で、1秒単位で指定できる。なお、0と指定した場合は0秒となり、データは収集されない。
		Collection Offset	データの収集を開始するオフセット値を指定する。指定できる値は、Collection Intervalで指定した値の範囲内で、0~32,767秒の1秒単位で指定できる。なお、データ収集の記録時間は、Collection Offsetの値によらないで、Collection Intervalと同様の時間となる。
		Over 10 Sec Collection Time	履歴データの収集をリアルタイムレポートの表示処理より優先する場合（履歴収集優先機能が有効な場合）にだけ表示される。 レコードの収集に10秒以上掛かることがあるかどうかを「Yes」または「No」で表示される。 <ul style="list-style-type: none"> • Yes：10秒以上掛かることがある • No：10秒掛からない このプロパティは変更できない。
		Realtime Report Data Collection Mode	履歴データの収集をリアルタイムレポートの表示処理より優先する場合（履歴収集優先機能が有効な場合）にだけ表示される。 リアルタイムレポートの表示モードを指定する。 <ul style="list-style-type: none"> • Reschedule：再スケジュールモードの場合 • Temporary Log：一時保存モードの場合 なお、Over 10 Sec Collection Timeの値が「Yes」のレコードには、一時保存モード（Temporary Log）を指定する必要がある。
		LOGIF	レコードをデータベースに記録するときの条件を指定する。条件に合ったレコードだけがデータベースに記録される。 PFM - Web Consoleの「ログ出力条件式の編集」ダイアログボックスで作成した条件式（文字列）が表示される。

フォルダ名	プロパティ名	説明	
Log Records	—	PL レコードタイプのレコードのプロパティが格納されている。PFM - Agent for IIS ではこのレコードをサポートしていないため使用しない。	
Restart Configurations	—	PFM サービス自動再起動の条件を設定する。PFM - Manager または PFM - Base が 08-50 以降の場合に設定できる。PFM サービス自動再起動機能については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、Performance Management の機能について説明している章を参照のこと。	
	Restart when Abnormal Status	Status Server サービスが Action Handler サービス、Agent Collector サービス、および Agent Store サービスの状態を正常に取得できない場合にサービスを自動再起動するかどうかを設定する。	
	Restart when Single Service Running	Agent Store サービスと Agent Collector サービスのどちらかしか起動していない場合にサービスを自動再起動するかどうかを設定する。	
Restart Configurations	Action Handler	Auto Restart	Action Handler サービスに対して自動再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Auto Restart - Interval (Minute)	自動再起動機能を利用する場合、サービスの稼働状態を確認する間隔を設定する。設定できる値は 1~1,440 分で、1 分単位で設定できる。
		Auto Restart - Repeat Limit	自動再起動機能を利用する場合、連続して再起動を試行する回数を 1~10 の整数で設定する。
		Scheduled Restart	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、Action Handler サービスに対して、定期再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔を 1~1,000 の整数で設定する。
		Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合、リスト項目から「Hour」、「Day」、「Week」または「Month」を選択し、再起動間隔の単位を設定する。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Restart Configurations	Action Handler	Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を 1971～2035 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を 1～12 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を 1～31 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間（時）を 0～23 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間（分）を 0～59 の整数で指定できる。
	Agent Collector	Auto Restart	Agent Collector サービスに対して自動再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Auto Restart - Interval (Minute)	自動再起動機能を利用する場合、サービスの稼働状態を確認する間隔を設定する。設定できる値は 1～1,440 分で、1 分単位で設定できる。
		Auto Restart - Repeat Limit	自動再起動機能を利用する場合、連続して再起動を試行する回数を 1～10 の整数で設定する。
		Scheduled Restart	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、Agent Collector サービスに対して、定期再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔を 1～1,000 の整数で設定する。
		Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合、リスト項目から「Hour」、「Day」、「Week」または「Month」を選択し、再起動間隔の単位を設定する。
		Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を 1971～2035 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を 1～12 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を 1～31 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間（時）を 0～23 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間（分）を 0～59 の整数で指定できる。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Restart Configurations	Agent Store	Auto Restart	Agent Store サービスに対して自動再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Auto Restart - Interval (Minute)	自動再起動機能を利用する場合、サービスの稼働状態を確認する間隔を設定する。設定できる値は1~1,440分で、1分単位で設定できる。
		Auto Restart - Repeat Limit	自動再起動機能を利用する場合、連続して再起動を試行する回数を1~10の整数で設定する。
		Scheduled Restart	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し、Agent Store サービスに対して、定期再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合、再起動間隔を1~1,000の整数で設定する。
		Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合、リスト項目から「Hour」、「Day」、「Week」または「Month」を選択し、再起動間隔の単位を設定する。
		Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を1971~2035の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を1~12の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を1~31の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間（時）を0~23の整数で指定できる。
Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間（分）を0~59の整数で指定できる。		
ITSLM Connection Configuration		—	連携するJP1/SLM - Managerに関する情報が表示される。
ITSLM Connection Configuration	ITSLM Connection	—	接続先JP1/SLM - Managerに関する情報が表示される。
		ITSLM Host	接続しているJP1/SLM - Managerのホスト名が表示される。JP1/SLM - Managerと接続していない場合、本プロパティは表示されない。
		ITSLM Port	接続しているJP1/SLM - Managerのポート番号が表示される。JP1/SLM - Managerと接続していない場合、本プロパティは表示されない。

フォルダ名		プロパティ名	説明
ITSLM Connection Configuration	MANAGE ITSLM CONNECTION	—	JP1/SLM - Manager との接続を停止するかどうかを設定する。
		DISCONNECT ITSLM CONNECTION	接続を停止する JP1/SLM - Manager のホスト名をリスト項目から指定する。リスト項目から「(空文字)」を指定した場合は何もしない。JP1/SLM - Manager と接続していない場合、リスト項目には「(空文字)」だけが表示される。
Multiple Manager Configuration		Primary Manager	監視二重化の場合、プライマリーに設定しているマネージャーのホスト名が表示される。このプロパティは変更できない。
		Secondary Manager	監視二重化の場合、セカンダリーに設定しているマネージャーのホスト名が表示される。このプロパティは変更できない。
Agent Configuration		User Defined Record DataMaxCount	ユーザーレコードの最大収集レコード数を規定するプロパティが格納されている。

(凡例)

— : 該当しない

注※1

PFM - Web Console の画面の [エージェント階層] の [プロパティの表示] から表示した場合、First Registration Date プロパティおよび Last Registration Date プロパティは表示されません。これらのプロパティ値を参照したい場合は、PFM - Web Console の画面の [サービス階層] から [プロパティ] を表示してください。

注※2

フォルダ名には、データベース ID を除いたレコード ID が表示されます。各レコードのレコード ID については、「6. レコード」を参照してください。

注※3

Sync Collection With が表示されている場合、Collection Interval と Collection Offset は表示されません。

付録 F ファイルおよびフォルダー一覧

ここでは、PFM - Agent for IIS のファイルおよびフォルダー一覧を記載します。

Performance Management のインストール先フォルダは次のとおりです。

システムドライブ¥Program Files (x86)¥Hitachi¥jp1pc¥

PFM - Agent for IIS のファイルおよびフォルダー一覧を次の表に示します。

表 F-1 PFM - Agent for IIS のファイルおよびフォルダー一覧

フォルダ名	ファイル名	説明
インストール先フォルダ¥agtk¥	-	PFM - Agent for IIS のルートフォルダ
	readme.txt	README.TXT (日本語)
	version.txt	バージョン情報
インストール先フォルダ¥agtk¥agent¥	-	Agent Collector のルートフォルダ
	COSLMMI.DB	JP1/SLM 連携設定のデータファイル
	COSLMMI.IDX	JP1/SLM 連携設定のデータファイルのインデックスファイル
	COSLMMI.LCK	JP1/SLM 連携設定のデータファイルのロックファイル
	jpgcagt.ini	Agent Collector サービス起動情報ファイル
	jpgcagt.ini.model	Agent Collector サービス起動情報ファイルのモデルファイル
	jpgcagtk.exe	Agent Collector サービス実行プログラム
	jpgcKCollect.exe	Agent Collector サービスパフォーマンスデータ収集プログラム
インストール先フォルダ¥agtk¥agent¥log¥	-	Agent Collector 内部ログファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtk¥lib¥	-	メッセージカタログ格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtk¥store¥	-	Agent Store ルートフォルダ
	*.DB	パフォーマンスデータファイル
	*.IDX	パフォーマンスデータファイルのインデックスファイル
	*.LCK	パフォーマンスデータファイルのロックファイル

フォルダ名	ファイル名	説明
インストール先フォルダ¥agtk¥store¥	jpcsto.ini	Agent Store サービス起動情報ファイル
	jpcsto.ini.model	Agent Store サービス起動情報ファイルのモデルファイル
	*.DAT	データモデル定義ファイル
インストール先フォルダ¥agtk¥store¥backup¥	—	標準のデータベースバックアップ先フォルダ
インストール先フォルダ¥agtk¥store¥dump¥	—	標準のデータベースエクスポート先フォルダ
インストール先フォルダ¥agtk¥store¥log¥	—	Agent Store 内部ログファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥setup¥	—	セットアップファイル格納フォルダ
	jpcagtku.Z	PFM - Agent セットアップ用アーカイブファイル(UNIX)
	jpcagtkw.EXE	PFM - Agent セットアップ用アーカイブファイル(Windows)

(凡例)

— : 該当しない

付録 G バージョンアップ手順とバージョンアップ時の注意事項

PFM - Agent for IIS をバージョンアップするには、PFM - Agent for IIS を上書きインストールします。インストールの操作の詳細については、「[3. インストールとセットアップ](#)」を参照してください。

Performance Management プログラムをバージョンアップする場合の注意事項については、マニュアル「[JP1/Performance Management 設計・構築ガイド](#)」のインストールとセットアップの章および付録にある、バージョンアップの注意事項について説明している個所を参照してください。

ここでは、PFM - Agent for IIS をバージョンアップする場合の注意事項を示します。

- バージョンアップする際には、古いバージョンの PFM - Agent for IIS をアンインストールしないでください。アンインストールすると、古いバージョンで作成したパフォーマンスデータなども一緒に削除されてしまうため、新しいバージョンで使用できなくなります。
- PFM - Agent for IIS を上書きインストールすると、次の項目が自動的に更新されます。
 - Agent Store サービスの Store データベースファイル
 - ini ファイル
- バージョンアップで Store データベースのデータモデルバージョンが変更される場合、既存の Store データベースが自動的にバージョンアップされるため、一時的に Store データベースのディスク占有量が 2 倍になります。バージョンアップインストールする前に、Store データベースの格納先のディスクに十分な空き容量があるかどうか確認してください。必要な空き容量は、現在の Store データベースの合計サイズを基準に考慮してください。例えば、現在の Store データベースの合計サイズが 100 ギガバイトの場合、バージョンアップインストールに必要なディスクの空き容量は 200 ギガバイト以上です。Store データベースの格納先ディスクを変更している場合は、変更後のディスク容量に対して考慮してください。
- 09-00 以前の PFM - Agent からバージョンアップした場合、格納ファイルの出力形式がバージョンアップ前と同じ形式 (WRAP1) で出力されます。

付録 H バージョン互換

PFM - Agent には、製品のバージョンのほかに、データモデルのバージョンがあります。PFM - Agent をバージョンアップしたときに、データモデルもバージョンアップされます。データモデルは、上位互換を保っているため、古いバージョンで定義したレポートの定義やアラームの定義は、新しいバージョンのデータモデルでも使用できます。

PFM - Agent for IIS のバージョンの対応を次の表に示します。

表 H-1 PFM - Agent for IIS のバージョン対応表

PFM - Agent for IIS のバージョン	データモデルのバージョン	アラームテーブルのバージョン
07-00	3.0	6.70
07-10	4.0	7.00
08-10	4.0	8.10
09-00	4.0	09.00
09-50	5.0	09.51
10-00	5.0	09.51
11-00	5.0	09.51

PFM - Agent for IIS の場合、PFM - Web Console の画面の[アラーム階層]に、使用中の Performance Management システムにはないバージョンのアラームテーブルが表示されることがあります。Performance Management システムで使用しているアラームテーブルのバージョンおよびバージョンの互換性をご確認のうえ、使用してください。

バージョン互換については、マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の、付録に記載されているバージョン互換を参照してください。

付録I 動作ログの出力

Performance Management の動作ログとは、システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

例えば、PFM サービスの起動・停止時や、PFM - Manager との接続状態の変更時に動作ログに出力されます。

動作ログは、PFM - Manager または PFM - Base が 08-10 以降の場合に出力できます。

動作ログは、CSV 形式で出力されるテキストファイルです。定期的に保存して表計算ソフトで加工することで、分析資料として利用できます。

動作ログは、jpccomm.ini の設定によって出力されるようになります。ここでは、PFM - Agent および PFM - Base が出力する動作ログの出力内容と、動作ログを出力するための設定方法について説明します。

付録 I.1 動作ログに出力される事象の種別

動作ログに出力される事象の種別および PFM - Agent および PFM - Base が動作ログを出力する契機を次の表に示します。事象の種別とは、動作ログに出力される事象を分類するための、動作ログ内での識別子です。

表 I-1 動作ログに出力される事象の種別

事象の種別	説明	PFM - Agent および PFM - Base が出力する契機
StartStop	ソフトウェアの起動と終了を示す事象。	<ul style="list-style-type: none">PFM サービスの起動停止・スタンダアロンモードの開始・終了
ExternalService	JP1 製品と外部サービスとの通信結果を示す事象。 異常な通信の発生を示す事象。	PFM - Manager との接続状態の変更
ManagementAction	プログラムの重要なアクションの実行を示す事象。 ほかの監査カテゴリーを契機にアクションが実行されたことを示す事象。	自動アクションの実行

付録 I.2 動作ログの保存形式

ここでは、動作ログのファイル保存形式について説明します。

動作ログは規定のファイル（カレント出力ファイル）に出力され、満杯になった動作ログは別のファイル（シフトファイル）として保存されます。動作ログのファイル切り替えの流れは次のとおりです。

1. 動作ログは、カレント出力ファイル「jpcaudit.log」に順次出力されます。
2. カレント出力ファイルが満杯になると、その動作ログはシフトファイルとして保存されます。
シフトファイル名は、カレント出力ファイル名の末尾に数値を付加した名称です。シフトファイル名は、カレント出力ファイルが満杯になるたびにそれぞれ「ファイル名末尾の数値+1」へ変更されます。つまり、ファイル末尾の数値が大きいほど、古いログファイルとなります。

例

カレント出力ファイル「jpcaudit.log」が満杯になると、その内容はシフトファイル「jpcaudit1.log」へ保管されます。

カレント出力ファイルが再び満杯になると、そのログは「jpcaudit1.log」へ移され、既存のシフトファイル「jpcaudit1.log」は「jpcaudit2.log」へリネームされます。

なお、ログファイル数が保存面数（jpccomm.ini ファイルで指定）を超えると、いちばん古いログファイルから削除されます。

3. カレント出力ファイルが初期化され、新たな動作ログが書き込まれます。

動作ログの出力可否、出力先および保存面数は、jpccomm.ini ファイルで設定します。jpccomm.ini ファイルの設定方法については、「付録 I.4 動作ログを出力するための設定」を参照してください。

付録 I.3 動作ログの出力形式

Performance Management の動作ログには、監査事象に関する情報が出力されます。動作ログは、ホスト（物理ホスト・論理ホスト）ごとに 1 ファイル出力されます。動作ログの出力先ホストは次のようになります。

- サービスを実行した場合：実行元サービスが動作するホストに出力
- コマンドを実行した場合：コマンドを実行したホストに出力

動作ログの出力形式、出力先、出力項目について次に説明します。

(1) 出力形式

```
CALFHM x. x, 出力項目1=値1, 出力項目2=値2, ..., 出力項目n=値n
```

(2) 出力先

インストール先フォルダ¥audit log¥

動作ログの出力先は、jpccomm.ini ファイルで変更できます。jpccomm.ini ファイルの設定方法については、「付録 I.4 動作ログを出力するための設定」を参照してください。

(3) 出力項目

出力項目には2つの分類があります。

- 共通出力項目
動作ログを出力する JP1 製品が共通して出力する項目です。
- 固有出力項目
動作ログを出力する JP1 製品が任意に出力する項目です。

(a) 共通出力項目

共通出力項目に出力される値と項目の内容を次の表に示します。なお、この表は PFM - Manager が出力する項目や内容も含まれます。

表 I-2 動作ログの共通出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	共通仕様識別子	—	CALFHM	動作ログフォーマットであることを示す識別子
2	共通仕様リビジョン番号	—	x.x	動作ログを管理するためのリビジョン番号
3	通番	seqnum	通し番号	動作ログレコードの通し番号
4	メッセージ ID	msgid	KAVExxxx-x	製品のメッセージ ID
5	日付・時刻	date	YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sssTZD*	動作ログの出力日時およびタイムゾーン
6	発生プログラム名	progid	JP1PFM	事象が発生したプログラムのプログラム名
7	発生コンポーネント名	compid	サービス ID	事象が発生したコンポーネント名
8	発生プロセス ID	pid	プロセス ID	事象が発生したプロセスのプロセス ID
9	発生場所	ocp:host	<ul style="list-style-type: none"> • ホスト名 • IP アドレス 	事象が発生した場所
10	事象の種別	ctgry	<ul style="list-style-type: none"> • StartStop • Authentication • ConfigurationAccess • ExternalService • AnomalyEvent • ManagementAction 	動作ログに出力される事象を分類するためのカテゴリ名

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
11	事象の結果	result	<ul style="list-style-type: none"> • Success (成功) • Failure (失敗) • Occurrence (発生) 	事象の結果
12	サブジェクト識別情報	subj:pid	プロセス ID	次のどれかの情報 <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー操作により動作するプロセス ID • 事象を発生させたプロセス ID • 事象を発生させたユーザー名 • ユーザーに 1:1 で対応づけられた識別情報
		subj:uid	アカウント識別子 (PFM ユーザー/JP1 ユーザー)	
		subj:eid	実効ユーザー ID (OS ユーザー)	

(凡例)

– : なし。

注※

T は日付と時刻の区切りです。

ZD はタイムゾーン指定子です。次のどれかが出力されます。

+hh:mm : UTC から hh:mm だけ進んでいることを示す。

-hh:mm : UTC から hh:mm だけ遅れていることを示す。

Z : UTC と同じであることを示す。

(b) 固有出力項目

固有出力項目に出力される値と項目の内容を次の表に示します。なお、この表は PFM - Manager が出力する項目や内容も含まれます。

表 I-3 動作ログの固有出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	オブジェクト情報	obj	<ul style="list-style-type: none"> • PFM - Agent のサービス ID • 追加, 削除, 更新されたユーザー名 (PFM ユーザー) 	操作の対象
		obj:table	アラームテーブル名	
		obj:alarm	アラーム名	
2	動作情報	op	<ul style="list-style-type: none"> • Start (起動) • Stop (停止) • Add (追加) • Update (更新) • Delete (削除) 	事象を発生させた動作情報

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
2	動作情報	op	<ul style="list-style-type: none"> Change Password (パスワード変更) Activate (有効化) Inactivate (無効化) Bind (バインド) Unbind (アンバインド) 	事象が発生させた動作情報
3	権限情報	auth	<ul style="list-style-type: none"> 管理者ユーザー Management 一般ユーザー Ordinary Windows Administrator UNIX SuperUser 	操作したユーザーの権限情報
		auth:mode	<ul style="list-style-type: none"> PFM 認証モード pfm JP1 認証モード jp1 OS ユーザー os 	操作したユーザーの認証モード
4	出力元の場所	outp:host	PFM - Manager のホスト名	動作ログの出力元のホスト
5	指示元の場所	subjp:host	<ul style="list-style-type: none"> ログイン元ホスト名 実行ホスト名 (jpctool alarm コマンド実行時だけ) 	操作の指示元のホスト
6	自由記述	msg	メッセージ	アラーム発生時、および自動アクションの実行時に出力されるメッセージ

固有出力項目は、出力契機ごとに出力項目の有無や内容が異なります。出力契機ごとに、メッセージ ID と固有出力項目の内容を次に説明します。

■ PFM サービスの起動・停止 (StartStop)

- 出力ホスト：該当するサービスが動作しているホスト
- 出力コンポーネント：起動・停止を実行する各サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	起動：KAVE03000-I 停止：KAVE03001-I

項目名	属性名	値
動作情報	op	起動：Start 停止：Stop

■ スタンドアロンモードの開始・終了 (StartStop)

- 出力ホスト：PFM - Agent ホスト
- 出力コンポーネント：Agent Collector サービス, Agent Store サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	スタンドアロンモードを開始：KAVE03002-I スタンドアロンモードを終了：KAVE03003-I

注 1

固有出力項目は出力されない。

注 2

PFM - Agent の各サービスは、起動時に PFM - Manager ホストに接続し、ノード情報の登録、最新のアラーム定義情報の取得などを行う。PFM - Manager ホストに接続できない場合、稼働情報の収集など一部の機能だけが有効な状態（スタンドアロンモード）で起動する。その際、スタンドアロンモードで起動することを示すため、KAVE03002-I が出力される。その後、一定期間ごとに PFM - Manager への再接続を試み、ノード情報の登録、定義情報の取得などに成功すると、スタンドアロンモードから回復し、KAVE03003-I が出力される。この動作ログによって、KAVE03002-I と KAVE03003-I が出力されている間は、PFM - Agent が不完全な状態で起動していることを知ることができる。

■ PFM - Manager との接続状態の変更 (ExternalService)

- 出力ホスト：PFM - Agent ホスト
- 出力コンポーネント：Agent Collector サービス, Agent Store サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	PFM - Manager へのイベントの送信に失敗（キューイングを開始）： KAVE03300-I PFM - Manager へのイベントの再送が完了：KAVE03301-I

注 1

固有出力項目は出力されない。

注 2

Agent Store サービスは、PFM - Manager へのイベント送信に失敗すると、イベントのキューイングを開始し、以降はイベントごとに最大 3 件がキューにためられる。KAVE03300-I は、イベント送信に失敗し、キューイングを開始した時点で出力される。PFM - Manager との接続が回復したあと、キューイングされたイベントの送信が完了した時点で、KAVE03301-I が出力される。こ

の動作ログによって、KAVE03300-I と KAVE03301-I が出力されている間は、PFM - Manager へのイベント送信がリアルタイムでできていなかった期間と知ることができる。

注 3

Agent Collector サービスは、通常、Agent Store サービスを経由して PFM - Manager にイベントを送信する。何らかの理由で Agent Store サービスが停止している場合だけ、直接 PFM - Manager にイベントを送信するが、失敗した場合に KAVE03300-I が出力される。この場合、キューイングを開始しないため、KAVE03301-I は出力されない。この動作ログによって、PFM - Manager に送信されなかったイベントがあることを知ることができる。

■ 自動アクションの実行 (ManagementAction)

- 出力ホスト：アクションを実行したホスト
- 出力コンポーネント：Action Handler サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	コマンド実行プロセス生成に成功：KAVE03500-I コマンド実行プロセス生成に失敗：KAVE03501-W E-mail 送信に成功：KAVE03502-I E-mail 送信に失敗：KAVE03503-W
自由記述	msg	コマンド実行：cmd=実行したコマンドライン E-mail 送信：mailto=送信先メールアドレス

注

コマンド実行プロセスの生成に成功した時点で KAVE03500-I が出力される。その後、コマンドが実行できたかどうかのログ、および実行結果のログは、動作ログには出力されない。

(4) 出力例

動作ログの出力例を次に示します。

```
CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KAVE03000-I, date=2007-01-18T22:46:49.682+09:00,  
progid=JP1PFM, compid=KA1host01, pid=2076,  
ocp:host=host01, ctgry=StartStop, result=Occurrence,  
subj:pid=2076,op=Start
```

付録 I.4 動作ログを出力するための設定

動作ログを出力するための設定は、jpccomm.ini ファイルで定義します。設定しない場合、動作ログは出力されません。動作ログを出力するための設定内容とその手順について次に示します。

(1) 設定手順

動作ログを出力するための設定手順を次に示します。

1. ホスト上の全 PFM サービスを停止させる。
2. テキストエディターなどで、jpccomm.ini ファイルを編集する。
3. jpccomm.ini ファイルを保存して閉じる。

(2) jpccomm.ini ファイルの詳細

jpccomm.ini ファイルの詳細について説明します。

(a) 格納先フォルダ

インストール先フォルダ

(b) 形式

jpccomm.ini ファイルには、次の内容を定義します。

- 動作ログの出力の有無
- 動作ログの出力先
- 動作ログの保存面数
- 動作ログのファイルサイズ

指定形式は次のとおりです。

"項目名"=値

設定項目を次の表に示します。

表 I-4 jpccomm.ini ファイルで設定する項目および初期値

項番	項目	説明
1	[Action Log Section]	セクション名です。変更はできません。
2	Action Log Mode	動作ログを出力するかどうかを指定します。この項目の設定は省略できません。 <ul style="list-style-type: none"> • 初期値 0 (出力しない) • 指定できる値 0 (出力しない), 1 (出力する) これ以外の値を指定すると、エラーメッセージが出力され、動作ログは出力されません。
3	Action Log Dir	動作ログの出力先を指定します。 論理ホスト環境の場合は共有ディスク上のディレクトリを指定します。共有ディスク上にないディレクトリを指定した場合、論理ホストを構成する各物理ホストへ動作ログが出力されます。

項番	項目	説明
3	Action Log Dir	<p>なお、制限長を超えるパスを設定した場合や、ディレクトリへのアクセスが失敗した場合は、共通ログにエラーメッセージが出力され、動作ログは出力されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期値 省略 省略した場合に適用される値（デフォルト値） <ul style="list-style-type: none"> ・ Windows の場合 インストール先フォルダ¥auditlog¥ ・ Windows の場合（論理ホスト運用の場合） 環境ディレクトリ¥jp1pc¥auditlog¥ ・ Unix の場合 /opt/jp1pc/auditlog/ ・ Unix の場合（論理ホスト運用の場合） 環境ディレクトリ¥/jp1pc/auditlog/ <p>注※ 環境ディレクトリは、論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のディレクトリです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指定できる範囲 1～185 バイトの文字列
4	Action Log Num	<p>ログファイルの総数の上限（保存面数）を指定します。カレント出力ファイルとシフトファイルの合計を指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期値 省略 省略した場合に適用される値（デフォルト値） 5 指定できる範囲 2～10 の整数 <p>数値以外の文字列を指定した場合、エラーメッセージが出力され、デフォルト値である 5 が設定されます。</p> <p>範囲外の数値を指定した場合、エラーメッセージを出力し、指定値に最も近い 2～10 の整数値が設定されます。</p>
5	Action Log Size	<p>ログファイルのサイズをキロバイト単位で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初期値 省略 省略した場合に適用される値（デフォルト値） 2048 指定できる範囲 512～2096128 の整数 <p>数値以外の文字列を指定した場合、エラーメッセージが出力され、デフォルト値である 2048 が設定されます。</p> <p>範囲外の数値を指定した場合、エラーメッセージが出力され、指定値に最も近い 512～2096128 の整数値が設定されます。</p>

付録 J JP1/SLM との連携

PFM - Agent for IIS は、JP1/SLM と連携することによって、監視を強化できます。

PFM - Agent for IIS は、JP1/SLM 上での監視を実現するために、JP1/SLM 用のデフォルト監視項目を PFM - Manager に提供します。

複数インスタンスレコードの場合、キーに指定した値と一致したレコードを収集します。収集対象とするキーについては、各レコードの収集結果を確認してください。

表 J-1 PFM - Agent for IIS が PFM - Manager に提供するデフォルト監視項目

JP1/SLM での表示名	説明	レコード (レコード ID)	キー (PFM - Manager 名)	フィールド名
IIS - Cache Hits %	インターネットサービスのキャッシュで見つかったクエリの割合。	IIS WorkingSet (PI_WS)	—	IIS_CACHE_HITS_PER
WSC - Cache Hits %	WWWサービスのキャッシュ参照が成功した比率。	WWW Service Cache (PI_WSC)	—	WSC_CACHE_HITS_P ER
Web - Bytes Total/sec	Web サービスが送受信した総バイト数。	Application Layer Overview (PI_TRAL)	—	BYTES_TOTAL_SEC_ WEB
SMTP - Bytes Total/sec	SMTP サーバが送受信した総バイト数。	Application Layer Overview (PI_TRAL)	—	TOTAL_SEC_SMT P
FTP - Bytes Total/sec	FTP サービスが送受信した総バイト数。	Application Layer Overview (PI_TRAL)	—	BYTES_TOTAL_SEC_ FTP
ASP - Reqs/sec	ASP の 1 秒当たりのリクエスト数。	Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)	—	ASP_REQUESTS_SEC
ASP - Reqs Queued	ASP の待機中のリクエスト数。	Active Server Pages Throughput (PI_ASPT)	—	ASP_REQUESTS_QUE UED
ASP.NET - Reqs/sec	ASP.NET の 1 秒当たりのリクエスト数。	ASP.NET Throughput (PI_APNT)	Instance (INSTANCE)	ASP_REQUESTS_SEC
ASP.NET - Reqs Queued	ASP.NET の待機中のリクエスト数。	ASP.NET Throughput (PI_APNT)	Instance (INSTANCE)	ASP_REQUESTS_QUE UED

(凡例)

— : なし

デフォルト監視項目を PFM - Manager に提供するためには、セットアップファイルをコピーして、セットアップコマンドを実行する必要があります。詳細は、「[3.4.2 PFM - Manager および PFM - Web Console への PFM - Agent for IIS の登録](#)」を参照してください。

付録 K 各バージョンの変更内容

各バージョンのマニュアルの変更内容を示します。

付録 K.1 11-00 の変更内容

- 次の OS をサポートする OS から削除した。

PFM - Manager および PFM - Web Console

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 (R2 以外)
- AIX 6 (32bit)
- AIX 7 (32bit)
- HP-UX 11i V3 (IPF)
- Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (x86)
- Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (AMD/Intel 64)
- Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)
- Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (x86)
- Red Hat Enterprise Linux(R) Server 6 (32-bit x86)
- Solaris 10

PFM - Base

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 (R2 以外)

PFM - Agent for IIS

- Microsoft(R) Windows Server(R) 2003
- Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 (R2 以外)

- 次の OS をサポートした。

PFM - Manager および PFM - Web Console

- CentOS 6.1 (x64)以降
- CentOS 7.1 以降
- Red Hat Enterprise Linux(R) Server 7.1 以降
- Oracle Linux(R) Operating System 6.1 (x64)以降
- Oracle Linux(R) Operating System 7.1 以降
- SUSE Linux(R) Enterprise Server 12

- 次のプロパティを追加した。
Agent Store サービスのプロパティ
 - Multiple Manager Configuration
- Agent Collector サービスのプロパティ
 - Multiple Manager Configuration
 - Over 10 Sec Collection Time
 - Realtime Report Data Collection Mode
- 製品の名称を、JP1/ITSMLM から JP1/SLM に変更した。
- ネットワーク管理製品 (NNM) との連携を廃止した。
- ODBC 準拠のアプリケーションプログラムを廃止した。

付録 K.2 10-00 の変更内容

- 次のデフォルト監視項目を PFM - Manager に提供することで、JP1/ITSMLM と連携できるようにした。
 - IIS_CACHE_HITS_PER
 - WSC_CACHE_HITS_PER
 - BYTES_TOTAL_SEC_WEB
 - TOTAL_SEC_SMTTP
 - BYTES_TOTAL_SEC_FTP
 - ASP_REQUESTS_SEC
 - ASP_REQUESTS_QUEUED
- 次のメッセージを追加した。
KAVF27400-I, KAVF27401-E, KAVF27402-I, KAVF27403-E
- Windows Server 2012 に対応をした。
- Windows Server 2012 R2 に対応をした。

付録 K.3 09-50 の変更内容

- Windows Server 2008 R2 SP1 に対応した。
- レコード情報の精度向上対応をした。
- ASP.NET 1.1～4.0 のパフォーマンス情報を収集する機能を追加した。
- WWWサービスキャッシュのパフォーマンス情報を収集する機能を追加した。

付録 K.4 09-00-03 の変更内容

- PI_ASPT のレコード情報を収集する際に、メッセージ KAVF27401-E が誤って出力される場合があります、これに対応した。

付録 K.5 09-00-02 の変更内容

- レコード情報の精度向上対応、および、メモリーリーク対応をした。

付録 K.6 09-00-01 の変更内容

- Windows Server 2008 R2 対応をした。
- FTP7.5 for IIS7.5 対応をした。
- PI_PA レコードの% Processor Time フィールドについて、すべてのインスタンス情報を表示するように変更した。

付録 K.7 09-00 の変更内容

- 処理性能測定ログの iis.dat を廃止した。
- PFM - Agent for IIS の適用 OS を次のように変更した。

プログラム名	変更内容
PFM - Agent for IIS	Windows Server 2008 を追加した。

- 「ソリューションセット」の名称を「監視テンプレート」に変更した。
- JP1/IM との連携機能を強化した。これに伴い、Agent Collector サービスのプロパティ一覧に次のフォルダを追加した。また、次のプロパティを追加した。

JP1 Event Configurations

サービス名	フォルダ名	プロパティ	
Agent Collector	JP1 Event Configurations	各サービス	
		JP1 Event Send Host	
		Monitoring Console Host	
		Monitoring Console Port	
	JP1 Event Configurations	Alarm	JP1 Event Mode

- 08-51 以前のコマンドと互換性を持つ新形式のコマンドが追加されたことに伴い、09-00 以降のコマンドを次のように表記した。

09-00 以降のコマンド (08-51 以前のコマンド)

- アラームの監視テンプレートのバージョンを 8.10 から 09.00 に変更した。

付録 L このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 L.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

JP1/Performance Management 関連

- JP1 Version 11 パフォーマンス管理 基本ガイド (稼働性能管理編) (3021-3-A36)
- JP1 Version 11 JP1/Performance Management 設計・構築ガイド (3021-3-A37)
- JP1 Version 11 JP1/Performance Management 運用ガイド (3021-3-A38)
- JP1 Version 11 JP1/Performance Management リファレンス (3021-3-A39)

JP1 関連

- JP1 Version 10 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1(Windows(R)用) (3021-3-177)
- JP1 Version 8 JP1/Cm2/Network Node Manager ネットワーク管理ガイド (3020-3-L01)

付録 L.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を次に示します。

このマニュアルでの表記		正式名称
AIX		AIX V6.1
		AIX V7.1
HP-UX		HP-UX 11i V3 (IPF)
IPF		Itanium(R) Processor Family
JP1/IM	JP1/IM - Manager	JP1/Integrated Management - Manager
	JP1/IM - View	JP1/Integrated Management - View
JP1/NETM/DM		JP1/NETM/DM Client
		JP1/NETM/DM Manager
		JP1/NETM/DM SubManager
JP1/SLM	JP1/SLM - Manager	JP1/Service Level Management - Manager
	JP1/SLM - UR	JP1/Service Level Management -

このマニュアルでの表記		正式名称	
JP1/SLM	JP1/SLM - UR	User Response	
Linux	CentOS	CentOS 6 (x64)	CentOS 6.1 (x64)以降
		CentOS 7	CentOS 7.1 以降
	Linux 6 (x64)		Red Hat Enterprise Linux(R) Server 6.1 (64-bit x86_64)以降
	Linux 7		Red Hat Enterprise Linux(R) Server 7.1 以降
	Oracle Linux	Oracle Linux 6 (x64)	Oracle Linux(R) Operating System 6.1 (x64) 以降
		Oracle Linux 7	Oracle Linux(R) Operating System 7.1 以降
	SUSE Linux	SUSE Linux 12	SUSE Linux(R) Enterprise Server 12
NNM	HP NNM		HP Network Node Manager Software バージョン 6 以前
			HP Network Node Manager Starter Edition Software バージョン 7.5 以前
	JP1/Cm2/NNM		JP1/Cm2/Network Node Manager バージョン 7 以前
			JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 バージョン 8 以前
			JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise バージョン 8 以前
Performance Management		JP1/Performance Management	
PFM - Agent	PFM - Agent for JP1/AJS	PFM - Agent for JP1/AJS3	JP1/Performance Management - Agent Option for JP1/AJS3
	PFM - Agent for Cosminexus		JP1/Performance Management - Agent Option for uCosminexus Application Server
	PFM - Agent for DB2		JP1/Performance Management - Agent Option for IBM DB2
	PFM - Agent for Domino		JP1/Performance Management - Agent Option for IBM Lotus Domino
	PFM - Agent for Enterprise Applications		JP1/Performance Management - Agent Option for Enterprise Applications
	PFM - Agent for Exchange Server		JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Exchange Server
	PFM - Agent for HiRDB		JP1/Performance Management - Agent Option for HiRDB

このマニュアルでの表記		正式名称	
PFM - Agent	PFM - Agent for WebSphere MQ	JP1/Performance Management - Agent Option for IBM WebSphere MQ	
	PFM - Agent for IIS	JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server	
	PFM - Agent for Microsoft SQL Server	JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) SQL Server	
	PFM - Agent for OpenTP1	JP1/Performance Management - Agent Option for OpenTP1	
	PFM - Agent for Oracle	JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle	
	PFM - Agent for Platform	PFM - Agent for Platform (UNIX)	JP1/Performance Management - Agent Option for Platform (UNIX 用)
		PFM - Agent for Platform (Windows)	JP1/Performance Management - Agent Option for Platform (Windows 用)
	PFM - Agent for Service Response	JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response	
	PFM - Agent for WebLogic Server	JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle(R) WebLogic Server	
PFM - Agent for WebSphere Application Server	JP1/Performance Management - Agent Option for IBM WebSphere Application Server		
PFM - Base		JP1/Performance Management - Base	
PFM - Manager		JP1/Performance Management - Manager	
PFM - RM	PFM - RM for Microsoft SQL Server	JP1/Performance Management - Remote Monitor for Microsoft(R) SQL Server	
	PFM - RM for Oracle	JP1/Performance Management - Remote Monitor for Oracle	
	PFM - RM for Platform	JP1/Performance Management - Remote Monitor for Platform	
PFM - Web Console		JP1/Performance Management - Web Console	
Solaris	Solaris 10	Solaris 10 (SPARC)	
	Solaris 11 (SPARC)	Solaris 11 (SPARC)	

- PFM - Manager, PFM - Agent, PFM - Base, PFM - Web Console, および PFM - RM を総称して、Performance Management と表記することがあります。
- HP-UX, Solaris, AIX, および Linux を総称して、UNIX と表記することがあります。

付録 L.3 このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

このマニュアルでの表記	正式名称
CPU	Central Processing Unit
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol
FQDN	Fully Qualified Domain Name
HA	High Availability
HTML	Hyper Text Markup Language
HTTP	Hyper Text Transfer Protocol
IP	Internet Protocol
LAN	Local Area Network
NAT	Network Address Translation
ODBC	Open Database Connectivity
OS	Operating System
SCSI	Small Computer System Interface
SNMP	Simple Network Management Protocol
SSL	Secure Socket Layer
TCP	Transmission Control Protocol
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol
UAC	User Account Control
Web	World Wide Web

付録 L.4 このマニュアルでのプロダクト名、サービス ID、およびサービスキーの表記

Performance Management 09-00 以降では、プロダクト名表示機能を有効にすることで、サービス ID およびサービスキーをプロダクト名で表示できます。

識別子	プロダクト名表示機能	
	無効	有効
サービス ID	KS1 ホスト名	ホスト名<IIS>(Store)
	KA1 ホスト名	ホスト名<IIS>

識別子	プロダクト名表示機能	
	無効	有効
サービスキー	agtk	IIS

このマニュアルでは、プロダクト名表示機能を有効としたときの形式で表記しています。

なお、プロダクト名表示機能を有効にできるのは、次の条件を同時に満たす場合です。

- PFM - Agent の同一装置内の前提プログラム（PFM - Manager または PFM - Base）のバージョンが 09-00 以降
- PFM - Web Console および接続先の PFM - Manager のバージョンが 09-00 以降

付録 L.5 Performance Management インストール先フォルダの表記

このマニュアルでは、Windows 版 Performance Management のインストール先フォルダを、インストール先フォルダと表記しています。

PFM - Web Console 以外の Performance Management のプログラムのインストール先フォルダ
 システムドライブ¥Program Files(x86)¥Hitachi¥jp1pc¥

PFM - Web Console のインストール先フォルダ
 システムドライブ¥Program Files(x86)¥Hitachi¥jp1pcWebCon¥

UNIX 版 Performance Management のデフォルトのインストール先ディレクトリは、次のとおりです。

PFM - Web Console 以外の Performance Management のプログラムのインストール先ディレクトリ
 /opt/jp1pc/

PFM - Web Console のインストール先ディレクトリ
 /opt/jp1pcwebcon/

付録 L.6 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、1,024² バイト、1,024³ バイト、1,024⁴ バイトです。

(英字)

Action Handler

PFM - Manager または PFM - Base のサービスの 1 つです。アクションを実行するサービスのことです。

Agent Collector

PFM - Agent のサービスの 1 つです。パフォーマンスデータを収集したり、アラームに設定されたしきい値で、パフォーマンスデータを評価したりするサービスのことです。

Agent Store

PFM - Agent のサービスの 1 つです。パフォーマンスデータを格納するサービスのことです。Agent Store サービスは、パフォーマンスデータの記録のためにデータベースを使用します。各 PFM - Agent に対応して、各 Agent Store サービスがあります。

Correlator

PFM - Manager のサービスの 1 つです。サービス間のイベント配信を制御するサービスのことです。アラームの状態を評価して、しきい値を超過するとアラームイベントおよびエージェンイベントを、Trap Generator サービスおよび PFM - Web Console に送信します。

JP1/SLM

業務システムをサービス利用者が体感している性能などの視点で監視し、サービスレベルの維持を支援する製品です。

JP1/SLM と連携することで、稼働状況の監視を強化できます。

Master Manager

PFM - Manager のサービスの 1 つです。PFM - Manager のメインサービスのことです。

Master Store

PFM - Manager のサービスの 1 つです。各 PFM - Agent から発行されたアラームイベントを管理するサービスのことです。Master Store サービスはイベントデータの保持のためにデータベースを使用します。

Name Server

PFM - Manager のサービスの 1 つです。システム内のサービス構成情報を管理するサービスのことです。

ODBC キーフィールド

PFM - Manager または PFM - Base で、Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合に必要な主キーです。ODBC キーフィールドには、各レコード共通のものと各レコード固有のものがあります。

PD レコードタイプ

→ [「Product Detail レコードタイプ」](#) を参照してください。

Performance Management

システムのパフォーマンスに関する問題を監視および分析するために必要なソフトウェア群の総称です。Performance Management は、次の 4 つのプログラムプロダクトで構成されます。

- PFM - Manager
- PFM - Web Console
- PFM - Base
- PFM - Agent

PFM - Agent

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの 1 つです。PFM - Agent は、システム監視機能に相当し、監視対象となるアプリケーション、データベース、OS によって、各種の PFM - Agent があります。PFM - Agent には、次の機能があります。

- 監視対象のパフォーマンスの監視
- 監視対象のデータの収集および記録

PFM - Base

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの 1 つです。Performance Management の稼働監視をするための基盤機能を提供します。PFM - Agent を動作させるための前提製品です。

- 各種コマンドなどの管理ツール
- Performance Management と他システムとの連携に必要となる共通機能

PFM - Manager

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの 1 つです。PFM - Manager は、マネージャー機能に相当し、次の機能があります。

- Performance Management のプログラムプロダクトの管理
- イベントの管理

PFM - Manager 名

PFM - Manager で、SQL を使用して Store データベースに格納されているフィールドのデータを利用する場合、SQL 文で記述するフィールド名のことです。

PFM - View 名

PFM - Web Console の GUI で表示されるフィールド名のことです。

PFM - Web Console

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの 1 つです。ブラウザで Performance Management システムを一元的に監視するため Web アプリケーションサーバの機能を提供します。PFM - Web Console には、次の機能があります。

- GUI の表示
- 統合監視および管理機能
- レポートの定義およびアラームの定義

PI レコードタイプ

→ [「Product Interval レコードタイプ」](#) を参照してください。

PL レコードタイプ

→ [「Product Log レコードタイプ」](#) を参照してください。

Product Detail レコードタイプ

現在起動しているプロセスの詳細情報など、ある時点でのシステムの状態を示すパフォーマンスデータが格納されるレコードタイプのことです。PD レコードタイプは、次のような、ある時点でのシステムの状態を知りたい場合に使用します。

- システムの稼働状況
- 現在使用しているファイルシステム容量

Product Interval レコードタイプ

1 分ごとのプロセス数など、ある一定の時間（インターバル）ごとのパフォーマンスデータが格納されるレコードタイプのことです。PI レコードタイプは、次のような、時間の経過に伴うシステムの状態の変化や傾向を分析したい場合に使用します。

- 一定時間内に発生したシステムコール数の推移
- 使用しているファイルシステム容量の推移

Product Log レコードタイプ

UNIX 上で実行されているアプリケーションまたはデータベースのログ情報が格納されるレコードタイプのことです。

Store データベース

Agent Collector サービスが収集したパフォーマンスデータが格納されるデータベースのことです。

Trap Generator

PFM - Manager のサービスの 1 つです。SNMP トラップを発行するサービスのことです。

(ア行)

アクション

監視するデータがしきい値に達した場合に、Performance Management によって自動的に実行される動作のことです。次の動作があります。

- Eメールの送信
- コマンドの実行
- SNMP トラップの発行
- JP1 イベントの発行

アラーム

監視するデータがしきい値に達した場合のアクションやイベントメッセージを定義した情報のことです。

アラームテーブル

次の情報を定義した 1 つ以上のアラームをまとめたテーブルです。

- 監視するオブジェクト (Process, TCP, Webservice など)
- 監視する情報 (CPU 使用率, 1 秒ごとの受信バイト数など)
- 監視する条件 (しきい値)

インスタンス

このマニュアルでは、インスタンスという用語を次のように使用しています。

- レコードの記録形式を示す場合
1 行で記録されるレコードを「単数インスタンスレコード」、複数行で記録されるレコードを「複数インスタンスレコード」、レコード中の各行を「インスタンス」と呼びます。
- PFM - Agent の起動方式を示す場合
同一ホスト上の監視対象を 1 つのエージェントで監視する方式のエージェントを「シングルインスタンスエージェント」と呼びます。これに対して監視対象がマルチインスタンスをサポートする場合、監視対象のインスタンスごとにエージェントで監視する方式のエージェ

ントを「マルチインスタンスエージェント」と呼びます。マルチインスタンスエージェントの各エージェントを「インスタンス」と呼びます。

エージェント

パフォーマンスデータを収集する PFM - Agent のサービスのことです。

(カ行)

監視テンプレート

PFM - Agent に用意されている、定義済みのアラームとレポートのことです。監視テンプレートを使用することで、複雑な定義をしなくても PFM - Agent の運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。

管理ツール

サービスの状態の確認やパフォーマンスデータを操作するために使用する各種のコマンドまたは GUI 上の機能のことです。次のことができます。

- サービスの構成および状態の表示
- パフォーマンスデータの退避および回復
- パフォーマンスデータのテキストファイルへのエクスポート
- パフォーマンスデータの消去

(サ行)

サービス ID

Performance Management プログラムのサービスに付加された、一意の ID のことです。コマンドを使用して Performance Management のシステム構成を確認する場合、または個々のエージェントのパフォーマンスデータをバックアップする場合などは、Performance Management プログラムのサービス ID を指定してコマンドを実行します。サービス ID は、次の 4 つから構成されます。

- プロダクト ID
- 機能 ID
- インスタンス番号
- デバイス ID

収集データ追加ユーティリティ

ユーザーレコードに格納されるパフォーマンスデータを設定するための機能のことです。収集データ追加ユーティリティは、Windows の [スタート] メニューから実行します。

スタンドアロンモード

PFM - Agent 単独で起動している状態のことです。PFM - Manager の Master Manager サービスおよび Name Server サービスが、障害などのため起動できない状態でも、PFM - Agent だけを起動して、パフォーマンスデータを収集できます。

ステータス管理機能

PFM - Manager および PFM - Agent 上で動作するすべてのサービスの状態を管理する機能です。ステータス管理機能を用いると、システム管理者は各ホストでのサービスの起動や停止などの状態を正しく把握できるため、障害復旧のための適切な対処を迅速に行うことができます。

(タ行)

単数インスタンスレコード

1 行で記録されるレコードです。このレコードは、固有の ODBC キーフィールドを持ちません。

→ 「[インスタンス](#)」を参照してください。

データベース ID

PFM - Agent の各レコードに付けられた、レコードが格納されるデータベースを示す ID です。データベース ID は、そのデータベースに格納されるレコードの種類を示しています。データベース ID を次に示します。

- PI : PI レコードタイプのレコードのデータベースであることを示します。
- PD : PD レコードタイプのレコードのデータベースであることを示します。

データモデル

各 PFM - Agent が持つレコードおよびフィールドの総称のことです。データモデルは、バージョンで管理されています。

ドリルダウンレポート

レポートまたはレポートのフィールドに関連づけられたレポートです。あるレポートの詳細情報や関連情報を表示したい場合に使用します。

(ハ行)

バインド

アラームをエージェントと関連づけることです。バインドすると、エージェントによって収集されているパフォーマンスデータが、アラームで定義したしきい値に達した場合、ユーザーに通知できるようになります。

パフォーマンスデータ

監視対象システムから収集したリソースの稼働状況データのことです。

フィールド

レコードに含まれる個々の稼働情報です。Performance Management での監視項目に該当します。例えば、System Overview(PI)レコードの場合は、CPU %や Page Faults/sec などがフィールドに相当します。

複数インスタンスレコード

複数行で記録されるレコードです。このレコードは、固有の ODBC キーフィールドを持っています。

→ 「[インスタンス](#)」を参照してください。

物理ホスト

クラスタシステムを構成する各サーバに固有な環境のことです。物理ホストの環境は、フェールオーバー時にもほかのサーバに引き継がれません。

プロダクト ID

該当する Performance Management プログラムのサービスが、Performance Management のどのプログラムプロダクトのものかを示す 1 バイトの識別子のことです。サービス ID の一部です。

(ヤ行)

ユーザーレコード

デフォルトでは用意されていないパフォーマンスデータを収集し、特定のレコードに格納するように、ユーザーが設定したレコードです。ユーザーレコードを設定すると、収集したパフォーマンスデータを PFM - Web Console から監視できます。ユーザーレコードには、次の種類があります。

- Application Summary (PD_APP)
- Generic Data Detail (PD_GEND) レコード
- Generic Data Interval (PI_GENI) レコード
- Event Log (PD_ELOG) レコード
- User Data Detail (PD_UPD)
- User Data Detail - Extended (PD_UPDB)
- User Data Interval (PI_UPI)
- User Data Interval - Extended (PI_UPIB)

- Workgroup Summary (PI_WGRP) レコード

(ラ行)

ライフタイム

各レコードに収集されるパフォーマンスデータの一貫性が保証される期間のことです。

リアルタイムレポート

監視対象の現在の状況を示すレポートです。

履歴レポート

監視対象の最近から現在までの状況を示すレポートです。

レコード

目的ごとに分類された稼働情報の集まりです。例えば、SystemOverview(PI)レコードは、CPU 使用率や物理メモリー領域の未使用サイズなど、システムの概要を把握するための稼働情報の集まりです。監視エージェントは、レコードの単位で稼働情報を収集します。収集できるレコードは、エージェントプログラムによって異なります。

レポート

PFM - Agent が収集したパフォーマンスデータをグラフィカルに表示する際の情報を定義したものです。主に、次の情報を定義します。

- レポートに表示させるレコード
- パフォーマンスデータの表示項目
- パフォーマンスデータの表示形式 (表, グラフなど)

(ワ行)

ワークグループ

PFM - Agent for Platform が実行されているプロセスを監視するまとまりの単位のことです。ワークグループは、次の単位で指定できます。

- Windows ユーザー
- Windows グループ
- プロセスによって実行されているプログラム

索引

A

- Action Handler 353
- Active Server Pages Throughput (PI_ASPT) レコード 210
- Agent Collector 353
- Agent Collector サービスのプロパティ一覧 320
- Agent Store 353
- Agent Store サービスのプロパティ一覧 315
- APNT Condition(5.0)レポート 112
- APNT Condition Detail(5.0)レポート 113
- APNT Condition Summary(5.0)レポート 115
- APNT Errors/sec アラーム 86
- APNT Reqs Queued アラーム 88
- APNT Reqs Rejected アラーム 89
- APNT Reqs Trend(5.0)レポート 116
- APNT Trans Trend(5.0)レポート 117
- Application Layer Overview (PI_TRAL) レコード 213
- ASP Condition Detail レポート 119
- ASP Condition Summary レポート 120
- ASP Condition レポート 118
- ASP Errors/sec アラーム 91
- ASP Reqs Queued アラーム 93
- ASP Reqs Rejected アラーム 95
- ASP Reqs Trend レポート 121
- ASP Trans Trend レポート 122

B

- Bandwidth Throttling Trend レポート 123

C

- Cache Summary レポート 124
- Cache Trend レポート 125, 126
- Correlator 353

D

- DataLink Layer Overview (PD_TRDL) レコード 219
- Data Link Status レポート 127

F

- File System Cache (PI) レコード 221
- FTP Bytes Trend レポート 129, 130
- FTP Bytes レポート 128
- FTP Conns Trend レポート 132, 133
- FTP Conns レポート 131
- FTP Files Trend レポート 135, 136
- FTP Files レポート 134
- FTP User Overview (PI_ANAF) レコード 223
- FTP Users Detail レポート 137
- FTP Users Trend レポート 138

H

- HA クラスタシステム 59
- HTTP Not-Found Errors Trend レポート 139

I

- IIS7.5 環境のレコード収集可否表 255
- IIS8.0 環境のレコード収集可否表 263
- IIS8.5 環境のレコード収集可否表 271
- IIS Bandwidth Throttling (PI_BT) レコード 225
- IIS File Transfer (PI_FLTR) レコード 227
- IIS Thread Count (PI_TCNT) レコード 229
- IIS Thread Details (PD) レコード 231
- IIS WorkingSet (PI_WS) レコード 233
- Internet Status レポート 140
- Internet Trend レポート 141, 142
- IP アドレスの設定 28

J

- JP1/SLM 353
- JP1/SLM との連携 343

jpccconf db define コマンド 48
jpchosts ファイル 70
jpcras コマンド 300, 304
jpcsto.ini の設定項目 49
jpcsto.ini ファイルの編集手順 50

L

Logical Disk Detail レポート 144
Logical Disk Overview (PI_LGDP) レコード 235
Logical Disk Queue アラーム 97
Logical Disk Summary レポート 145
Logical Disk Trend レポート 146, 147
Logical Disk レポート 143

M

Master Manager 353
Master Store 353
Mem Available Bytes アラーム 98
Memory(5.0)レポート 148
Memory Cache Summary(5.0)レポート 149
Memory Cache Trend(5.0)レポート 150, 151
Memory Summary(5.0)レポート 152
Memory Trend(5.0)レポート 153, 154
Memory Usage Status(5.0)レポート 155
Monitoring Connection (PI_CONN) レコード 237

N

Name Serve 353
Network Layer Overview (PI_TRNL) レコード 239
Network Trend レポート 156
Not Found Errors (PI_NFE) レコード 241

O

ODBC キーフィールド 354
ODBC キーフィールド一覧 196

P

Pages Reads/sec アラーム 100

PD 231
PD_TRDL 219
PD レコードタイプ 16, 354
Performance Management 354
Performance Management システムの障害回復 309
Performance Management の障害検知 308
Performance Management プログラム 31
PFM - Agent 354
PFM - Agent for IIS のアンインストールとアンセットアップの流れ 75
PFM - Agent for IIS のアンセットアップ 76
PFM - Agent for IIS のインストール手順 36
PFM - Agent for IIS のシステム構成の変更 47
PFM - Agent for IIS の接続先 PFM - Manager の設定 42
PFM - Agent for IIS のセットアップファイル 40
PFM - Agent for IIS の特長 15
PFM - Agent for IIS のプロパティ 315
PFM - Agent for IIS の論理ホスト環境をセットアップする 69
PFM - Agent for IIS を登録する 68
PFM - Base 354
PFM - Manager 354
PFM - Manager および PFM - Web Console への PFM - Agent for IIS の登録 38
PFM - Manager が停止した場合の影響 62
PFM - Manager 名 355
PFM - View 名 355
PFM - Web Console 355
Physical Disk Detail レポート 158
Physical Disk Overview (PI_PYDP) レコード 243
Physical Disk Queue アラーム 102
Physical Disk Summary レポート 159
Physical Disk Trend レポート 160, 161
Physical Disk レポート 157
PI 221
PI_ANAF 223
PI_ANAW 251
PI_APNT 215, 343

PI_ASPT 210, 343
PI_BT 225
PI_CONN 237
PI_FLTR 227
PI_LGDP 235
PI_NFE 241
PI_PA 245
PI_PYDP 243
PI_TCNT 229
PI_TCPC 247
PI_TRAL 213, 343
PI_TRNL 239
PI_TRTL 249
PI_WS 233, 343
PI_WSC 253, 343
PI レコードタイプ 16, 355
PL レコードタイプ 355
Process Info Inetinfo Trend レポート 162
Processor Activity (PI_PA) レコード 245
Processor Detail レポート 164
Processor Summary レポート 165
Processor Trend レポート 166
Processor レポート 163
Product Detail レコードタイプ 355
Product Interval レコードタイプ 355
Product Log レコードタイプ 355

S

SMTP Bytes Trend レポート 167, 168
SMTP Messages Trend レポート 169, 170
Store データベース 16, 356
Store データベースに格納されているデータをエクスポートすると出力されるフィールド 205
Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド 203
Store バージョン 2.0 のセットアップ 52
Store バージョン 2.0 への移行 51

T

TCP Connection Overview (PI_TCPC) レコード 247
TCP Conns Trend レポート 171
TCP Trend レポート 172
Thread Count Status レポート 173
Thread Count Trend レポート 174
Thread Info Status レポート 175
Transport Layer Overview (PI_TRTL) レコード 249
Trap Generator 356

W

Web Bytes Trend レポート 177, 178
Web Bytes レポート 176
Web Conns Trend レポート 180, 181
Web Conns レポート 179
Web Files Trend レポート 183, 184
Web Files レポート 182
Web User Overview (PI_ANAW) レコード 251
Web Users Detail レポート 185
Web Users Trend レポート 186, 187
Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定 56
Windows イベントログの一覧 284
WWW Cache Status(5.0)レポート 188
WWW Cache Trend(5.0)レポート 189, 190

あ

アクション 17, 356
アラーム 17, 356
アラーム一覧 85
アラームテーブル 17, 356
アラームの記載形式 84
アンインストール 44
アンインストール手順 45
アンインストールとアンセットアップ 75
アンインストール前の注意事項 44

い

- インスタンス 356
- インストール 36, 67
- インストールから運用開始までの流れ 63, 65
- インストールとセットアップ 25, 63
- インストールとセットアップの流れ 26
- インストールに必要な OS ユーザー権限 30
- インストールの前に確認すること 28
- インストール前の注意事項 33

え

- エイリアス名 28
- エージェント 357

か

- 各バージョンの変更内容 344
- 稼働状況監視の例 23
- 稼働状況ログ 297
- 監視対象プログラム 31
- 監視テンプレート 17, 22, 357
- 監視テンプレートについて 22
- 管理ツール 357

き

- 起動・停止の確認 74
- 共通メッセージログ 296
- 共有ディスクをオフラインにする 79
- 共有ディスクをオンラインにする 68

く

- クラスタ運用時のディスク占有量 311
- クラスタシステムでのインストールとセットアップについて 31
- クラスタシステムでの運用 58
- クラスタシステムでの環境を設定する 74
- クラスタソフトの登録を解除する 80
- クラスタソフトへ PFM - Agent for IIS を登録する 72
- クラスタソフトへ登録する 72

け

- 言語環境の設定 38

こ

- 構築前のシステム見積もり 311

さ

- サービス ID 357

し

- 識別子一覧 312
- システムログ 296
- 実行系ノードの論理ホスト環境をアンセットアップする 77
- 実行系ノードの論理ホスト環境をセットアップする 68
- 実ホスト名 28
- 収集データ追加ユーティリティ 357
- 障害が発生した場合のフェールオーバー 61
- 障害発生時の資料採取の準備 32
- 資料採取コマンドの実行によるトラブルシューティング資料の採取方法 304
- 資料採取コマンドの実行によるトラブルシューティング資料の採取方法（論理ホスト運用の場合） 305

す

- スタンドアロンモード 358
- ステータス管理機能 308, 358

せ

- 性能情報監視の例 23
- 接続先 PFM - Manager の解除 45
- 接続先 PFM - Manager を設定する 69
- セットアップ 38, 48, 68
- セットアップコマンド 40
- 前提 OS 28
- 前提プログラム 30

そ

- その他の Performance Management プログラムの論理ホスト環境をセットアップする 70

た

- 待機系ノードの論理ホスト環境をアンセットアップする 79
- 待機系の論理ホスト環境をセットアップする 71
- 対処の手順 292
- 単数インスタンスレコード 358

て

- ディスク占有量 311
- データ型一覧 200
- データベース ID 358
- データモデル 16, 358
- データモデルについて 192
- 適用 OS および関連プログラム 59

と

- 同一ホストに Performance Management プログラムを複数インストール、セットアップするときの注意事項 33
- 動作ログ出力の設定 43
- 動作ログ出力を設定する 71
- 動作ログに出力される事象の種別 334
- 動作ログの出力 334
- 動作ログの出力形式 335
- 動作ログの保存形式 334
- 動作ログを出力するための設定 340
- トラブルシューティング 293
- トラブルシューティング時のダンプ情報の採取方法 304
- トラブルシューティング時に確認するオペレーション内容の採取方法 306
- トラブルシューティング時に採取する OS のログ情報 300
- トラブルシューティング時に採取する Performance Management の情報 301
- トラブルシューティング時に採取するオペレーション内容 302
- トラブルシューティング時に採取する画面上のエラー情報 303
- トラブルシューティング時に採取する資料の採取方法 304

- トラブルシューティング時に採取するその他の情報 303
- トラブルシューティング時に採取するその他の資料の採取方法 307
- トラブルシューティング時に採取するログ情報 296
- トラブルシューティング時に採取するログ情報の種類 296
- トラブルシューティング時に参照するログファイルおよびフォルダー一覧 297
- トラブルシューティング時の Windows イベントログ資料の採取方法 306
- トラブルシューティング時の画面上のエラー情報の採取方法 306
- トラブル発生時に採取が必要な資料 300
- トラブルへの対処方法 291
- ドリルダウンレポート 358
- ドリルダウンレポート (フィールドレベル) 103
- ドリルダウンレポート (レポートレベル) 103
- トレースログ 297

ね

- ネットワーク環境の設定 28
- ネットワークの設定 41
- ネットワークの設定をする 70

は

- バージョンアップ手順とバージョンアップ時の注意事項 332
- バージョンアップの注意事項 34
- バージョン互換 333
- バインド 17, 358
- バックアップ 54
- バックアップとリストア 54
- パフォーマンス監視 19
- パフォーマンス監視について 20
- パフォーマンス監視の目的 20
- パフォーマンス監視の例 23
- パフォーマンスデータ 359
- パフォーマンスデータの格納先の変更 42, 48
- パフォーマンスデータの格納先を変更する 70

ふ

- ファイアウォールの通過方向 314
- ファイルおよびフォルダー一覧 330
- フィールド 16, 103, 359
- フィールドの値 201
- フェールオーバー時の処理 61
- 複数インスタンスレコード 359
- 物理ホスト 359
- プログラムのインストール順序 36
- プロセス一覧 313
- プロダクト ID 359

へ

- ベースラインの選定 21

ほ

- ポート番号一覧 314
- ポート番号の設定 29
- ポート番号の設定を解除する 77

ま

- マニュアルの参照手順 57
- マニュアルを参照するための設定 56

め

- メッセージ 279
- メッセージ一覧 285
- メッセージの形式 280
- メッセージの出力形式 280
- メッセージの出力先一覧 282
- メモリー所要量 311

ゆ

- ユーザーレコード 359

よ

- 要約ルール 197

ら

- ライフタイム 360

り

- リアルタイムレポート 15, 360
- リストア 55
- 履歴レポート 15, 360

れ

- レコード 16, 103, 191, 360
- レコード一覧 207
- レコードの記載形式 193
- レコードの注意事項 206
- レポート 15, 360
- レポート一覧 107
- レポートの記載形式 103
- レポートのフォルダ構成 104

ろ

- ログのファイルサイズ変更 41
- ログのファイルサイズ変更をする 70
- 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポート 82
- 論理ホスト環境定義ファイルを待機系ノードにコピーする 79
- 論理ホスト環境定義をインポートする 71
- 論理ホスト環境定義をエクスポートする 71, 78
- 論理ホスト環境の PFM - Agent for IIS をアンセットアップする 77

わ

- ワークグループ 360